Multimet SOHO Router

NTT-ME

リファレンス ハンドブック

■商標についてのお知らせ

- MS、Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
- Macintosh、Apple Remote Accessは、アップルコンピュータ社の登録商標です。
- Ethernetは、富士ゼロックス社の登録商標です。
- Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の商標です。
- Hayesは、Hayes Microcomputer Products Inc.の商標です。
- MN128SOHOは、株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーの商標です。
- AutoARA、AutoBACP、AutoDNS、AutoMP、AutoNAT、AutoPAD、AutoPPP、ローカルアクセスサーバ（LAS）、マルチアンサーは、株式会社ビー・ユー・ジーの商標です。
- その他の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

■ご注意

- この装置は、第一種情報処理装置（商工業地域において使用されるべき情報処理装置）で商工業地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しております。したがって、住宅地域またはその隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受信機などに受信障害を与えることがあります。また、この装置の近くにコードレス電話機やテレビジョン受信機などを設置すると、雑音やノイズが発生したり、正常に動作しないことがあります。
  取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。
- 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外的要因によって、通信などの機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 通信不良によって生じた損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。また、通信内容の漏れにつきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- このマニュアルの著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべて株式会社ビー・ユー・ジーに帰属します。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で転用することは禁止されています。
- このマニュアルおよびソフトウェア、ハードウェア、外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。

もくじ

1　設定方法について

2　設定リファレンス

◎このマニュアルの表記について

Ethernet上のパソコン　：「本製品のEtherポートに接続しているパソコン」および「本製品のEtherポートにつないだハブに接続しているパソコン」のことを指します。

DTEポートのパソコン　：「本製品のDTEポートに接続しているパソコン」のことを指します。

◎使用しているマークについて

このマニュアルで、使用している記号の意味は次のとおりです。

本製品を使用する上での注意や、特に注意が必要な操作について解説しています。

操作の解説に補足することが書いてあります。参考にしてください。

Ethernet上のパソコンから設定ページを使って

次の設定をするときは、Etherポートにつないだパソコンでwwwブラウザを起動し、本製品の設定ページを開いて設定します。

◎アナログ機能の設定
詳細設定ページの［アナログ設定］画面を開いて設定します。
※電話機やATコマンドでも同じ設定ができます。設定しやすい方法を選んでください。

◎ルータ機能の設定
ルータのすべての機能を、クイック設定ページおよび詳細設定ページで設定します。
なお、ルータ機能（Ethernet上のパソコンで通信するため）の設定と、TA機能（DTEポートのパソコンで通信するため）の設定は、それぞれ独立しています。
たとえば、ルータ機能に対してISDN番号やサブアドレスなどの設定を行っても、それはTA機能に反映されません。TA機能の設定は、別途DTEポート用ATコマンドで行ってください。
TA機能の設定について詳しくは、「DTEポートのパソコンからATコマンドを使って」〈P.5〉を参照してください。

設定ページについて

設定ページで設定した内容は、本製品のフラッシュメモリに保存されます。本製品の電源をOFFにしても設定内容は失われません。

設定ページには、クイック設定ページと詳細設定ページがあります。
・クイック設定ページ
　ルータ機能を使用するために必要最低限の情報を設定します。
　詳しくは、導入／設定ガイド「5　インターネットにアクセスしましょう ～Ethernet上のパソコンから～」を参照してください。
・詳細設定ページ
　アナログ機能やルータ機能のすべての情報を設定します。

また、設定ページからは、次の操作を行うことができます。
・本製品のアナログ機能、ルータ機能の情報を設定する
・ルータ機能から接続する相手先の情報を登録する
・ルータ機能から回線を接続／切断する
・通信記録を確認する
・伝言板を使う（メッセージを投稿／確認する）
・電子メールの着信を通知する
・PHSメールを送受信する
・RVS-COMで通信するための設定をする

設定ページの開き方

設定ページはWWWブラウザを使って開きます。
本製品に付属のCD-ROMには、「Microsoft Internet Explorer」が収録されています。お使いのパソコンのハードディスクにWWWブラウザがインストールされていないときは、CD-ROMからインストールしてください。

設定ページを開くときは、WWWブラウザのURLを入力する欄に次のいずれかの文字列を指定します。
・http://［本製品のIPアドレス］/
　購入時の本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」です。本製品のIPアドレスを変更していないときは「http://192.168.0.1/」と指定します。
・http://setup.［本体の名称］/
　購入時の本体の名称は「MN128-SOHO-SL11」です。本体の名称を変更していないときは「http:// setup.mn128-soho/」と指定し
　ます。
　ただし、［ルータ設定（IP）］画面の［DHCPサーバ機能］［AutoDNS機能］をともにOFFにしている場合、この文字列を指定しても開けません。購入時は、［DHCPサーバ機能］［AutoDNS機能］ともにONになっています。
設定ページを開くと、ウィンドウの右フレームには、本製品の電源をONにしてから一番最後に開いた画面が表示されます。

ルータ機能の購入時の設定

購入時、本製品のルータ機能は次のように設定されています（オプション欄除く）。

◎接続／相手先登録

次の項目が設定されています。

※設定項目について詳しくは、「接続／相手先登録」〈P.9〉を参照してください。

・認証プロトコル	：相手先に合わせる	・最大接続時間	：180分
・通信チャネル	：1B(64Kbps)	・最大接続時間経過後の自動接続	：不許可
・使用するチャネル	：常にチャネル1	・時間帯による制限	：制限なし
・通信チャネル2	：2B(128Kbps)	・自動接続可能な時間帯	：00:00から00:00まで
・通信チャネル2の時間帯	：23:00から07:55まで	・終了時刻で強制切断	：する
・接続モード	：端末型接続	・相手からの着信	：応じない
・コールバック発信	：なし	・認証プロトコル	：相手先に合わせる
・自動切断タイマ１	：150秒	・コールバック着信	：不許可
・使用するタイマ	：常にタイマ１	・通信チャネル	：2B(128Kbps)まで許可
・自動切断タイマ２	：0秒	・時間帯による着信制限	：制限なし
・タイマ２の時間帯	：23:00から07:55まで	・着信を許可する時間帯	：00:00から00:00まで
・終了時刻で強制切断	：する	・終了時刻で強制切断	：する
・料金による制限	：3000円/7日	・暗号化	：しない
・接続回数による制限	：20回/60分	・データ鍵更新時間	：30分ごと

［自動接続制限］に属する設定項目（［料金による制限］から［終了時刻で強制切断］まで）について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」を参照してください。

◎自動接続相手先

※設定項目について詳しくは、「自動接続相手先」〈P.18〉を参照してください。

・自動接続相手先１	：なし	・自動接続相手先２	：なし

◎ルータ設定（本体）

次の項目が設定されています。

※設定項目について詳しくは、「ルータ設定（本体）」〈P.19〉を参照してください。

・ルータ名称	：MN128-SOHO-SL11	・停電時のアナログポート1給電	：給電停止
・通信料金情報の消去	：しない	・自動時刻修正	：する
・消去する日	：毎月1日	・NTPサーバアドレス（プライマリ）	：133.100.9.2
・回線接続中の液晶表示	：経過時間のみ表示	・NTPサーバへの経由先	：#0
・液晶バックライト	：自動（更新時のみ点灯）	・修正する間隔	：7日ごと
・設定ページの色調	：緑		
・停電時のアナログポート1給電（オンフック時）	：給電停止		

◎ルータ設定（ユーザ）

次の項目が設定されています。

※設定項目について詳しくは、「ルータ設定（ユーザ）」〈P.21〉を参照してください。

・ユーザID（管理者）	：admin	・アクセス権（ユーザ2）	：［接続／切断］ ［メール着信通知#2関連］ ［PHSメール送信／一覧］ ［伝言板投稿／表示］ をチェック
・ユーザID（ユーザ1）	：user		
・ユーザID（ユーザ2）	：user2		
・ユーザID（ユーザ3）	：user3		
・アクセス（ユーザ1）	：許可		
・アクセス（ユーザ2）	：許可	・アクセス権（ユーザ3）	：［接続／切断］ ［PHSメール送信／一覧］ ［伝言板投稿／表示］ をチェック
・アクセス（ユーザ3）	：許可		
・アクセス権（ユーザ1）	：［接続／切断］ ［メール着信通知#1関連］ ［PHSメール送信／一覧］ ［伝言板投稿／表示］ をチェック		

◎ルータ設定（IP）

次の項目が設定されています。

※設定項目について詳しくは、「ルータ設定（IP）」〈P.23〉を参照してください。

・本体のIPアドレス/サブネットマスク長	：192.168.0.1/24	・ローカルアクセスサーバ機能	：ON
・ブロードキャストアドレス	：全て1	・DTEポートIPアドレス	：192.168.0.200
・RIP送受信モード	：送信と受信を行う	・LAS着信番号	：#######
・DHCPサーバ機能	：ON	・リモートアクセスサーバ機能	：OFF
・開始IPアドレス/個数	：192.168.0.2/32	・RADIUS認証機能	：OFF
・リース時間	：24時間	・RADIUSアカウント機能	：OFF
・AutoDNS機能	：ON	・SYSLOGファシリティ	：1

購入時、［ルータ設定（IP）］画面に設定されているコマンド

購入時、オプション欄には次のコマンドが入力されています。

```
ip filter 28 reject dns 9 qtype 6
ip filter 29 restrict out * * tcpfin * * remote *
ip filter 30 restrict out * * * * 137-139 remote *
ip filter 31 restrict out * * * 137-139 * remote *
ip filter 32 restrict out * * udp 137 domain remote *
```

詳しくは、活用ガイド 第１部「2-2　接続する」の「自動接続する」および「意図しない自動接続をするときは」を参照してください。

◎ルータ設定（ISDN）

次の項目が設定されています。

※設定項目について詳しくは、「ルータ設定（ISDN）」〈P.33〉を参照してください。

・回線種別	：ISDN	・発信割り込み	：許可
・ISDN番号*サブアドレス	：*1	・着信割り込み	：許可

◎メール着信通知設定#1/#2

※設定項目について詳しくは、「メール着信通知設定#1/#2」〈P.34〉を参照してください。

・メール着信自動通知	：しない	・表示する内容	：［From］［To］［Cc］［Subject］［Size］をチェック
・確認時間	：時刻（時:分/日間隔）で設定		
・接続する相手先	：#0		
・メール転送	：しない	・フィールド	：Subjectが
・ヘッダを本文へ挿入	：しない	・照合	：を含む
・PHSメールで通知	：しない	・フィルタリング	：メールを通知する
・着信メール一覧ページへ表示	：する	・その他のメール	：メールを通知する
・挿入する内容	：［Date］［From］［Subject］をチェック		

◎PHSメール設定

※設定項目について詳しくは、「PHSメール設定」〈P.37〉を参照してください。

・PHSメールの着信	：しない	・LED、液晶ディスプレイへの着信通知	：しない
・着信メッセージの伝言板への表示	：しない		

DTEポートのパソコンや電話機から行えるルータ機能の設定

ルータ機能に関する操作の中で、DTEポートのパソコンやアナログポートの電話機から行えるものがあります。

・本製品のIPアドレスとサブネットマスク長の設定/設定確認
　詳しくは、活用ガイド 第１部「1-2　本製品のIPアドレスを変更する」を参照してください。

・本製品のルータ機能に関する設定の消去
　詳しくは、導入／設定ガイド「7　困ったときは」の「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」を参照してください。

DTEポートのパソコンではATコマンド（ルータ機能用および全設定消去用）を、アナログポートの電話機では設定コード（ルータ機能用および全設定消去用）を使います。

ATコマンド・設定コード（ルータ機能用）について詳しくは「ルータ機能用　ATコマンド・設定コードリファレンス」〈P.51〉、ATコマンド・設定コード（全設定消去用）について詳しくは「全設定消去用　ATコマンド・設定コード」〈P.99〉を参照してください。

DTEポートのパソコンからATコマンドを使って

次の設定をするときは、DTEポートにつないだパソコンからATコマンドを入力します。
なお、ATコマンドを入力するには、ターミナル画面を表示できる通信ソフトウェアを用意する必要があります。

◎ルータ機能の設定
Etherポートのパソコンで設定ページを開けなくなったときなどに、ルータ機能用のATコマンドを使って、本製品のIPアドレスを変更することができます。
ルータ機能用のATコマンドについて詳しくは、「ルータ機能用　ATコマンド・設定コードリファレンス」〈P.51〉を参照してください。

◎アナログ機能の設定
アナログ機能用のATコマンドを使って、アナログ機器を接続したときの呼び出し方法などを設定します。
アナログ機能用のATコマンドについて詳しくは、「アナログ機能用　ATコマンド・設定コードリファレンス」〈P.52〉を参照してください。
※設定ページや電話機からも同じ設定ができます。設定しやすい方法を選んでください。

◎TA機能の設定
TA機能の設定内容を表示したいとき、TA機能を使いこなしたいときなどに、TA機能用のATコマンドを使って詳細な設定をします。
本製品に付属のINFファイルおよびCCLファイルを使って基本的なデータ通信をするときには、ほとんどの場合はATコマンドを入力する必要はありません。
TA機能用のATコマンドについて詳しくは、「TA機能用　ATコマンドリファレンス」〈P.67〉を参照してください。

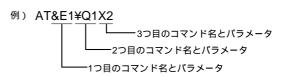
◎本体の設定
本体設定用のATコマンドを使って、本製品の液晶ディスプレイの設定をします。
本体設定用のATコマンドについて詳しくは、「本体設定用　ATコマンド・設定コードリファレンス」〈P.65〉を参照してください。
※設定ページや電話機からも同じ設定ができます。設定しやすい方法を選んでください。

◎本製品の全設定の消去
「*D」コマンドを実行すると、本製品のすべての設定を消去することができます。
詳しくは、「全設定消去用　ATコマンド・設定コード」〈P.99〉を参照してください。

ATコマンドの書式

ATコマンドは、本製品の状態を設定したり、本製品を動作させたり（ダイヤルさせるなど）するためのコマンドです。
基本的には「AT」という文字から始め、次の書式で設定します。

AT{コマンド名}{パラメータ}
［Enter］キーを押すと、コマンドが実行されます。

例）
なお、コマンド名、パラメータは2つ以上続けて設定することができます。
※コマンドによっては、2つ以上続けて設定できないことがあります。

例）
ATコマンドの入力方法

ATコマンドで設定するときは、ターミナル画面を表示できる通信ソフトを用意して、ATコマンドを入力できる状態に切り替えます。ここでは、Windows98のハイパーターミナルを例に、具体的な入力方法を解説します。

1 ［スタート］メニューの［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］から、［ハイパーターミナル］を選択します。
［HyperTerminal］ウィンドウが表示されます。

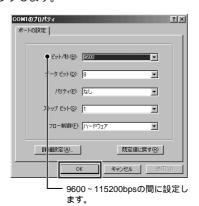
2 ［Hypertrm］アイコンをダブルクリックします。

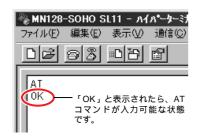
3 ［接続の設定］ダイアログが表示されます。名前を入力し、アイコンを選択したら、［OK］ボタンをクリックします。
※名前は好きなものを入力します。ここでは例として「MN128-SOHO SL11」と入力します。

4 ［電話番号］ダイアログが表示されます。ダイアログの内容を設定したら、［OK］ボタンをクリックします。
※「Com×」は「Com1」など、本製品のDTEポートに接続されているパソコン本体のポートを指します。接続したCOMポート番号がわからないときは、パソコンをお買い上げの販売店などへお問い合わせください。

［Com×へダイレクト］を選択します。

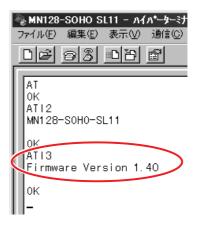
5 ［COM×のプロパティ］ダイアログが表示されます。ダイアログの内容を設定したら、［OK］ボタンをクリックします。

9600〜115200bpsの間に設定します。

6 ターミナル画面が表示されます。「AT」と入力し、［Enter］キーを押します。

「OK」と表示されたら、ATコマンドが入力可能な状態です。

7 「ATI2」と入力し、［Enter］キーを押します。

製品名（MN128-SOHO-SL11）が表示されます。
※MN128-SOHO-SL11以外が表示される場合は、COMポートを確認してください。

8 「ATI3」と入力し、［Enter］キーを押します。

本製品の現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

応答コードについて

ATコマンドを入力すると、パソコンから本製品に命令が送られます。ATコマンドを受け取った本製品はそのコマンドを実行し、処理結果をパソコンに送り返します。これを「応答コード」といいます。ATコマンドが正しく実行されたかどうかは、この応答コードで確認してください。
※TA機能用のATコマンドを入力した場合、「OK」「ERROR」以外にも様々な応答コードが表示されます。具体的な内容については、「TA機能用　ATコマンドリファレンス」の「応答コード一覧」〈P.82〉を参照してください。

ATコマンドが正常に実行された場合、「OK」と表示されます。

ATコマンドが正常に実行されなかった場合、「ERROR」と表示されます。

設定内容の保存、初期化について

ルータ機能用のATコマンドで設定するとき

◎設定内容を保存するには

ルータ機能用のATコマンドで設定すると、コマンドを実行したときに設定内容がフラッシュメモリに書き込まれます。

◎購入時の値に初期化するには

「*D」コマンドを実行すると、本製品のルータ機能に設定されている内容を購入時の値に戻すことができます。次のように入力してください。なお、購入時に値が設定されていない項目の内容は、すべて消去されます。

AT*D0［Enter］

※「*D」コマンドを使用して、その他の設定も消去することができます。詳しくは「全設定消去用　ATコマンド設定コード」〈P.99〉を参照してください。

アナログ機能用のATコマンドで設定するとき

◎設定内容を保存するには

アナログ機能用のATコマンドで設定した内容は、そのままでは電源をOFFにすると消えてしまいます。電源をOFFにしても設定内容を残しておきたい場合は、本製品に書き込む必要があります。設定を書き込むと、その内容が本製品のフラッシュメモリ（電源をOFFにしても内容が消えないメモリ）に保存されます。保存された設定は、本製品が起動した段階で、フラッシュメモリから自動的に読み込まれます。設定を保存するときは、次のように入力します。

AT@B［Enter］

また、次のように入力すると、現在の設定内容を表示することもできます。

- ポートごとおよびポート共通の設定をするコマンドで設定した内容を表示するとき
  → AT@C0［Enter］
- ダイヤルイン登録番号ごとに設定するコマンドで設定した内容を表示するとき
  → AT@C2［Enter］

◎購入の値に初期化するには

購入時に値が設定されているATコマンドは、設定を購入時の値に戻すことができます。次のように入力します。

AT@A1［Enter］

TA機能用のATコマンドで設定するとき

◎設定内容を保存するには

TA機能用のATコマンドで設定した内容は、そのままでは電源をOFFにすると消えてしまいます。電源をOFFにしても設定内容を残しておきたい場合は、本製品に書き込む必要があります。設定を書き込むと、その内容が本製品のフラッシュメモリ（電源をOFFにしても内容が消えないメモリ）に保存されます。保存された設定は、本製品が起動した段階で、フラッシュメモリから自動的に読み込まれます。

本製品のTA機能には、設定内容を保存するための「プロファイル」という領域があります。プロファイルには0番と1番の2種類がありますので、2とおりの設定を保存しておくことができます。

プロファイルに書き込み・読み込みをするときは、次のように入力してください。

- 書き込み
  プロファイル０番に書き込むとき　→　AT&W0［Enter］
  プロファイル１番に書き込むとき　→　AT&W1［Enter］
  ※パラメータを省略した場合は、0と見なされます。
- 読み込み
  プロファイル０番の内容を読み込むとき → ATZ0［Enter］
  プロファイル１番の内容を読み込むとき → ATZ1［Enter］
  ※パラメータを省略した場合は、0と見なされます。
  また、本製品の起動時にどちらのプロファイルの内容を読み込むかを指定することができます。次のように入力してください。
  プロファイル０番を指定するとき　→　AT&Y0［Enter］
  プロファイル１番を指定するとき　→　AT&Y1［Enter］
  ※パラメータを省略した場合は、0と見なされます。

◎購入時の値に初期化するには

Sレジスタと、購入時に値が設定されているATコマンドは、設定を購入時の値に戻すことができます。次のように入力してください。

AT&F［Enter］

データ通信をする場合、多くの通信ソフトウェアでは「&F」コマンドが実行されるため、本製品の設定が購入時の値に戻ります。そのため、ターミナル画面で行った設定は通信時には無効となり、設定を保存していない場合は通信が終了すると設定内容が消されてしまいます。

ターミナル画面では、電源投入時に有効にしたい設定をし、「&W」コマンドでプロファイルに保存しておくことをお勧めします。

データ通信をしている間だけ有効にしたい設定は、通信ソフトのモデム初期化文字列を入力する項目で行うとよいでしょう。

本体設定用のATコマンドで設定するとき

◎設定内容を保存するには

本体設定用のATコマンドで設定すると、コマンドを実行したときに設定内容がフラッシュメモリに書き込まれます。

◎購入時の値に初期化するには

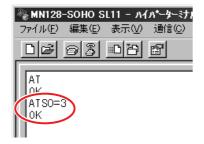
本体設定用のATコマンドで設定した内容を初期化するときは、本製品の設定ページの「ルータ設定（本体）」画面で行います。詳しくは「ルータ機能用　設定ページリファレンス」の「ルータ設定（本体）」〈P.19〉を参照してください。

設定がフラッシュメモリに直接書き込まれるコマンド

以下のコマンドは、そのコマンドを実行したときに設定内容がフラッシュメモリに書き込まれます。したがって、「&W」コマンドでプロファイルに保存する必要がありません。また、「&F」コマンドを実行しても設定が初期化されません。

- 「&Y（プロファイル選択）」〈P.71〉
- 「&Z（回線番号の登録、消去）」〈P.71〉
- 「!D（識別着信番号の登録）」〈P.74〉
- 「!M（ユーザ名とパスワードの登録）」〈P.76〉
- 「*B（回線種別の設定）」〈P.77〉
- 「$E（自サブアドレスの登録）」〈P.78〉
- 「$C（ダイヤルイン番号の登録）」〈P.78〉
- 「*C（IPアドレス/サブネットマスク長の設定）」〈P.51〉
- 「*E（回線接続中の液晶表示の設定）」〈P.65〉
- 「*F（液晶バックライトの設定）」〈P.66〉

Sレジスタについて（TA機能のみ）

Sレジスタは、本製品のTA機能の動作や状態の設定を記憶しておく領域です。Sレジスタには、一般的と思われる通信の設定が、あらかじめ初期値として記憶されています。
設定するときは、「S」コマンドを使用します。
※アナログ機能用、ルータ機能用のSレジスタはありません。

例）Sレジスタ0番を「3」に設定するとき

ATS0=3［Enter］

※Sレジスタの具体的な内容については、「TA機能用 ATコマンドリファレンス」の「Sレジスタ一覧（標準）」〈P.79〉、「Sレジスタ一覧（オリジナル）」〈P.80〉、「TA機能用 X.28コマンドリファレンス」の「Sレジスタ一覧（パケット関係）」〈P.87〉、「TA機能用 ATコマンドリファレンス（Dチャネルパケット通信時）」の「Sレジスタ一覧（標準・Dチャネルパケット通信時）」〈P.96〉、「Sレジスタ一覧（パケット関係）」〈P.97〉を参照してください。

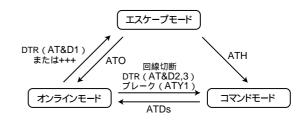
TA機能の動作状態について

本製品のTA機能の動作状態には、次の3つがあります。

・コマンドモード
本製品がパソコンからコマンドを受け取ったり、パソコンに応答コードを送ったりできる状態のことです。

・オンラインモード
本製品が相手先と接続している状態のことです。
パソコンから送られてきたデータは、本製品を通して相手先に送られます。このモードでは、コマンドを入力することはできません。

・エスケープモード
相手先と接続した状態（オンラインモード）のまま、一時的にコマンドを入力できる状態（コマンドモード）へ移った状態のことです。

各モードに移行する方法は、次のようになります。

ルータ機能用　設定ページリファレンス

オンラインヘルプについて

設定ページからオンラインヘルプを参照することができます。オンラインヘルプを表示するには、設定ページの「オンラインヘルプ」あるいは「Help」という文字をクリックします。

接続／相手先登録

［接続／相手先登録］画面では、次の操作を行います。

・相手先の情報を登録する
・相手先に回線を接続する

相手先は、16件（登録番号#0〜#15）まで登録できます。

・「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○以下の情報を登録する。
　設定した相手先の情報を登録するときに選択します。

○以下の相手先に回線を接続する。
　相手先に接続するときに選択します。なお、登録していなくても、必須項目を入力するだけで相手先に接続できます。

「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、すでに登録されている内容を変更して接続することはできません。すでに登録されている内容の相手先に接続します。

○［実行］ボタン/［やり直し］ボタン/［接続］ボタン
　登録または接続するときは、［実行］ボタンをクリックします。
　設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

　登録するときは［以下の情報を登録する。］を選択してから、接続するときは［以下の相手先に回線を接続する。］を選択してから、［実行］ボタンをクリックします。

　［接続］ボタンは、［ルータ設定（ユーザ）］画面でアクセス権について設定されている場合に、［アクセス権］で［接続／切断］が許可されていると表示されます。接続するときにクリックします。

・［実行］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、入力した内容は消去されます。
・「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。［アクセス権］で［接続／切断］が許可されているユーザは、接続だけできます。
　また、すべてのボタンが表示されないことがあります。

相手先情報

接続する相手先について設定します。

○相手先名称
　相手先の名称を入力します。
　設定した名称は、詳細設定ページの画面左側に反映されます。通信には使用されませんので、分かりやすい名前を入力してください。

○相手先電話番号１
　相手先の電話番号（32桁以内）とサブアドレス（19桁以内）を入力します。電話番号とサブアドレスは、「*」（アスタリスク）または「/」（スラッシュ）で区切ってください。

　また、PPTPを使って通信する場合は、IPアドレスを入力します。
　・発信するとき：PPTPサーバのIPアドレス
　・着信するとき（PPTPクライアントを限定するとき）：PPTPクライアントのIPアドレス
　PPTPについて詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「4-4　本製品をPPTPサーバにする」および「5-12　PPTPサーバに接続してVPNを構築する」を参照してください。
　※「"」（ダブルクォーテーション）は使用できません。

○相手先電話番号２
2個めの相手先電話番号を設定します。［相手先電話番号１］と同様に設定してください。

相手先電話番号を2個設定すると、次のように使われます。
・発信するとき：［相手先電話番号１］で接続できなかった場合（認証エラー時など除く）、［相手先電話番号２］を使って発信します。
・着信するとき：［相手先電話番号１］と一致しなかった場合、［相手先電話番号２］を使って比較します。
※「"」（ダブルクォーテーション）は使用できません。

発信時に2個の電話番号を使う
［相手先電話番号１］［相手先電話番号２］のほかに、オプション項目の［マルチダイヤルを行うか否かの設定］および［マルチダイヤルの試行回数の設定］を設定してください。
マルチダイヤル機能について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-6　発信時に2個の電話番号を使う／自動接続先を2件登録する（マルチダイヤル機能）」を参照してください。

発信

発信時に必要な情報について設定します。

○送信ユーザID
認証に必要なユーザIDを入力します。相手先（プロバイダなど）から指定されたユーザIDを入力します。

○送信パスワード
認証に必要なパスワードを入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。

※次の文字および文字列は、使用できません。
「no」「clear」の文字列、漢字、ひらがな、カタカナ

○認証プロトコル
本製品から発信して接続するときの認証プロトコルを選択します。
相手先に従ってください。

・認証を行わない
接続時に認証を行いません。

・相手先に合わせる
相手先が要求する認証プロトコル（PAPまたはCHAP）を使用します。通常はこの項目を選択してください。

・PAP
PAPを使用します。

・CHAP
CHAPを使用します。

○DNSサーバアドレス
相手先のDNSサーバのIPアドレスを入力します。
［ルータ設定（IP）］画面の［AutoDNS機能］をONにしているときだけ有効になります。

［DNSサーバアドレス］を設定するとき
AutoDNS機能を使うと、接続した相手先のDNSサーバのIPアドレスを自動的に取得します。そのため、相手先のDNSサーバのIPアドレスを設定する必要はありません。
しかし、接続する相手先によっては、DNSサーバのIPアドレスを自動的に取得できないことがあります。接続後に正しく通信できない場合には、［DNSサーバアドレス］を設定してください。
DNSサーバのIPアドレスを取得できたかどうかは、［切断／接続状況］画面で確認できます。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「6-1　回線の使用状況を確認する」を参照してください。

○通信チャネル1

Bチャネルをどのように使って通信するかを選択します。
あらかじめ、相手先（プロバイダなど）の接続条件を確認してください。

- 1B(64Kbps)
  1Bチャネル（64Kbps）固定で通信します。

- 1B(64Kbps/MP)
  1Bチャネル（64Kbps）で接続し、必要に応じて手動でもう1Bチャネルを追加してMPで通信します。
  相手先がMPに対応していないときは、［1B(64Kbps)］を選択したときと同様になります。

- 1B(64Kbps/MP+BACP)
  1Bチャネル（64Kbps）で接続し、必要に応じて手動でもう1Bチャネルを追加してMPで通信します。追加時には、Bチャネルを2本使うことができるかどうか相手先に確認します。
  相手先がMPに対応していないときは［1B(64Kbps)］を選択したときと同様になり、相手先がBACPに対応していない場合は［1B(64Kbps/MP)］を選択したときと同様になります。

手動でBチャネルを追加する

［1B(64Kbps/MP)］［1B(64Kbps/MP+BACP)］を選択すると、手動でもう1Bチャネルを追加してMPで通信することができます。
Bチャネルを追加するには、現在接続している相手先の［接続／相手先登録］画面で［以下の相手先に回線を接続する］を選択して、もう一度［実行］ボタンをクリックします。Bチャネル追加後は、回線を切断するまで2Bチャネル（128Kbps）で通信します。

- 2B(128Kbps/MP)
  MP（128Kbps）固定で通信します。
  相手先がMPに対応していないときは、［1B(64Kbps)］を選択したときと同様になります。

- 2B(128Kbps/MP+BACP)
  MP（128Kbps）固定で通信します。接続時には、Bチャネルを2本使うことができるかどうか相手先に確認します。
  相手先がMPに対応していないときは［1B(64Kbps)］を選択したときと同様になり、相手先がBACPに対応していない場合は［2B(128Kbps/MP)］を選択したときと同様になります。

- 可変(BOD)
  MP（128Kbps）で通信する際、スループットBOD機能を使います。常に1Bチャネル（64Kbps）で接続し、通信量に応じてBチャネルの本数を変更します。
  相手先がMPに対応していない場合は、［1B(64Kbps)］を選択したときと同様になります。

- 可変(BOD+BACP)
  MP（128Kbps）で通信する際、スループットBOD機能とBACP機能を使います。常に1Bチャネル（64Kbps）で接続し、通信量に応じてBチャネルの本数を変更します。変更時には、Bチャネルの本数を切り替えてもよいかどうか相手先に確認します。
  相手先がBACPに対応していない場合は、［可変(BOD)］を選択したときと同様になります。

MPで通信しているときにアナログ機器を使うには

ルータ機能でMP通信中にアナログ機器の発信または着信があったとき、ルータ機能で使用するBチャネル数を減らして、アナログ機器での通信に1Bチャネルを割り当てることができます。設定は、［ルータ設定（ISDN）］画面の［リソースBOD（アナログ通信割り込み）］で行います。

- 1B(V.110 38.4Kbps)
  1Bチャネル（V.110 38.4Kbps）固定で通信します。
  相手先はV.110に対応している必要があります。

- 1B(PIAFS 32Kbps)
  1Bチャネル（PIAFS 32Kbps）固定で通信します。
  相手先はPIAFS 32Kbpsに対応している必要があります。

- 1B(PIAFS 64Kbps)
  1Bチャネル（NTT DoCoMo方式のPIAFS 64Kbps）固定で通信します。
  相手先はPIAFS 64Kbpsに対応している必要があります。

- 1B(PIAFS Ver.2.1)
  1Bチャネル固定で、DDI POCKET方式のPIAFS 64KbpsまたはPIAFS 32Kbpsで通信します。
  相手先はPIAFS Ver.2.1に対応している必要があります。

［1B（PIAFS 64Kbps）］または［1B（PIAFS Ver.2.1）］で通信する場合は、次の点に注意してください。

- ［1B（PIAFS 64Kbps）］または［1B（PIAFS Ver.2.1）］で発信するときは、相手先に発信者番号を通知する必要があります。相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信してください。
- ［1B（PIAFS 64Kbps）］または［1B（PIAFS Ver.2.1）］で発信するときは、相手先にサブアドレスを通知しません。相手先が着信時の電話番号の認証にサブアドレスを使用しているときは、着信できません。
- INSネット64契約時に発信者番号通知サービスを「常時非通知（常時通知拒否）」で契約した場合は、［1B（PIAFS 64Kbps）］または［1B（PIAFS Ver.2.1）］で発信できません。
- PIAFS 64Kの利用可能地域や対応機種などについては、NTT DoCoMoまたはDDI Pocketまでお問い合わせください。

○通信チャネル2

指定時間内だけ［通信チャネル1］の値を変更したいときに設定します。あらかじめ、相手先（プロバイダなど）の接続条件を確認してください。

この設定内容を有効にするためには、［使用するチャネル］で「チャネル1、以下の時間帯のみチャネル2に変更」を選択し、［通信チャネル2の時間帯］で時間帯を設定します。

設定方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「2-4　接続を制限する」の「指定時間帯だけ発信に使用する通信チャネルを変更する」を参照してください。

○接続モード

こちらから発信して接続するとき、相手先とどのように接続するかを選択します。

- LAN型接続
  ほかのLANやプロバイダにLAN型ダイヤルアップ接続します。

- 端末型接続
  プロバイダに端末型ダイヤルアップ接続します。

○コールバック発信

接続を要求された側が着信を許可する代わりに接続を要求した側に回線を接続し直すことを、「コールバック接続」といいます。コールバック接続では、回線を接続し直した側に通信料金がかかります。

こちらから発信したときに、相手先にコールバック接続を要求するかどうか設定します。ただし、相手先は、CBCP（Callback Control Protocol）に対応している端末あるいはMN128-SOHOシリーズ（本製品含む）、MN128-Rに限ります。
設定方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「5-10　相手先からコールバックしてもらう」を参照してください。

- なし
  コールバック接続を要求しません。

- CBCP
  CBCPに対応している相手先の端末に、コールバック接続を要求します。

- 無課金
  MN128-SOHOシリーズ（本製品含む）あるいはMN128-Rを使っている相手先に、コールバック接続を要求します。
  コールバック接続を要求する側（こちら側）には通信料金がかかりません。

無課金のコールバック接続を要求するときは、発信時に相手先に発信電話番号を通知する必要があります。INSネット64契約時に「発信者番号通知サービス」を「常時非通知」（「通知拒否」）にした場合、無課金のコールバック接続を要求できません。

○折り返し電話番号

［コールバック発信］で［CBCP］を選択した場合、コールバック接続時に相手先にかけ直してもらう電話番号を設定できます。［ルータ設定（ISDN）］画面の［ISDN番号*サブアドレス］にかけ直してもらう場合や、［コールバック発信］で［無課金］を選択した場合は、設定する必要ありません。

自動切断

タイマを設定して自動切断します。設定方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「5-10　相手先からコールバックしてもらう」を参照してください。

○自動切断タイマ１

相手先に回線を接続中に一定時間以上通信がないときは、自動的に回線を切断することができます。
自動切断するまでの一定時間（10～9999秒）を入力します。自動切断しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。

○自動切断タイマ２
指定時間内だけ［自動切断タイマ１］の値を変更したいときに設定します。
自動切断するまでの一定時間（10〜9999秒）を入力します。指定時間内は自動切断しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。

この設定内容を有効にするためには、［使用するタイマ］で［タイマ１、以下の時間帯のみタイマ２に変更］を選択し、［タイマ２の時間帯］で時間帯を設定します。
また、終了時刻になったときに、通信中でも強制的に自動切断するかどうか［終了時刻で強制切断］で設定します。

設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」の「指定時間内の自動切断タイマを変更する」および「指定時間内は自動切断しない」を参照してください。

ネットワークの設定内容や運用によっては、長時間、回線が接続したままになることや意図していない自動接続を行うことがあります。初期導入後は、必ず［切断／接続状況］画面、［情報表示（通信料金）］画面あるいは本製品の液晶ディスプレイ・本体前面のLEDを確認してください。

［切断／接続状況］画面については導入／設定ガイド「6-1　回線の使用状況を確認する」を、［情報表示（通信料金）］画面については活用ガイド CD-ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。

特に次の環境で本製品を使用しないように注意してください。

・すでに稼動しているLANに本製品を導入する際、LANと同じサブネットのIPアドレスを本製品に設定しないまま、自動接続を行う設定にしているとき
・Ethernet上のパソコンで、定期的に回線を接続して通信を行うソフトウェアを起動しているとき

また、次の点にご注意ください。

・［自動切断タイマ２］の設定を有効にするときは、必ず、［ルータ設定（本体）］画面の［現在本体に設定されている日付と時刻］の内容が正しいか確認してください。日付と時刻は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。ご注意ください。
・本製品で通信料金を制限している場合は、INSネット64から通知される料金情報によって通信料金を積算します。INSネット64のテレホーダイを利用する場合も通常の通信時と同様に、INSネットから接続時間当たりの料金情報が通知されます。そのため、実際の通信料金が制限を越える前に、自動接続できなくなることがあります。

自動接続制限

料金、接続回数、接続時間、時間帯による制限を設定して、その制限を越えると自動接続を禁止します。ただし、手動接続は可能です。設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」を参照してください。

○料金による制限
一定期間当たりの通信料金を制限できます。積算された通信料金が制限を越えると、自動接続できなくなります。
「円（10〜100000）/日（1〜7）」を入力します。通信料金を制限しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。

ふたたび自動接続したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

・［料金による制限］の金額を増やし、再度設定する
・［情報表示（自動接続制限）］画面で料金制限をリセットする

次の点にご注意ください。

・一定期間当たりの料金の制限を設定するときは、必ず、［ルータ設定（本体）］画面の［現在本体に設定されている日付と時刻］で日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、料金制限によって積算された日数がリセットされます。ご注意ください。
・通信料金は回線切断後に確定します。そのため、回線接続中の通信料金は、［情報表示（自動接続制限）］画面の［料金制限］（現在）に反映されません。
・通信料金は、実際の料金請求額と異なることがあります。
・料金による制限は、INSネットから通知される料金情報によって通信料金を積算します。通信によっては、料金情報が通知されないことや実際の通信料金と異なる料金情報が通知されることがあります。
  たとえば、INSネット64のテレホーダイを利用する場合は、通常の通信時と同様にINSネットから接続時間当たりの料金情報が通知されます。そのため、実際の通信料金が制限を越える前に、自動接続できなくなることがあります。
  料金による制限は、あくまでも目安です。［情報表示（接続／切断ログ）］画面や［情報表示（通信料金）］画面などを確認しながら使ってください。なお、［情報表示（通信料金）］画面の情報は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると消去されます。
・ネットワークの設定内容や運用によっては正しく動作しないことがあります。

○接続回数による制限

一定期間あたりの自動接続できる回数を制限できます。積算された回数が制限を越えると、自動接続できなくなります。
「回（1～9999）/分（1～1440）」を入力します。回数を制限しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。

ふたたび自動接続したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

・［接続回数による制限］の回数を増やし、再度設定する
・［情報表示（自動接続制限）］画面で料金制限をリセットする

次の点にご注意ください。

・一定期間当たりの自動接続できる回数の制限を設定するときは、必ず、［ルータ設定（本体）］画面の［現在本体に設定されている日付と時刻］で日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。ご注意ください。
・自動接続できる回数の制限は、あくまでも目安です。［情報表示（接続／切断ログ）］画面や［情報表示（通信料金）］画面などを確認しながら使ってください。
・ネットワークの設定内容や運用によっては正しく動作しないことがあります。

○最大接続時間

相手先との接続を保持する最大時間を制限できます。回線接続後、設定した時間が経過すると、通信中でも回線を切断します。
「分（10～9999）」を入力します。接続時間を制限しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。

最大接続時間の制限を設定するときは、必ず、［ルータ設定（本体）］画面の［現在本体に設定されている日付と時刻］で日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、回数制限によって積算された時間がリセットされます。ご注意ください。

○最大接続時間経過後の自動接続

最大接続時間の設定よって回線が切断されたあと、自動接続を禁止できます。

自動接続できなくなった場合、［情報表示（自動接続制限）］画面で再発信制限をリセットすると、ふたたび自動接続できるようになります。

○時間帯による制限

自動接続できる時間帯を制限できます。
制限するときは、［自動接続可能な時間帯］で時間帯を設定します。
また、終了時刻になったときに、通信中でも強制的に自動切断するかどうか［終了時刻で強制切断］で設定します。

時間帯による自動接続の制限を設定するときは、必ず、［ルータ設定（本体）］画面の［現在本体に設定されている日付と時刻］で日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、回数制限によって積算された時間がリセットされます。ご注意ください。

着信

着信時に必要な情報について設定します。設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「第４章　着信する」を参照してください。

○相手からの着信

相手先からの着信を許可するかどうかを選択します。

・応じない
着信を許可しません。

・応じる
着信を許可します。

・応じる（RADIUSによる認証）
着信を許可するかどうかの認証をLAN内のRADIUSサーバに任せます。

RADIUSについて詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-13　RADIUSサーバを利用する」を参照してください。

○受信ユーザID

着信時の認証にユーザIDを使うときに設定します。

○受信パスワード
着信時の認証にパスワードを使うときに設定します。

※次の文字および文字列は、パスワードに使用できません。
「no」「clear」の文字列、漢字、ひらがな、カタカナ

○認証プロトコル
相手先から着信されて接続するときの認証プロトコルを選択します。

・認証を行わない
接続時に認証を行いません。

・相手先に合わせる
相手先が要求する認証プロトコル（PAPまたはCHAP）を使用します。

・PAP
PAPを使用します。

・CHAP
CHAPを使用します。

○コールバック着信
接続を要求された側が着信を許可する代わりに接続を要求した側に回線を接続し直すことを、「コールバック接続」といいます。
コールバック接続では、回線を接続し直した側に通信料金がかかります。
本製品がコールバック接続できるのは、相手先がMN128-SOHOシリーズ（本製品を含む）、MN128-RもしくはCBCP（Callback Control Protocol）対応の端末（Windows95のダイヤルアップネットワークなど）を使っているときだけです。

着信されたときに、相手先からのコールバック接続要求を許可するかどうか設定します。

・不許可
コールバック接続要求を許可しません。

・許可
コールバック接続要求を許可します。

・コールバックのみ着信
コールバック接続を要求する相手先だけに着信を許可します。コールバック接続要求を許可します。

次の点にご注意ください。

・コールバック接続を要求される側（本製品側）は相手先に発信電話番号を通知してください。本製品側がINSネット64契約時に「発信者通知サービス」を「常時非通知」（「通知拒否」）にした場合、本製品からコールバックしても相手先に着信できません。
・相手先が無課金コールバック接続を要求するときは、相手先から発信電話番号を通知してもらう必要があります。相手先がINSネット64契約時に「発信者通知サービス」を「常時非通知」（「通知拒否」）にした場合、本製品から無課金コールバックできません。
・相手先がCBCPコールバック接続を要求する場合、相手先が発信に使った機器の電話番号にかけ直すときは、相手先から発信電話番号を通知してもらう必要があります。相手先がかけ直す番号を指定しているとき、あるいは、本製品で折り返し電話番号を指定しているときは、「発信者通知サービス」の内容に関わらずコールバックできます。

○折り返し電話番号
こちらから回線を接続し直す電話番号を設定できます。
相手先が発信に使った端末の電話番号にかけ直すとき、あるいは、相手先がかけ直す電話番号を指定しているときは、設定する必要ありません。

○通信チャネル
相手先から着信されたときに使用するBチャネルの数を選択します。

・2B(128Kbps)まで許可
2Bチャネルまでは、相手先の要求に応じます。

・1B(64Kbps)に限定
1Bチャネルだけ使えます。

○時間帯による着信制限
　着信できる時間帯を制限できます。
　制限するときは、［着信を許可する時間帯］で時間帯を設定します。
　また、終了時刻になったときに、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを［終了時刻で強制切断］で設定します。

時間帯による着信の制限を設定するときは、必ず、［ルータ設定（本体）］画面の［現在本体に設定されている日付と時刻］で日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定「1996/01/01-00:00」に戻ります。また、回数制限によって積算された時間がリセットされます。ご注意ください。

暗号化

本製品同士で接続する際に、暗号化したデータをやり取りするために必要な情報について設定します。設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-14　本製品同士で暗号化されたデータをやり取りする」を参照してください。

○暗号化
　本製品から送信するデータを暗号化するかどうかを設定します。

○鍵配送鍵
　送信するデータを暗号化するために「データ鍵」を使います。
　そのデータ鍵を暗号化する「鍵配送鍵」を、英数字（4～16文字）で入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。
　こちらと相手先とで、同じ英数字（鍵配送鍵）を設定してください。

　なお、データ鍵は接続するたびに乱数を使って本製品内部で作られます。通信中も［データ鍵更新時間］で設定した時間ごとに変更されます。

○データ鍵更新時間
　接続後に、相手先にデータ鍵の変更を要求できます。
　要求する時間間隔（1～1440分）を入力します。回線を切断するまでデータ鍵を変更しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。

オプション

相手先によっては、特別な設定が必要なことがあります。その場合には、ここで設定します。
入力欄をクリックするとカーソルが表示されるので、コマンドを入力してください。コマンドを入力する際は、以下の点を注意してください。

・{ }で囲まれている部分がパラメータです。パラメータの区切りには、半角スペースを入力します。パラメータによっては「/」（スラッシュ）が必要なものがあります。
・太字は、購入時の値を意味します。
・［　］内はオプションです。付けても付けなくても構いません。
・「¦」は「あるいは」を意味します。いずれかのパラメータを選択してください。
・オプション以外のパラメータを省略すると、設定できません。
・複数のコマンドを設定するときは、コマンドごとに改行してください。

スループットBODによるBチャネル追加の設定

通信中にスループットBOD機能を使用して、Bチャネルを追加する際のパラメータを設定します。評価時間ごとに通信量を判定し、「計測回数」以上連続して「回線利用率」を越えた場合、Bチャネルが追加されます。
一度Bチャネルが追加されると、最小保持時間が経過するまでBチャネルは削除されません。ただし、［自動切断タイマ１/２］で設定した時間が最小保持時間より短いなどの場合は、自動切断によって回線が切断されることがあります。

書式　remote {rnumber} bod connect {rate} {times} {interval} {hold}

パラメータ

{rnumber}=0～15	相手先番号（登録番号#0～#15）
{rate}=10～100 （初期値=70）	Bチャネルの追加を行うかどうかの判定基準となる 回線利用率（しきい値）（単位：%）
{times}=1～100 （初期値=1）	計測回数
{interval}=5～100 （初期値=10）	Bチャネルを追加するための評価時間（単位：秒）
{hold}=1～255 （初期値=10）	Bチャネル追加状態の最小保持時間（単位：秒）

設定例　相手先#1との通信中にスループットBOD機能を使用してBチャネルを追加する場合、回線利用率を50%、計測回数を3回、評価時間を15秒、最小保持時間を30秒に設定するとき
→　remote 1 bod connect 50 3 15 30

スループットBODによるBチャネル削除の設定

通信中にスループットBOD機能を使用して、Bチャネルを削除する際のパラメータを設定します。評価時間ごとに通信量を判定し、「計測回数」以上連続して「回線利用率」を下回った場合、Bチャネルが削除されます。

書式　remote {rnumber} bod disconnect {rate} {times} {interval}

パラメータ
- {rnumber}=0～15　相手先番号（登録番号#0～#15）
- {rate}=10～100（初期値=30）　Bチャネルの削除を行うかどうかの判定基準となる回線利用率（しきい値）（単位：%）
- {times}=1～100（初期値=2）　計測回数
- {interval}=5～100（初期値=10）　Bチャネルを削除するための評価時間（単位：秒）

設定例　相手先#1との通信中にスループットBOD機能を使用してBチャネルを削除する場合、回線利用率を45%、計測回数を5回、評価時間を20秒に設定するとき
→　remote 1 bod disconnect 45 5 20

IPアドレスネゴシエーションの設定

接続時にIPアドレスオプションのネゴシエーションを行なうかどうかを設定します。

書式　remote {rnumber} ppp ipcp address {off|on}

パラメータ
- {rnumber}=0～15　相手先番号（登録番号#0～#15）
- {off|on}　PPP（IPCP）でIPアドレスオプションのネゴシエーションを行うかどうか
  - off　行わない
  - on　行う

設定例　相手先#1と接続する際、IPアドレスオプションのネゴシエーションを行わないとき
→　remote 1 ppp ipcp address off

DNSサーバアドレスネゴシエーションの設定

接続時にDNSサーバアドレスのネゴシエーションを行なうかどうかを設定します。

書式　remote {rnumber} ppp ipcp dns {off|on}

パラメータ
- {rnumber}=0～15　相手先番号（登録番号#0～#15）
- {off|on}　PPP（IPCP）でDNSサーバアドレスのネゴシエーションを行うかどうか
  - off　行わない
  - on　行う

設定例　相手先#1と接続する際、DNSサーバアドレスのネゴシエーションを行わないとき
→　remote 1 ppp ipcp dns off

相手先ルータアドレスの設定

相手先ルータのIPアドレスを設定します。

書式　remote {rnumber} rmtaddress {address}

パラメータ
- {rnumber}=0～15　相手先番号（登録番号#0～#15）
- {address}　相手先ルータのIPアドレス
  ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

設定例　相手先#1のルータのIPアドレス「192.168.5.100」を設定するとき
→　remote 1 rmtaddress 192.168.5.100

WAN側アドレスの設定

相手先との接続形態がLAN型で、WAN側で別のサブネットを使用するnumbered接続のとき、本装置のWAN側のIPアドレスを設定します。

書式　remote {rnumber} wanaddress [{address}]/{mask}

パラメータ
- {rnumber}=0～15　相手先番号（登録番号#0～#15）
- {address}　WAN側のIPアドレス
  ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
- {mask}　サブネットマスクまたはマスクビット数
  ※ サブネットマスクは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

設定例　相手先#1とLAN型接続をする場合、WAN側にIPアドレス「192.168.10.1/24」を設定するとき
→　remote 1 wanaddress 192.168.10.1/24

マルチダイヤルを行うか否かの設定

マルチダイヤルを行うと、1つの相手先に発信する際、電話番号を2個まで（[相手先電話番号１]と[相手先電話番号２]）使うことができます。
相手先のBチャネルが空いていないなどで、[相手先電話番号1]に接続できないときは、[相手先電話番号２]に自動発信します。以降、接続できるまで、[マルチダイヤルの試行回数の設定]で設定した回数（最大各3回）発信します。
設定方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「5-6　発信時に2個の電話番号を使う／自動接続先を2件登録する（マルチダイヤル機能）」を参照してください。

書式	remote {rnumber} call multi mode {off|on}	
パラメータ	{rnumber}=0〜15	相手先番号（登録番号#0〜#15）
	{off|on}	マルチダイヤルを行うかどうか
	off	行わない
	on	行う
設定例	相手先#1に発信する際、マルチダイヤルを行うとき →　remote 1 call multi mode on	

マルチダイヤルの試行回数の設定

マルチダイヤルを行うときの再発信する回数を設定します。各3回まで、最大で合計6回発信できます。

書式	remote {rnumber} call multi count {count}	
パラメータ	{rnumber}=0〜15	相手先番号（登録番号#0〜#15）
	{count}=1〜3	再発信する回数
	（初期値=1）	※ 1を設定すると、[相手先電話番号１]と[相手先電話番号２]にそれぞれ1回ずつ発信します。
設定例	相手先#1に発信する際、[相手先電話番号１]と[相手先電話番号２]に各3回まで再発信するとき →　remote 1 call multi count 3	

自動接続相手先

クイック設定（端末型ダイヤルアップ接続用）あるいはクイック設定（LAN型ダイヤルアップ接続用）で設定したときは、その相手先（[#0]）が自動接続相手先1として登録されます。

○［設定］ボタン
設定を有効にするときは、[設定]ボタンをクリックします。

- [設定]ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
  また、ボタンが表示されないことがあります。

相手先情報

[接続／相手先登録]画面に登録している相手先の中から、自動接続先を選択します。設定方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「2-2　接続する」の「自動接続する」を参照してください。

○自動接続相手先１
自動接続先にする相手先を選択します。

○自動接続相手先２
自動接続先にする2件めの相手先を選択します。

自動接続先を2件登録する方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「5-6　発信時に2個の電話番号を使う／自動接続先を2件登録する（マルチダイヤル機能）」を参照してください。

ルータ設定（本体）

本製品本体について設定します。

「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは、［設定］ボタンをクリックします。
設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

- ［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
また、ボタンが表示されないことがあります。

本体設定

○ルータ名称
本製品の名称を英数字で設定します。購入時は、「MN128-SOHO-SL11」と設定されています。

設定した内容は、詳細設定ページの画面左側に反映されます。
また、設定ページへアクセスするときに使用できます。詳しくは、「Ethernet上のパソコンから設定ページを使って」〈P.2〉を参照してください。

○現在本体に設定されている日付と時刻
日付と時刻を設定しても、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、「1996/01/01-00:00」に初期化されます。
初期化されたときは、［設定する日付と時刻］で再度正しい日付と時刻を設定してください。

次の設定を行っているときは必ず、［現在本体に設定されている日付と時刻］で日付と時刻を確認してください。
- 指定時間内は自動切断しない設定（［接続／相手先登録］画面の［自動切断タイマ２］など）
- 一定の通信料金を越えると、自動接続しない設定（［接続／相手先登録］画面の［料金による制限］）
- 自動接続できる回数を制限する設定（［接続／相手先登録］画面の［接続回数による制限］）
- 接続時間を制限する設定（［接続／相手先登録］画面の［最大接続時間］など）
- 自動接続できる時間帯を制限する設定（［接続／相手先登録］画面の［時間帯による制限］）
- 着信できる時間帯を制限する設定（［接続／相手先登録］画面の［時間帯による着信制限］）
- 通信料金の情報を定期的に消去する設定（［ルータ設定（本体）］画面の［情報表示（通信料金）の消去］）

○設定する日付と時刻
「1996/01/01-00:00」のように、西暦（4桁）、月、日、時刻を入力します。西暦、月、日は「/」（スラッシュ）で、日付と時刻は「-」（ハイフン）で区切ってください。

設定した内容は、情報表示の各画面に反映されます。

本製品の日付と時刻の設定方法
本製品に日付と時刻を設定する方法は、2とおりあります。

・手動設定
（1）［ルータ設定（本体）］画面の［設定する日付と時刻］で設定します。
（2）クイック設定ページで設定を行います。自動的に、設定を行ったパソコンの日付と時刻が設定されます。
（3）［ルータ設定（本体）］画面で「時刻修正機能」を使用する設定を行い、［今すぐ修正］ボタンを押します。
※（1）（3）の方法で設定した場合は、すでに日付と時刻が設定されているかどうかに関わらず、その設定内容に更新されます。

・自動設定
次のような場合に、自動的に日付と時刻が設定されます。
（1）本製品の電源をONにしたときに日付と時刻が設定されていない場合、本製品はEthernet上に時刻を要求するパケットを送信します。Ethernet上にUnixマシンなどのタイムサーバ機能を持ったサーバが接続されている場合は、そのサーバから時刻を返答するパケットが送信されます。本製品はそのパケットを受信して、その内容を設定します。
複数のサーバから時刻を返答するパケットが送信された場合は、最初に受信したパケットの内容を設定します。
（2）上記（1）でパケットを受信できなかった場合は、本製品のルータ機能を使って回線を接続したときに、相手先のDNSサーバに対して（Ethernet上のDNSサーバを指定している場合は、そのサーバが優先されます）時刻を要求するパケットを送信します。相手先のDNSサーバから時刻を返答するパケットが送信されると、本製品はそのパケットを受信して、その内容を設定します。
ただし、本製品同士を接続した場合、自動設定は行われないことがあります。
（3）［ルータ設定（本体）］画面で「時刻修正機能」を使用する設定を行います。
※（1）（2）の方法で自動的に設定されるのは、本製品の電源をONにしたときに、液晶ディスプレイに「----/--/-- --:--」と表示される場合だけです。

スケジュール機能

詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「6-9　定期的に通信料金の情報を消去する」を参照してください。

○通信料金情報の消去
［情報表示（通信料金）］画面に表示される情報を、月に１度自動的に消去するかどうかを設定します。
消去するときは、日にちを［消去する日］で設定します。

表示

○回線接続中の液晶表示
回線接続中の液晶ディスプレイの表示モードを選択します。

○液晶バックライト
液晶ディスプレイのバックライトの点灯モードを選択します。

液晶ディスプレイについて詳しくは、導入／設定ガイド「液晶ディスプレイ・LEDを確認しましょう」を参照してください。

○設定ページの色調
設定ページの色調を選択します。

停電モード

本製品を停電時に使う方法について詳しくは、導入／設定ガイド「設置する際の注意」を参照してください。

○停電時のアナログポート1給電（オンフック時）
乾電池を入れていると、停電時、アナログポート1だけ乾電池によるバックアップ機能が働きます。
アナログポート1につないでいるアナログ機器を使用していないとき（オンフック時）の給電状態を選択します。

・給電停止
給電しません。「通常給電」を選択した場合よりも、乾電池が長持ちします（ただし、使用する電話機や環境によります）。
電話機やFAXなどによっては、動作しなくなる可能性があります。その場合は「通常給電」を選択してください。

・通常給電
通常どおり給電します（電流24mA）。

時刻修正機能

詳しくは、活用ガイド 第１部「5-23　本製品の時刻を修正する」を参照してください。

○自動時刻修正
時刻修正機能を使うかどうかを選択します。

○NTPサーバアドレス（プライマリ）/（セカンダリ）
時刻を問い合わせるNTPサーバのIPアドレスを入力します。
購入時は「133.100.9.2」と入力されています。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

○NTPサーバの経由先
時刻を問い合わせるNTPサーバにアクセスするために経由する相手先を選択します。LAN内のNTPサーバにアクセスするときは、［Ethernet］を選択します。

○修正する間隔
時刻を自動的に修正する日数間隔を、半角数字1〜7の範囲で入力します。

○［今すぐ修正］ボタン
時刻を直ちに修正したいときは、［今すぐ修正］ボタンをクリックします。
NTPサーバへのアクセスが相手先を経由する場合は、その相手先と接続している必要があります。

「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は時刻を直ちに修正できません。
また、［今すぐ修正］ボタンが表示されないことがあります。

ルータ設定（ユーザ）

ユーザIDやパスワードなどのユーザアカウントを設定して、開くことができる設定ページを制限したり、設定ページでの操作を制限したりします。
ユーザアカウントは、「管理者」と「ユーザ（1/2/3）」ごとに設定します。ユーザアカウントの設定方法について詳しくは、活用ガイド 第１部「5-22　パスワードを設定して、設定ページへのアクセスを制限する」を参照してください。

OCNエコノミーサービスや専用線を利用する際は、セキュリティを強化するためにユーザアカウントを設定することをお勧めします。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは、［設定］ボタンをクリックします。
設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

- ［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
  また、ボタンが表示されないことがあります。

管理者

○ユーザID
管理者用のユーザIDを半角英数字（32文字まで）で入力します。
購入時は「admin」と入力されています。

○パスワード
設定ページを開くときのパスワードを入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。

※次の文字および文字列は、パスワードに使用できません。
「no」「clear」の文字列、漢字、ひらがな、カタカナ

○パスワード（再入力）
［パスワード］に入力した文字列を再度入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。

ユーザ1/2/3

○ユーザID
管理者用のユーザIDを半角英数字（32文字まで）で入力します。
購入時は、ユーザ1には「user」ユーザ2には「user2」ユーザ3には「user3」と入力されています。

○パスワード
設定ページを開くときのパスワードを入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。

※次の文字および文字列は、パスワードに使用できません。
「no」「clear」の文字列、漢字、ひらがな、カタカナ

○パスワード（再入力）
［パスワード］に入力した文字列を再度入力します。どのような文字を入力しても、画面には「＊」や「●」と表示されます。

○アクセス
本製品へのアクセスを許可するかどうかを選択します。
［不許可］を選択した場合は、［アクセス権］の設定内容に関わらず、本製品へアクセスできません。

○アクセス権
与えるアクセス権を選択します。設定ページでの操作を制限します。

・接続／切断
次の画面を開いて、回線を手動で接続／切断する操作ができます。

［クイック設定（端末型ダイヤルアップ）］画面
［クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）］画面
［接続／相手先登録#0］画面～［接続／相手先登録#15］画面
［切断／接続状況］画面
［電話帳登録／一覧］画面
※「電話帳登録／一覧］画面について詳しくは、「アナログ設定（電話帳登録)」〈P.47〉「アナログ設定（電話帳一覧）」〈P.48〉を参照してください。

・メール着信通知#1関連
次の画面を開いて、設定、表示や消去ができます。

［メール着信通知設定#1］画面
［着信メール一覧#1］画面
［設定の消去］画面（［メール着信通知設定#1］画面の設定だけ消去可能）

・メール着信通知#2関連
次の画面を開いて、設定、表示や消去ができます。

［メール着信通知設定#2］画面
［着信メール一覧#2］画面
［設定の消去］画面（［メール着信通知設定#2］画面の設定だけ消去可能）

・PHSメール送信／一覧
次の画面を開いて、設定やPHSメールの送信ができます。

［PHSメール設定］画面
［PHSメール送信／一覧］画面
［設定の消去］画面（［PHSメール設定］画面の設定だけ消去可能）

・伝言板投稿／表示
［伝言板投稿／表示］画面を開いて、伝言の投稿や消去ができます。

次の点にご注意ください。
・アクセス権の設定内容によっては、［着信メール一覧#1/#2］画面、［PHSメール設定］画面、［伝言板投稿／表示］画面などを表示できないことがあります。
また、表示できる設定ページでも、アクセス権が許可されているときだけ設定などの操作ができます。
・［クイック設定（OCNエコノミー)］画面あるいは［クイック設定（専用線)］画面で設定を行うと、自動的に「ユーザ1/2/3」の［アクセス権］が［不許可］に設定されます。
また、以降、設定ページを開こうとすると、必ずユーザIDおよびパスワードを要求されるので、［クイック設定（OCNエコノミー)］画面あるいは［クイック設定（専用線)］画面で設定した［ログインユーザID］［ログインパスワード］を入力してください。

ルータ設定（IP）

本製品のIPルータ機能について設定します。

「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは、［設定］ボタンをクリックします。
設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

・［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
・「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
　また、ボタンが表示されないことがあります。

基本

○本体のIPアドレス/サブネットマスク長
本製品のIPアドレスとサブネットマスク長を入力します。購入時は、「192.168.0.1/24」と設定されています。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

既存のLANに本製品を導入するときなど必要に応じて、変更してください。
詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「1-2　本製品のIPアドレスを変更する」を参照してください。

○ブロードキャストアドレス
Ethernet上のすべてのパソコンにパケットを送信することがあります。そのときに使うIPアドレスを「ブロードキャストアドレス」といいます。

ブロードキャストアドレスを選択します。詳しくは、ネットワークの管理者に相談してください。

・全て0
ブロードキャストアドレスとして「0」（ゼロ）を指定する必要があるEthernet上で、すべてのパソコンにパケットを送信します。

・全て1
ブロードキャストアドレスとして「1」を指定します。

・サブネット+全て0
ブロードキャストアドレスとして「0」（ゼロ）を指定する必要があるEthernet上で、特定のサブネットのすべてのパソコンにパケットを送信します。

・サブネット+全て1
ブロードキャストアドレスとして「1」を指定して、特定のサブネットのすべてのパソコンにパケットを送信します。

○RIP送受信モード
RIP（Routing Information Protocol）のモードを設定します。
RIPを送信する場合は、約30秒ごとにRIPパケットがEthernet上のすべてのパソコンに送信されます。

DHCPサーバ

DHCP/BOOTPサーバ機能とは、Ethernet上のパソコンにIPアドレスを自動的に設定する機能です。詳しくは、活用ガイド CD ROM 第３部「用語解説」を参照してください。

○DHCPサーバ機能
DHCP/BOOTPサーバ機能を使うかどうか選択します。購入時は、使うように設定されています。

既存のLANに本製品を導入するときなどで、すでにEthernet上にDHCPサーバがある場合や、IPアドレスを手動で設定する場合は、OFFにしてください。
なお、本製品のIPアドレスを変更すると自動的にOFFになります。

DHCP/BOOTPサーバ機能を使うときは必ず、［開始IPアドレス/個数］にパソコンに設定するIPアドレスの範囲を入力してください。

○開始IPアドレス/個数
DHCP/BOOTPサーバ機能を使ってパソコンに設定するIPアドレスの範囲を入力します。

※次のことに注意してください。
・本製品と同じサブネットのIPアドレスを設定すること
・本製品のIPアドレスと重複しないように設定すること

○ドメイン名
DHCP/BOOTPサーバ機能を使うとき、Ethernet上で使用しているドメイン名を入力します。IPアドレスと共にドメイン名も各パソコンに設定されます。

特に必要がない限り、ドメイン名を設定する必要はありません。

ここで設定したドメイン名は、MacTCPを使用しているMacintoshには設定されません。MacTCPの設定画面でドメイン名を設定してください。

○リース時間
DHCP/BOOTPサーバ機能を使って設定されるIPアドレスの有効期限（1〜9999時間）を入力します。

ここで設定した時間を経過すると、一度設定されたIPアドレスが再利用できるようになります。
なお、MacTCPなどのBOOTPクライアントの場合、設定内容に関わらず「1日」になります。

パソコンに割り当てられたIPアドレスの更新
DHCP/BOOTPサーバ機能によってパソコンに設定されたIPアドレスは、[リース時間] が経過するまで使用されます。本製品のIPアドレスを変したときなどパソコンのIPアドレスの変更が必要な場合でも、IPアドレスは自動的に更新されません。
[リース時間] 内にパソコンに新しいIPアドレスを設定する場合は、それぞれのパソコンで操作してください。
詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「1-3　Windows95/98のTCP/IPを設定する」の「パソコンのIPアドレスの再取得方法（Windows95/98編）」、第１部「1-4　WindowsNT4.0のTCP/IPを設定する」の「パソコンのIPアドレスの再取得方法（WindowsNT4.0編）」、第１部「1-5　MacintoshのTCP/IPを設定する」の「パソコンのIPアドレスの再取得方法（Macintosh編）」を参照してください。

○WINSサーバアドレス（プライマリ）/（セカンダリ）
DHCPサーバ機能を使用するとき、パソコンに割り当てるWINSサーバのIPアドレスを設定します。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

Ethernet上のWindows95/NT4.0のTCP/IPの設定で「WINSの解決にDHCPを使う」にしておくと、DHCPサーバからIPアドレスを取得する際に、ここで設定するWINSサーバアドレスが自動的に設定されます。
また、ここで設定するWINSサーバアドレスは、本製品にリモートアクセスしたWindows95/ NT4.0に通知されます。

AutoDNS

AutoDNS機能とは、Ethernet上のパソコンのDNSサーバへのリクエストを転送したり、プロバイダに端末型ダイヤルアップ接続したときにプロバイダ側のDNSサーバのIPアドレスの通知を受けたりする機能です。ここの設定のほかに、Ethernet上のパソコンで必要な設定を行うと、異なるプロバイダに接続するたびにDNSサーバの設定を変更する必要がなくなります。詳しくは、活用ガイド CD ROM 第３部「用語解説」を参照してください。

○AutoDNS機能
AutoDNS機能を使うかどうか選択します。購入時は、使うように設定されています。

接続先のDNSサーバを利用する場合はとくに、AutoDNS機能を使うことをお勧めします。

AutoDNS機能を使用する場合、Ethernet上のパソコンで本製品のIPアドレスをDNSサーバアドレスとして設定してください。

○LAN側DNSサーバアドレス（プライマリ）/（セカンダリ）
AutoDNS機能を使用するとき、パソコンからのドメイン名解決要求を転送したいDNSサーバのIPアドレスを入力します。
[AutoDNS機能] をONにしている場合は、Ethernet上のDNSサーバのIPアドレスを入力します。
また、[AutoDNS機能] をOFF、[DHCPサーバ機能] をONにしている場合は、Ethernet上または相手先のDNSサーバのIPアドレスを入力します。

設定したIPアドレスが、DNSサーバのアドレスとして各パソコンに通知されます。

ローカルアクセスサーバ

ローカルアクセスサーバ（LAS）機能とは、DTEポートのパソコンをEthernet上に収容する機能です。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第２部「第６章　DTEポートのパソコンをEthernet上に収容する（ローカルアクセスサーバ機能）」を参照してください。

○ローカルアクセスサーバ機能
ローカルアクセスサーバ機能を使うかどうか選択します。

ローカルアクセスサーバ機能を使うときは必ず、[DTEポートIPアドレス] にDTEポートのパソコンに割り当てるIPアドレスを入力してください。

※ローカルアクセスサーバ機能を使うときは、本製品はPPPサーバとして働きます。

○DTEポートIPアドレス
ローカルアクセスサーバ機能を使うときに、DTEポートのパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。購入時には、「192.168.0.10」と設定されています。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
※次のことに注意してください。
・本製品と同じサブネットのIPアドレスを設定すること
・本製品を含むほかの機器に割り当てるIPアドレスと重複しないように設定すること

本製品のIPアドレスを購入時の設定のままのときは、変更する必要ありません。

○LAS着信番号
ローカルアクセスサーバ機能を使うときに、DTEポートのパソコンがEthernet上のLANに接続するための着信番号（LAS着信番号）を英数字（32文字以内）で設定します。

DTEポートのパソコンは、ここで設定した着信番号にアクセスしてください。

リモートアクセスサーバ

リモートアクセスサーバ機能とは、本製品にアクセスする遠隔地のパソコンをEthernet上に収容する機能です。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「4-3　本製品をリモートアクセスサーバにする」を参照してください。

○リモートアクセスサーバ機能
リモートアクセスサーバ機能を使うかどうかを選択します。

リモートアクセスサーバ機能を使うときは必ず、[リモートIPアドレス] にリモートアクセスするパソコンに割り当てるIPアドレスを入力してください。また、[接続/相手先登録] 画面で、リモートアクセスを許可する相手先を登録してください。

○リモートIPアドレス１/２/３/４
リモートアクセスサーバ機能を使うときに、リモートアクセスするパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。
IPアドレスは、4個（2個はINSネット64を使用した着信用、残りの2個はPPTPを使用した着信用）まで設定できます。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
※次のことに注意してください。
・本製品と同じサブネットのIPアドレスを設定すること
・本製品を含むほかの機器に割り当てるIPアドレスと重複しないように設定すること

RADIUS

本製品はRADIUS（Remote Authentication Dial In User Service）に対応しているので、LAN内のRADIUSサーバを利用できます。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-13　RADIUSサーバを利用する」を参照してください。

○RADIUS認証機能
RADIUSサーバの認証機能を利用するかどうかを設定します。

○認証サーバアドレス（プライマリ）/（セカンダリ）
認証機能を利用するRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。
RADIUSサーバ側のUDPポートを設定するときは、IPアドレスの後ろに「/」（スラッシュ）で区切って入力してください。省略すると、「1812」がUDPポートとして設定されます。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

○RADIUSシークレット
RADIUSサーバに設定している秘密鍵と同じ文字列を入力します。

RADIUSサーバとやり取りするときに使用します。

○RADIUSアカウント機能
RADIUSサーバのアカウンティング機能を利用するかどうかを選択します。

○アカウントサーバアドレス（プライマリ）/（セカンダリ）
アカウンティング機能を利用するRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。
RADIUSサーバ側のUDPポートを設定するときは、IPアドレスの後ろに「/」（スラッシュ）で区切って入力してください。省略すると、認証サーバ側のUDPポート番号に１を加えた数字がRADIUSサーバ側のUDPポート番号として設定されます。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

SYSLOG

○SYSLOG機能
SYSLOGサーバ機能に対応しているパソコンに出力する内容を選択します。複数選択できます。

SYSLOGサーバ機能に対応しているパソコンについては、その管理者に相談してください。

・DEBUG
ISDNやPPPなど各種デバッグ情報を出力します。

・INFO
接続／切断ログ情報を出力します。

・NOTICE
パケットフィルタリングで破棄されたパケットの内容を出力します。

○SYSLOGホストアドレス
SYSLOGサーバ機能に対応しているパソコンのIPアドレスを設定します。

設定したパソコンに、接続／切断ログ情報やデバッグ情報、フィルタリング情報を転送して、ファイルとして一括管理できます。

※IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

○SYSLOGファシリティ
使用するSYSLOGサーバ機能のファシリティ（0〜23）を入力します。通常は「1」（user）を設定します。

オプション

ルータ機能に関する設定には、ここでコマンドを入力して設定するものがあります。
入力欄をクリックするとカーソルが表示されるので、コマンドを入力してください。コマンドを入力する際は、以下の点を注意してください。

- { }で囲まれている部分がパラメータです。パラメータの区切りには、半角スペースを入力します。パラメータによっては「/」（スラッシュ）が必要なものがあります。
- 太字は、購入時の値を意味します。
- ［ ］内はオプションです。付けても付けなくても構いません。
- オプション以外のパラメータを省略すると、設定できません。
- 複数のコマンドを設定するときは、コマンドごとに改行してください。

ホスト情報登録

パソコンのホスト名とIPアドレス、Ethernet（MAC）アドレスの組み合わせを登録します。
ここで登録した内容は、次の場合に使用されます。

- 本製品を簡易DNSサーバにする場合（詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-15　本製品を簡易DNSサーバにする」を参照してください）
- 本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能で割り当てるIPアドレスとパソコンの組み合わせを固定する場合（詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-16　DHCP/BOOTPサーバ機能で割り当てるIPアドレスとパソコンの組み合わせを固定する」を参照してください）

書式　ip host {ipaddress} {name}[{alias} {macaddress}]

パラメータ
{ipaddress}	パソコンのIPアドレス ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{name}	パソコンのホスト名
{alias}	パソコンのホスト名（エイリアス名）
{macaddress}	Ethernet（MAC）アドレス ※ XX:XX:XX:XX:XX:XXの形式で入力します。

IP経路情報の登録

IP経路情報を追加登録します。IP経路情報は、ソース経路情報とあわせて32個まで登録できます。登録した経路がすでにIP経路情報に存在する場合は追加されません。
IP経路情報を登録する書式は、WAN側の場合、LAN側の場合、PPTPの場合で異なります。

書式

- LAN側の経路の場合
  ip route {net}/{mask}/{hops} local {gateway}
- WAN側の経路の場合
  ip route {net}/{mask}/{hops} remote {rnumber}[,{rnumber2}] {type}
- PPTPの経路の場合
  ip route {net}/{mask}[/{hops}] pptp {server}

パラメータ

- LAN側の経路の場合

{net}	ネットワーク番号またはサブネットワーク番号 ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{mask}	サブネットマスクまたはマスクビット数 ※ サブネットマスクは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{hops}=1～15	ホップカウント
{gateway}	ゲートウェイのIPアドレス

- WAN側の経路の場合

{net}	ネットワーク番号またはサブネットワーク番号 ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{mask}	サブネットマスクまたはマスクビット数 ※ サブネットマスクは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{hops}=1～15	ホップカウント
{rnumber}=0～15	相手先番号（登録番号#0～#15）
{rnumber2}=0～15	相手先番号（登録番号#0～#15）
{type}	経路情報種別
auto	自動ダイヤルアップルート（自動接続する）
static	スタティックルート（自動接続しない）

・PPTPの経路の場合

{net}	ネットワーク番号またはサブネットワーク番号 ※ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{mask}	サブネットマスクまたはマスクビット数 ※サブネットマスクは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{hops}=1～15	ホップカウント
{server}	PPTPサーバのIPアドレス ※ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

設定例

1）LAN側の場合：IPアドレス「192.168.0.100」のルータを経由するデフォルトルート（ホップカウント「7」）を登録するとき
→ ip route 0.0.0.0/0/7 local 192.168.0.100

2）WAN側の場合：相手先#1のネットワーク番号「172.16.0.0/16」をスタティックルート（ホップカウント「2」）として登録するとき
→ ip route 172.16.0.0/16/2 remote 1 static

3）PPTPの経路の場合：サブネットワーク番号「192.168.6.0/24」（ホップカウント「2」）に宛てたパケットを「192.168.1.204」のPPTPサーバへ送信するとき
→ ip route 192.168.6.0/24/2 pptp 192.168.1.204

ソース経路情報の登録

ソース経路情報を設定することによって、占有して通信する相手先をパソコンごとに特定できます。
ソース経路情報を設定すると、本製品はEthernet上のパソコンから受信したパケットを、まずソース経路情報と比較します。パケットは、該当したソース経路情報の条件に従って処理されます。該当するソース経路情報がない場合は、IP経路情報の条件に従って処理されます。
ソース経路情報に登録されている相手先には、同じソース経路情報に登録されているパソコンだけが通信できます。したがって、回線が接続されていても、そのソース経路情報の条件を満たさないパソコンはその相手先と通信できません。
なお、ソース経路情報は、IP経路情報とあわせて32個まで登録できます。
設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-7　占有して通信する相手先をパソコンごとに特定する（ソースルーティング機能）」を参照してください。

書式　ip srcroute {address}[/{mask}] remote {rnumber}[,{rnumber2}] {type}

パラメータ

{address}	送信元のパソコンのIPアドレス ※ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。 ※送信元アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信元アドレスを「-」で区切ってください。
{mask}	サブネットマスクまたはマスクビット数 ※サブネットマスクの場合は、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{rnumber}=0～15	相手先番号（登録番号#0～#15）
{rnumber2}=0～15	相手先番号（登録番号#0～#15） ※{rnumber2}を設定すると、{rnumber}の相手先のBチャネルが空いていないなどで接続できないときは、自動的に{rnumber2}に接続します。
{type}	経路情報種別
auto	自動ダイヤルアップルート（自動接続する）
static	スタティックルート（自動接続しない）

IPフィルタの登録

フィルタを登録します。最大32個のフィルタを登録できます。
フィルタを登録すると、本製品が受信したパケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないパケットは通過します。
また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのアクセスが許可されます。

書式　ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} {dstaddr} {protocol} {srcport} {dstport} {interface} {rnumber}

パラメータ

{fnumber}=1～32	フィルタ番号
{type}	フィルタタイプ
pass	一致すれば通す
reject	一致すれば破棄する
restrict	回線が接続されている場合、一致すれば通す

{dir}　方向
　in　受信時にフィルタリングする
　out　送信時にフィルタリングする
{srcaddr}　{送信元ネットワーク番号または送信元サブネットワーク番号}[/{サブネットマスクまたはマスクビット数}]または{送信元アドレスの範囲}
※ 送信元ネットワーク番号、送信元サブネットワーク番号、送信元アドレス、サブネットマスクは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
※ 送信元アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信元アドレスを「-」で区切ってください。
※「*」を設定すると、すべての送信元が対象になります。
{dstaddr}　{送信先ネットワーク番号または送信先サブネットワーク番号}[/{サブネットマスクまたはマスクビット数}]または{送信先アドレスの範囲}
※ 送信先ネットワーク番号、送信先サブネットワーク番号、送信先アドレス、サブネットマスクは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
※ 送信先アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信先アドレスを「-」で区切ってください。
※「*」を設定すると、すべての送信先が対象になります。
{protocol}　プロトコル番号またはニーモニック
※ ニーモニックは、次のものがあります。
「udp」「tcp」「tcpest」「icmp」「tcpfin」
※「*」を設定すると、すべてのプロトコルが対象になります。
{srcport}　送信元ポート番号またはニーモニック
※ 送信元ポート番号を範囲指定する場合は、開始と終了の送信元ポート番号を「-」で区切ってください。
※ ニーモニックは、次のものがあります。
「ftp」「ftpdata」「telnet」「smtp」「www」「pop3」「sunrpc」「nntp」「ntp」「login」「pptp」「domain」「route」
※「*」を設定すると、すべての送信元ポート番号またはニーモニックが対象になります。
{dstport}　送信先ポート番号またはニーモニック
※ 送信先ポート番号を範囲指定する場合は、開始と終了の送信先ポート番号を「-」で区切ってください。
※ ニーモニックは、次のものがあります。
「ftp」「ftpdata」「telnet」「smtp」「www」「pop3」「sunrpc」「nntp」「ntp」「login」「pptp」「domain」「route」
※「*」を設定すると、すべての送信先ポート番号またはニーモニックが対象になります。
{interface}　接続側
　local　LAN側
　remote　WAN側
{rnumber}=0〜15,*　相手先番号（登録番号#0〜#15）
※「*」を設定すると、すべての相手先が対象になります。
ただし、「*」を設定できるのは、{interface}で「remote」を指定しているときだけです。

設定例

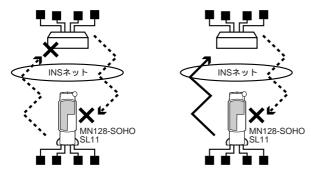
1）相手先#1と接続している場合、IPアドレス「192.168.10.10」の機器に対する、ftpによるアクセスを禁止するとき（フィルタ番号1に登録）
→　ip filter 1 reject in * 192.168.10.10 tcp * ftp remote 1

2）相手先#2に端末型ダイヤルアップ接続している場合、アクセスできるパソコンを「192.168.10.10」〜「192.168.10.19」に限定するとき（フィルタ番号2、3に登録）
→　ip filter 2 pass out 192.168.10.10-192.168.10.19 * * * * remote 2
→　ip filter 3 reject out * * * * * remote 2

プロトコル「TCP」「TCPEST」の違いについて

「IPフィルタの登録」では、{protocol}（プロトコル）に「TCP」「TCPEST」を設定することができます。
「TCP」を設定すると、TCPのセッションによるすべてTCPパケットが対象になります。「TCPEST」を設定すると、TCPのセッションを張る際の最初のTCPパケットだけが対象になります。
次の例を参考にしてください。

・TCPの場合
ip filter 1 reject in * * tcp * * remote 0
→相手先からのTCPパケットをすべて破棄します。TCPによるすべての通信が不可能になります。

・TCPESTの場合
ip filter 1 reject in * * tcpest * * remote 0
→相手先からは、TCPを使用するすべての通信サービスを利用できません。
ただし、こちら側からは、TCPを使用するすべての通信サービスを利用できます。

IPフィルタの登録（拡張）

DNS Queryパケットに関するIPフィルタを登録します。通常のIPフィルタとあわせて最大32個のフィルタを登録できます。
フィルタを登録すると、本製品が受信したDNS Queryパケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、DNS Queryパケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないDNS Queryパケットは通過します（転送されます）。また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのDNS Queryパケットが通過します（転送されます）。

書式	ip filter {fnumber} {type} dns qtype {number}	
パラメータ	{fnumber}=1〜32	フィルタ番号
	{type}	フィルタタイプ
	pass	一致すれば通す
	reject	一致すれば破棄する
	{number}	クエリタイプ番号

上記の［IPフィルタの登録（拡張）］でクエリタイプ番号「1」または「12」を破棄する設定にすると、本製品は簡易DNSサーバになりません。

RADIUS再送信パラメータの設定

RADIUSサーバの認証機能やアカウント機能を使う場合、認証やアカウント情報をRADIUSサーバに送信する回数を設定します。

書式	ip radius retry {count} {time}	
パラメータ	{count}=1〜10（初期値=3）	再送回数
	{time}=1〜10（初期値=1）	再送タイムアウト

IPアドレス変換（NAT）テーブルの登録

IPアドレス変換（NAT）テーブルを登録します。最大32個のNATテーブルを登録できます。
NATテーブルを登録すると、本製品が受信したパケットのIPアドレスごとにNATテーブルと比較します。比較は、NATテーブル番号の小さな順に行われ、該当するNATテーブルに従ってIPアドレスが変換されます。
NATテーブルを1個でも登録すると、該当するNATテーブルがないIPアドレスは、通信できなくなります。

書式

ip nat {nnumber} {private}[/{protocol}/{port}] {global}[remote {rnumber}]
または
ip nat {nnumber} {private-range} {global} [remote{rnumber}]

パラメータ

{nnumber}=1〜32	NATテーブル番号
{private}	プライベートIPアドレス ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。
{protocol}	プロトコル ※ プロトコルは、次のものがあります。 「udp」「tcp」 ※「*」を設定すると、すべてのプロトコルが対象になります。 ※ {port}と合わせて、省略できます。省略した場合は、すべてのプロトコルが対象になります。
{port}	ポート番号またはニーモニック ※ ニーモニックは、次のものがあります。 「ftp」「ftpdata」「telnet」「smtp」「www」「pop3」「sunrpc」「nntp」「ntp」「login」「domain」「netbios」「route」「who」 ※「*」を設定すると、すべてのポート番号またはニーモニックが対象になります。
{private-range}	プライベートIPアドレスの範囲 ※ 始めと終わりのプライベートIPアドレスは「-」で区切ってください。
{global}	グローバルIPアドレス ※ ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。 ※「ipcp」を設定すると、端末型ダイヤルアップ時に割り当てられるIPアドレスになります。 ※「*（すべて）」を設定することはできません。
{rnumber}=0〜15	相手先番号（登録番号#0〜#15） ※ 省略できます。省略した場合は、すべての相手先が対象になります。

設定例

1）相手先#1にLAN型ダイヤルアップ接続している場合、グローバルIPアドレス「133.232.200.90」を使用してアクセスできるパソコンを「192.168.0.2」に限定するとき（NATテーブル番号1に登録）
→ ip nat 1 192.168.0.2/*/* 133.232.200.90 remote 1

2）相手先#2に端末型ダイヤルアップ接続している場合、外部にアクセスできるパソコンを「192.168.10.10」〜「192.168.10.19」に限定するとき（NATテーブル番号2に登録）
→ ip nat 2 192.168.10.10-192.168.10.19 ipcp remote 2

優先ルーティングの指定

データの種類ごとに送受信する優先度を設定できます。
優先度は、高い順にHigh／Middle／Lowの３段階で設定できます。優先度を設定されていないデータは、Middleとして処理されます。
優先度を設定すると、データは優先度指定番号（コマンドで指定）の小さな順に比較され、優先度の高いデータから順に送受信されます。
設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-8　送受信するデータの優先度を指定する（優先ルーティング機能）」を参照してください。

書式　ip priority {pnumber} {rate} {dir} {srcaddr} {dstaddr} {protocol} {srcport} {dstport} {rnumber} [remote {rnumber}]

パラメータ

{pnumber}=1〜32	優先度指定番号
{rate}	優先度
high	高い優先度でデータを送受信する
middle	指定なしと同程度の優先度でデータを送受信する
low	低い優先度でデータを送受信する
{dir}	方向
in	受信時
out	送信時
{srcaddr}	{送信元ネットワーク番号または送信元サブネットワーク番号[/{サブネットマスクまたはマスクビット数}]}または{送信元アドレスの範囲} ※ 送信元ネットワーク番号、送信元サブネットワーク番号、送信元アドレス、サブネットマスクは、ドットノーテション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。 ※ 送信元アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信元アドレスを「-」で区切ってください。 ※「*」を設定すると、すべての送信元が対象になります。
{dstaddr}	{送信先ネットワーク番号または送信先サブネットワーク番号[/{サブネットマスクまたはマスクビット数}]または{送信先アドレスの範囲} ※ 送信先ネットワーク番号、送信先サブネットワーク番号、送信先アドレス、サブネットマスクは、ドットノーテション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。 ※ 送信先アドレスを範囲指定する場合は、開始と終了の送信先アドレスを「-」で区切ってください。 ※「*」を設定すると、すべての送信先が対象になります。
{protocol}	プロトコル番号またはニーモニック ※ ニーモニックには、次のものがあります。 「udp」「tcp」「tcpest」「icmp」「tcpfin」 ※「*」を設定すると、すべてのプロトコルが対象になります。
{srcport}	送信元ポート番号またはニーモニック ※ 送信元ポート番号を範囲指定する場合は、開始と終了のポート番号を「-」で区切ってください。 ※ ニーモニックには、次のものがあります。 「ftp」「ftpdata」「telnet」「smtp」「www」「pop3」「sunrpc」「nntp」「ntp」「login」「pptp」「domain」「route」 ※「*」を設定すると、すべての送信元ポート番号またはニーモニックが対象になります。
{dstport}	送信先ポート番号またはニーモニック ※ 送信先ポート番号を範囲指定する場合は、開始と終了のポート番号を「-」で区切ってください。 ※ ニーモニックには、次のものがあります。 「ftp」「ftpdata」「telnet」「smtp」「www」「pop3」「sunrpc」「nntp」「ntp」「login」「pptp」「domain」「route」 ※「*」を設定すると、すべての送信先ポート番号またはニーモニックが対象になります。
{rnumber}=0〜15,*	相手先番号（登録番号#0〜#15） ※ 相手先番号を範囲指定する場合は、開始と終了の相手先番号を「-」で区切ってください。 ※「*」を設定すると、すべての相手先番号が対象になります。

ルータ設定（ISDN）

本製品を接続する回線の種類などを設定します。
［ルータ設定（ISDN）］画面での設定は、本製品のルータ機能に対してだけ有効になります。TA機能には反映されません。TA機能にも回線番号やサブアドレスなどを設定したいときは、DTEポートのパソコンからTA機能用のATコマンドで設定してください。

「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは、［設定］ボタンをクリックします。
設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

- ［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
  また、ボタンが表示されないことがあります。

回線

○回線種別
本製品を接続する回線の種類を選択します。

［回線種別］を変更したときは、本製品を再起動してください。

- ISDN
  INSネット64やOCNダイヤルアクセスサービスを利用します。
- 専用線64Kbps
  ハイ・スーパーディジタル回線（通信スピード＝64Kbps）やデジタルアクセス64を利用します。
  TA機能からは通信できなくなります。また、アナログポートにつないでいるアナログ機器を使って外線通話することもできなくなります。
- 専用線128Kbps
  ハイ・スーパーディジタル回線（通信スピード＝128Kbps）やOCNエコノミーサービスを利用します。
  TA機能からは通信できなくなります。また、アナログポートにつないでいるアナログ機器を使って外線通話することもできなくなります。

TA機能で常時接続サービスを利用しているとき
ルータ機能とTA機能で常時接続サービスを併用できません。ルータ機能で利用する場合は、TA機能での利用を中止してください。DTEポートのパソコンからATコマンド「AT*B0」を入力します。詳しくは、「TA機能用　ATコマンドリファレンス」〈P.66〉を参照してください。

○ISDN番号*サブアドレス
本製品のルータ機能に設定する回線番号とサブアドレスを入力します。
回線番号とサブアドレスは「*」（アスタリスク）または「/」（スラッシュ）で区切ってください。購入時、サブアドレスは「1」と設定されています。

グローバル着信

グローバル着信、サブアドレスグローバル着信について設定します。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第1部「4-8　グローバル着信、サブアドレスグローバル着信の設定をする」を参照してください。

○グローバル着信
通常、グローバル着信を利用すると、発信側がダイヤルした番号（着番号）の通知がない着信でもその着信を許可することができます。
本製品では、着番号の通知がない着信を拒否するか許可するか設定できます。着番号の通知がない着信を拒否するときは「しない」を、許可するときは「する」を選択します。

○サブアドレスグローバル着信
本製品にサブアドレスを設定していると（自サブアドレス）、発信側がサブアドレスをダイヤルしなかった場合に、その着信を拒否するか許可するか設定できます。着アドレスがない着信を拒否するときは「しない」を、許可するときは「する」を選択します。

リソースBOD（アナログ通信割り込み）

リソースBODとは、ルータ機能でMP通信中にアナログ機器の発信または着信があったとき、ルータ機能で使用するBチャネル数を減らして、アナログ機器での通信に割り当てる機能です。

○発信割り込み
アナログ機器から発信するときに、1Bチャネルを割り当てます。

○着信割り込み
アナログ機器から着信要求があったときに、1Bチャネルを割り当てます。

リソースBODを使うときは、INSネット64の「通話中着信通知サービス」＜無料＞を契約してください。

メール着信通知設定#1/#2

パソコンを起動させなくても、本製品が電子メール（メール）の有無を確認して、結果を通知します。
設定した時間になると本製品が必要に応じて回線を自動的に接続して、メールの有無を確認します。メールが着信している場合は、本体前面のLED（MSG）、液晶ディスプレイ、設定ページやPHS電話機で通知します。
メール着信通知機能について詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「5-20　メール着信通知機能を利用する」を参照してください。
※転送できるPHS電話機はNTTドコモグループのきゃらトークに対応している機種です。PHSメール送受信機能について詳しくは、「PHSメール設定」「PHSメール送信」や、活用ガイド CD ROM 第１部「5-19　PHS電話機とメッセージを送受信する（PHSメール送受信機能）」を参照してください。

次の点にご注意ください。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、［メール着信通知設定#1/#2］画面を開くことができないことがあります。
- 回線を接続するたびに、接続時間に応じた通信料金がかかります。
- 自動接続の制限によって自動接続できない場合、メールの有無を確認できるのは次のときです。
  - すでに回線が接続されているとき
  - 本製品につながっている電話機から必要な操作を行ったとき

  自動接続の制限について詳しくは、「2-4　接続を制限する」を参照してください。
- 設定は、メールサーバにアクセスするときに使用するメールアカウントごと（2つまで）に行います。
- 「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは、［設定］ボタンをクリックします。
設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。

メール着信通知#1/#2

○メール着信自動通知
メール着信通知機能を使うかどうか設定します。

○確認時間
メールの確認を［指定時刻］あるいは［指定時間間隔］のいずれで行うかを選択します。

○時刻（時:分/日間隔）／時間間隔（分）
［確認時間］の設定に応じて、確認する時刻あるいは時間間隔を入力します。
［指定時刻］を選択した場合、時:分は「XX:XX」の形式で最大5つまで設定できます（区切りには半角コンマを使用）。日間隔は1〜7の範囲で設定します。
［指定時間間隔］を選択した場合、時間間隔を10分単位で設定します（10〜1440分）。

［確認時間］と［時刻（時:分/日間隔）／時間間隔（分）］の設定例

例１）毎日18：00に確認したいとき
- 確認時間：［指定時刻］を選択
- 時刻（時:分/日間隔）／時間間隔（分）：［18:00/1］と入力

例２）３日ごとに09：00に確認したいとき
- 確認時間：［指定時刻］を選択
- 時刻（時:分/日間隔）／時間間隔（分）：［9:00/3］と入力

例３）毎日07：00、12：00、18：00に確認したいとき
- 確認時間：［指定時刻］を選択
- 時刻（時:分/日間隔）／時間間隔（分）：［7：00,12：00,18：00/1］と入力

例４）２時間ごとに確認したいとき
- 確認時間：［指定時間間隔］を選択
- 時刻（時:分/日間隔）／時間間隔（分）：［120］と入力

○接続する相手先
接続する相手先を選択します。

- #0〜#15
  ［接続／相手先登録］画面で設定している相手先に接続します。相手先は、あらかじめ［接続／相手先登録］画面で設定してください。

- Ethernet
  Ethernet上のメールサーバ（POPサーバ）に接続します。この場合、回線は接続されません。

Ethernet上にメールサーバ（POPサーバ）がない場合は、［Ethernet］を選択しないでください。Ethernet上にメールサーバ（POPサーバ）がない場合に［Ethernet］を選択すると、意図しない自動接続を行うことがあります。

メール受信

プロバイダから指定された内容を設定します。

○メール（POP）サーバ
アクセスするメールサーバ（POPサーバ）のIPアドレスまたはサーバ名を、半角英数字（62文字まで）で入力します。

○メールアカウント
メールサーバ（POPサーバ）上のユーザIDまたはメールアカウントを、半角英数字（62文字まで）で入力します。

※たとえばメールアドレス（E-mailアドレス）が「taro@mn128.co.jp」の場合、「taro」と入力します。

○メールパスワード
メールサーバ（POPサーバ）にアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを、半角英数字（16文字まで）で入力します。

○ユーザ認証
メールサーバ（POPサーバ）にアクセスするときの認証方式を選択します。

- 標準（POP3）
  POP3標準の認証を行います。

- APOP
  APOP認証を行います。アクセスするプロバイダのメールサーバ（POPサーバ）がAPOPに対応している必要があります。

メール転送

到着を確認したメールを、別のメールアドレスに転送できます。詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「5-21　メール転送機能を利用する」を参照してください。

○メール転送
　メールを別のメールアドレスに転送するかどうか選択します。

○転送元メール（SMTP）サーバ
　転送元が利用しているメールサーバ（SMTPサーバ）のIPアドレスまたはサーバ名を、半角英数字（62文字まで）で入力します。
　省略した場合は、［メール（POP）サーバ］の内容に従います。

○転送先メールアドレス
　メールを転送するメールアドレス（E-mailアドレス）を、半角英数字（62文字まで）で入力します。

○ヘッダを本文へ挿入
　メールのヘッダ（Subject、From、Date）を、メールの本文に挿入するかどうか選択します。
　挿入する場合は、挿入したいヘッダを［挿入する内容］から選択します。

着信をPHSメールで通知

PHS電話機にメール着信の通知を転送できます。転送できるPHS電話機はPHSメール送受信機能に対応している機種だけです。

○PHSメールで通知
　PHS電話機にメール着信の通知を転送するかどうか選択します。

○通知するPHSの番号
　転送するPHS電話機の番号（32文字まで）を入力します。

着信メール一覧ページへの表示

［着信メール一覧］画面にメール着信の通知の内容を表示できます。

○着信メール一覧ページへ表示
　［着信メール一覧］画面に表示するかどうかを設定します。

○表示する内容
　［着信メール一覧］画面に表示したい項目をチェックします。複数選択できます。

通知するメールの種類（フィルタ）

通知するメールの条件を設定できます。
着信したメールは条件と比較されます。比較は番号の小さい条件から順に行われ、最初に該当した条件に従って処理されます。

○条件
　その行の設定内容を有効にするかどうかを設定します。有効にする場合はチェックします。

○フィールド
　メールを限定する条件項目を選択します。

○文字列
　［フィールド］の設定に応じて半角英数字（62文字まで）で入力します。

○照合
　到着したメールと［文字列］をどのように照合するかを選択します。

○フィルタリング
　メールの到着を通知するかどうか、または、到着したメールを転送するかどうか選択します。

○その他のメール
　１～８の設定内容に該当しないメールの到着を通知するかどうか、または、到着したメールを転送するかどうか選択します。

PHSメール設定

NTTドコモグループのきゃらトークに対応しているPHS電話機と、メッセージ（PHSメール）を送受信できます。
PHSメールを送受信できるのは、「PHS電話機と本製品」や「本製品同士」の組み合わせがあります。本製品側にはPHS電話機は必要ありません。
また、PHSメールを受信したときに本体前面のLED（MSG）や液晶ディスプレイで知らせることができます。
活用ガイド 第１部「5-19　PHS電話機とメッセージを送受信する（PHSメール送受信機能）」を参照してください。

次の点にご注意ください。
- 通信料金は、PHSメールを送信する側にかかります。
- 本製品からPHS電話機にPHSメールを送信するときは、INSネット64から正しい料金情報が通知されません。[情報表示（通信料金）] 画面に表示される内容が正しくないことがあります。

○ [設定] ボタン/ [やり直し] ボタン
設定を有効にするときは、[設定] ボタンをクリックします。
設定をやり直すときは、[やり直し] ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

- [設定] ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
また、ボタンが表示されないことがあります。

着信設定

本製品でPHSメールを受信するために必要な情報について設定します。

○PHSメールの着信
PHSメールの着信を許可するかどうか選択します。

○着信メッセージの伝言板への表示
[伝言板表示] 画面に着信したPHSメールを表示するかどうか選択します。

○LED、液晶ディスプレイへの着信通知
PHSメールの着信を本体前面のLED（MSG）や液晶ディスプレイで通知するかどうか選択します。

PHSメール送信

NTTドコモグループのきゃらトークに対応しているPHS電話機や本製品に、PHSメールを送信できます。送信する本製品側にPHS電話機は必要ありません。
活用ガイド 第１部「5-19　PHS電話機とメッセージを送受信する（PHSメール送受信機能）」を参照してください。

次の点にご注意ください。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、[PHSメール送信／一覧] 画面を開くことができないことがあります。
- 通信料金は、PHSメールを送信する側にかかります。
また、本製品からPHS電話機にPHSメールを送信するときは、INSネット64から正しい料金情報が通知されません。
[情報表示（通信料金）] 画面に表示される内容が正しくないことがあります。ご注意ください。
- 「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○ [送信] ボタン
相手先にメッセージを送信するときは、[送信] ボタンをクリックします。

[送信] ボタンをクリックせずに他のページを開くと、入力した内容は消去されます。

PHSメール送信

本製品からPHSメールを送信する内容について入力します。

○相手先電話番号
　PHS電話機あるいは本製品の電話番号（市外局番を含めて32文字以内）を入力します。サブアドレスは使用できません。

○送信メッセージ
　送信するメッセージを半角の場合20文字以内、全角の場合10文字以内の英数字、記号、漢字、ひらがな、カタカナを入力します（そのほかの文字は使用できません）。ただし、カタカナを入力した場合、実際は半角カタカナが送信されます。

伝言板投稿

本製品にアクセスして設定ページを開くことができるすべてのユーザは、WWWブラウザを使って伝言板を利用できます。
詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「5-18　伝言板を使う」を参照してください。

次の点にご注意ください。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、［伝言板投稿／表示］画面を開くことができないことがあります。
- 「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○［投稿］ボタン
　伝言板にメッセージを投稿するときは、［投稿］ボタンをクリックします。

［投稿］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、入力した内容は消去されます。

投稿

伝言板に投稿する内容について入力します。

○投稿者名
　投稿者の名前を全角20文字以内、半角40文字以内で入力します。

○メッセージ
　投稿するメッセージを全角100文字以内、半角200文字以内で入力します。改行も入力できます。
　また、次の文字列を入力すると、HTMLタグとして表示できます。
　　、<a href>、<u></u>、<i></i>、

アナログ機能用　設定ページリファレンス

本製品のアナログポートに接続したアナログ機器を、どのように使うか設定します。
なお、アナログポートの設定は、DTEポートに接続したパソコンや、アナログポートに接続した電話機から行うこともできます。

アナログ設定（ポートごと）

アナログポート1、アナログポート2/3のそれぞれについて設定を行います。

スペース、「"」（ダブルクォーテーション）、および漢字は、設定欄に入力できません。
ただし、オプション欄にはスペースを入力することができます。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは［設定］ボタンをクリックします。入力した内容をクリアして、設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。

- ［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
また、［設定］ボタン/［やり直し］ボタンが表示されません。

ポート1、ポート2/3

○ポート接続機器
アナログポートに接続されているアナログ機器の種類を選択します。発信時にここで選択した機器種別が、ISDNの呼情報に付加されます。

また、無鳴動着信可能なファクシミリを接続していて、着信音を無音にしたいときは、［サイレントFAX1］［サイレントFAX2］を選択します。
［サイレントFAX1］と［サイレントFAX2］の違いは、次のとおりです。
サイレントFAX1：相手先が呼情報を「G3FAX」として送信してきた場合だけ、無音で着信します。
サイレントFAX2：すべての着信に対して、無条件に無音で着信します。

○ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ機能
ナンバー・ディスプレイ対応の機器を接続しているときは、［使用する］を選択すると、相手先の電話番号や発信電話番号非通知理由などを確認できます。
また、キャッチホン・ディスプレイ対応の機器を接続しているときは、［使用する］を選択すると、通話中に別の相手からの着信があった場合、相手先の電話番号や発信電話番号非通知理由などを確認できます。

［使用する］を選択した場合は、次のことに注意してください。
- ［使用する］を選択したアナログポートに、ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイに対応していない電話機（またはアダプタ）を接続しないでください。誤動作することがあります。
- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を1台使用するときは、ポート1に接続してください。ナンバー・ディスプレイ対応電話機を2台、または通常の電話機とナンバー・ディスプレイ対応電話機を１台ずつ使用するときは、ポート1とポート2、またはポート1とポート3に接続してください。ポート2とポート3に同時につながないでください。
- 相手先からの呼び出しから実際に着信側の呼び出し音が鳴るまでに、若干時間がかかります。
- Bチャネルをデータ通信電話回線で2本とも使用している場合は、発信電話番号や発信電話番号非通知理由を表示できません。
- お使いの機種（電話機またはアダプタ）によっては、発信電話番号や発信電話番号非通知理由が正しく表示されないことがあります。

○ダイヤル終了から発信までの待ち時間（桁間タイマ）
ISDN回線では、最後のボタンが押されてから数秒待って発信を行います。この待ち時間を、3〜50秒の間で設定します。

○発信者番号
アナログ機器から発信する場合に、相手先に通知する発信者番号を選択します。［発信者番号通知］で発信者番号を通知する設定にしている場合、および、相手先の電話番号の前に「186」をつけてダイヤルした場合に、ここで選択した番号が通知されます。
なお、INSボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービス、FネットなどのNTTサービスを利用するには、発信者番号通知が必要な場合があります。各サービスの契約内容に応じて、設定を行ってください。

○発信者番号通知

発信時に、相手先に発信者番号を通知するかどうかを設定します。通知する番号は、［発信者番号］で設定します。

発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」または「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約している場合は、NTTとの契約よりも、ここでの設定が優先されます。

また、ここでの設定に関わらず、相手先の電話番号の前に「184」をつけてダイヤルすると非通知になり、「186」をつけてダイヤルすると通知になります。

詳しくは、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「相手に電話番号を通知する／通知しないを設定できます」を参照してください。

i・ナンバー契約時の発信者番号の通知/非通知について

i・ナンバーを契約している場合、発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約して、［発信者番号］［発信者番号通知］を両方とも購入時の設定にしているときは、アナログポート1から発信すると契約者回線番号を、アナログポート2/3から発信するとi・ナンバー追加番号を通知します。

発信者番号通知サービスを「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約しているとき、および［発信者番号］［発信者番号通知］のどちらかを購入時以外の設定にしているときは、［発信者番号］［発信者番号通知］の設定内容に従って発信者番号の通知/非通知が決まります。

○内線呼び出し音

内線呼び出し音を選択します。ただし、実際の呼び出し音の感じは、使用するアナログ機器によって、変わります。また、使用する電話機によっては、ここで設定しても呼び出し音が変わらないことがあります。

呼び出し音1（リーン・リーン～）
呼び出し音2（リーンリン・リーンリン～）
呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン～）

○機能ボタン

アナログ機器の［＊］ボタンと［#］ボタンには、ダイヤル時にサブアドレスを指定したり、ダイヤル後にすぐ発信する役割が割り当てられています。この2つのボタンを「機能ボタン」と呼びます。機能ボタンの役割を変えたり、役割を解除する場合はここで設定します。

○送話音量

通話時にこちらから送信する音量を、5段階から選択します。相手と通話しながら調節することも、あらかじめ調節しておくこともできます。

○受話音量

通話時に受信する音量を、5段階から選択します。相手と通話しながら調節することも、あらかじめ調節しておくこともできます。

オプション

アナログポートに関する設定には、ここでコマンドを入力して設定するものがあります。
入力欄をクリックするとカーソルが表示されるので、コマンドを入力してください。コマンドを入力する際は、以下の点を注意してください。

・{ }で囲まれている部分がパラメータです。パラメータの区切りには、半角スペースを入力します。パラメータによっては「/」（スラッシュ）が必要なものがあります。
・太字は、購入時の値を意味します。
・［　］内はオプションです。省略することができます。
・複数のコマンドを設定するときは、コマンドごとに改行してください。

TA通信中のリソースBOD（アナログ通信割り込み）の設定

TA機能を使用して、DTEポートのパソコンからMP通信モードで2本のBチャネルを使ってデータ通信中に、アナログ機器の発信または着信があったとき、どちらかのBチャネルを解放しアナログ機器に割り当てるかどうかを設定します。

書式　　analog rbod {mode}

パラメータ	{mode}	リソースBOD機能の使用形態
	off	アナログ機器にBチャネルは割り当てない（リソースBOD機能を使用しない）
	send	アナログ機器から発信するときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を用する）
	receive	アナログ機器に着信要求があったときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
	both	アナログ機器の発信または着信があったとき、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）

設定例　アナログ機器に着信要求があった場合だけ、Bチャネルを割り当てるとき
→　analog rbod receive

DTEポート呼び出し待ち時間（RVS-COM）の設定

RVS-COMは、さまざまなコミュニケーション機能を持つ高性能統合ソフトウェアです。RVS-COMを使用する場合、アナログポートへの着信でDTEポートを呼び出すまでの時間をダイヤルイン登録番号ごとに設定します。アナログポートに着信し指定の時間を過ぎても無応答である場合、アナログポートへの呼び出しを停止しDTEポートにRINGを表示します。待ち時間は、60秒までは5秒単位で、60秒以上は15秒単位で最大165秒まで設定できます。待ち時間を「only」に設定すると、アナログポートに着信したらすぐにDTEポートにRINGを表示します。

書式　analog dialin {dnumber} dteaudio {time}

パラメータ
{dnumber}=0〜3　ダイアルイン登録番号
{time}　DTEポート呼び出し待ち時間
never　DTEポートは呼び出さない
5〜165　一定時間無応答の場合DTEポートを呼び出す
（単位：秒、60秒までは5秒単位で、60秒以上は15秒単位で最大165秒まで）
only　常にDTEを呼び出す

設定例　ダイヤルイン登録番号１で呼び出された場合、75秒まではアナログポートで着信し、75秒以降はDTEポートで着信するとき
→　analog dialin 1 dteaudio 75

RVS-COMの概要やRVS-COMを使ってFAXを送受信する方法については、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「RVS-COMを使ってFAXを送受信しましょう」を参照してください。

フッキングのタイミングの設定

フッキングを利用するかしないか、および、瞬断判定のタイミング、オンフックの判定時間を設定します。

書式　analog hooking {pattern}

パラメータ
{pattern}　DTEポート呼び出し待ち時間
0　フッキングを利用する（瞬断判定200ms、オンフック判定1100ms）
1　フッキングを利用する（瞬断判定300ms、オンフック判定1100ms）
2　フッキングを利用しない（瞬断判定200ms、オンフック判定200ms）
3　フッキングを利用しない（瞬断判定300ms、オンフック判定300ms）

注意　フッキングを利用しない設定にすると、フッキングの操作を必要とする機能は使用できません。
例）内線転送、通信中機器移動、マルチアンサー、コールウェイティング、三者通話、通信中転送、電話機からの設定・設定内容確認など

設定例　フッキングを利用するとき（瞬断判定300ms、オンフック判定1100ms）
→　analog hooking 1

発信時のポート接続機器の設定

発信時の各ポートのアナログ機器の種類を設定します。ここでの設定により、着信時はFAXとして、発信時は電話として使用するなど、発信時と着信時でそれぞれ異なった機器として動作させることができます。着信時のアナログ機器の種類は、［ポート接続機器］〈P.39〉での設定に従います。

書式　analog senddev {port} {device}

パラメータ
{port}=1〜2　ポート番号（ポート2、3は共通）
{device}　ポート接続機器
phone　電話
modem　モデム/FAX機能付電話
fax　ファクシミリ
depend　［ポート接続機器］での設定に従う

グローバル着信時の着番号通知の設定

ダイヤルイン契約時にグローバル着信利用契約をしていて、相手側から契約者回線番号で着信要求があるとき、着番号をアナログポートに通知するかしないかを設定します。
［ナンバー・ディスプレイ機能］で［使用する］が選択されているときにのみ有効です。

書式	analog recvnum {param}	
パラメータ	{param}	着番号の送出
	none	着番号を送出しない
	dialin0	ダイヤルイン登録番号0に登録した番号を送出する
	dialin1	ダイヤルイン登録番号1に登録した番号を送出する
	dialin2	ダイヤルイン登録番号2に登録した番号を送出する
	dialin3	ダイヤルイン登録番号3に登録した番号を送出する
注意	「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号#0〜#3］で［登録番号］に番号を登録していない場合、着番号は通知されません。	

アナログ設定（ポート共通）

アナログポート1、アナログポート2/3に共通する設定を行います。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは［設定］ボタンをクリックします。入力した内容をクリアして、設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。

- ［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
  また、［設定］ボタン/［やり直し］ボタンが表示されません。

擬似フレックスホン

本製品の擬似フレックスホン機能を使用するときに、設定を行います。
※擬似フレックスホン（マルチアンサー、通話中発信）を利用する設定のときは、フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）、通信中転送、三者通話は利用できません。

○マルチアンサー
マルチアンサーは、フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）契約をしていなくても、キャッチホン（コールウェイティング）（または一般電話回線のキャッチホンサービス）と同じように動作する機能です。
マルチアンサーの機能を使用するかどうかについて選択します。

※マルチアンサーを使用するときは、この項目のほかに、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号#0〜#3］で、話中着信の設定が必要です。詳しい設定方法やマルチアンサーの使い方は、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」を参照してください。

○通話中発信
通話中発信は、フレックスホンサービスの三者通話契約をしていなくても、三者通話（切替モードのみ）と同じように動作する機能です。
通話中発信の機能を使用するかどうかについて選択します。

※通話中発信の詳しい設定方法や使い方は、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「通話中に他の相手に電話をかけられます」を参照してください。

ポート共通

○グローバル着信
グローバル着信は、ダイヤルイン契約時に契約者回線番号で電話がかかってきたとき、通信できるすべてのポートを呼び出すようにするNTTのサービスです。
グローバル着信を利用すると、1つのダイヤルイン番号だけで2つのアナログポート（アナログポート2と3は合わせて1つのポートと見なされるため）を区別して着信させることができます。
契約者回線番号で電話がかかってきたとき着信する場合は［する］を、契約者回線番号で電話がかかってきても着信しない場合は［しない］を選択します。
着信条件はグローバル着信の設定だけでなく、ダイヤルインの設定によっても変わります。導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「電話機とFAXに別々の番号を付けられます（ダイヤルインサービスとグローバル着信）」を参照してください。

ダイヤルインの契約をしていないときは、購入時の設定のままにしてください。着信できなくなります。

○内線の直接発信

［する］を選択すると、発信音が聞こえているときに、アナログ通信機器で「＊0」を押すと、内線通話できるようになります。外線と通話中は使用できません。

○i・ナンバー

i・ナンバーを契約している場合、i・ナンバーを利用するときのモードを選択します。
「かんたんモードで利用する」を選択した場合、次の項目で設定した内容は、すべて無効になります。

- 「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［登録番号］以外の設定項目
- 「アナログ設定（ポート共通）」画面の［グローバル着信］
- 「RVS-COM設定（ポート共通）」画面の［RVS-COM（DTEポート）］のすべての設定項目

「カスタマイズモードで利用する（着信時にダイヤルインの設定を利用）」を選択した場合、「かんたんモードで利用する」を選択したときに無効だった設定が、すべて有効になります。
なお、i・ナンバーを契約していないときは、「i・ナンバーを利用しない」を選択してください。
それぞれのモードの動作について詳しくは、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「i・ナンバーを利用できます」を参照してください。

フレックスホン

INSネット64のフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）、通信中転送、三者通話、着信転送）を利用するときに、設定を行います。
※フレックスホンの機能を利用するためには、INSネット64の契約時にフレックスホンの契約が必要です。
※擬似フレックスホン（マルチアンサー、通話中発信）の機能を使用する設定のときは、キャッチホン（コールウェイティング）、通信中転送、および三者通話は利用できません。

○キャッチホン（コールウェイティング）

キャッチホン（コールウェイティング）は、通信中に別の相手から着信があったときに通信中の相手を保留し、その着信を受けることができる機能です。
キャッチホン（コールウェイティング）を使用するときは、［する］を選択します。

※キャッチホン（コールウェイティング）を使用するときは、この項目のほかに、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号#0～#3］で、着信ポートと話中着信の設定が必要です。詳しい設定方法や使い方は、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」を参照してください。
※キャッチホン（コールウェイティング）を利用するアナログポートには電話機をつなぎ、「アナログ設定（ポートごと）」画面の［ポート接続機器］で「電話」または「モデム／FAX機能付電話」を選択してください。電話以外のアナログ機器では、この機能を使用できません。

○通信中転送

通信中転送は、通信中に別の相手を呼び出して、その通信を転送する機能です。
通信中転送を使用するときは、［する］を選択します。
通信中転送の使用方法は、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「通信中転送を利用しましょう」を参照してください。

※通信中転送は、相手側から着信された通信を転送するときだけに利用できます。

○三者通話

三者通話は、通信中に別の相手を呼び出して、3人で通話できる機能です。
三者通話を使用するときは、［する］を選択します。
三者通話の使用方法は、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「三者通話を利用しましょう」を参照してください。

○着信転送

着信転送は、かかってきた電話を自動的に他の番号に転送する機能です。
着信転送を使用するときは、［する］を選択します。

※着信転送を使用するときは、この項目のほかに、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号#0～#3］で、着信ポートと転送先の回線番号の設定が必要です。詳しい設定方法は、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「着信転送を利用しましょう」を参照してください。

アナログ設定（ダイヤルイン）

INSネット64契約時にダイヤルイン契約をしている場合は、本製品にダイヤルイン番号を登録して、ダイヤルイン登録番号ごとに、本製品の動作を指定することができます。なお、本製品に登録できるアナログ機器用のダイヤルイン番号は、最大3個までです。

スペース、「"」（ダブルクォーテーション）、および漢字は、設定欄に入力できません。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン

設定を有効にするときは［設定］ボタンをクリックします。入力した内容をクリアして、設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。

- ［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
  また、［設定］ボタン/［やり直し］ボタンが表示されません。

ダイヤルイン登録番号#0（契約者回線番号）～#3

○登録番号

契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録します。登録する契約者回線番号およびダイヤルイン番号は、「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
INSネット64契約時、ダイヤルイン契約を行っている場合、登録した契約者回線番号およびダイヤルイン番号は、INSボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービスなどを利用する際に必要となる発信者番号として通知することができます（［発信者番号］の設定も行ってください）。

○着信ポート

ダイヤルイン番号で着信要求があったとき、どのポートに着信させるかを選択します。
［空きポートに着信（ポート1優先）］または［空きポートに着信（ポート2/3優先）］を選択すると、まず優先ポートに着信し、時間差をつけて他のポートにも着信します。
着信転送するときは、［以下の相手先に着信転送］を選択してください。［以下の相手先に着信転送］以外の設定にすると、［フレックスホンの設定］で着信転送しない設定にしなくても、着信転送を解除することができます。

○優先着信時間

［着信ポート］で［空きポートに着信（ポート1優先）］または［空きポートに着信（ポート2/3優先）］を選択した場合、ポート1とポート2/3の着信の時間差を設定します。0秒に設定すると、優先ポートのみに着信し、優先ポートが使用中のときは空いているポートに着信します。

○着信転送番号

着信転送する相手先の回線番号を設定します。
登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。

ポート1、ポート2/3

［登録番号］に入力したダイヤルイン番号について、アナログポートごとに設定します。

○サブアドレス

［登録番号］で登録したダイヤルイン番号にサブアドレスを付けて登録します。
サブアドレスを登録すると、サブアドレス付きのダイヤルイン番号へ着信要求があったとき、該当するアナログポートだけを呼び出すことができます。

○外線呼び出し音

外線呼び出し音について設定します。ただし、実際の呼び出し音の感じは、使用するアナログ機器によって、変わります。また、使用する電話機によっては、ここで設定しても呼び出し音が変わらないことがあります。

呼び出し音1（リーン・リーン～）
呼び出し音2（リーンリン・リーンリン～）
呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン～）
無鳴動着信（呼び出し音が鳴りません。）

○話中着信
通信中に着信要求があった場合、話中着信したいときは、[する]を選択します。マルチアンサーまたはキャッチホン（コールウェイティング）を利用するときは、必ず[する]を選択してください。
話中着信の設定は、[着信ポート]で選択したポートに対してのみ有効になります。
例えば、アナログポート1だけに着信する設定のとき、アナログポート2に話中着信することはできません。

○サブアドレスグローバル着信
サブアドレスなしで着信要求があった場合、着信させたいときは、[する]を選択します。
サブアドレスグローバル着信の設定は、サブアドレスを登録しているダイヤルイン番号に対してのみ有効になります。相手先を自動的に登録するかどうか設定します。また、グループ名を登録・削除します。

アナログ設定（プリ・ダイヤル）

漢字は、設定欄に入力できません。
また、「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○[設定]ボタン/[やり直し]ボタン
設定を有効にするときは[設定]ボタンをクリックします。入力した内容をクリアして、設定をやり直すときは、[やり直し]ボタンをクリックします。

- [設定]ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
  また、[設定]ボタン/[やり直し]ボタンが表示されません。

プリ・ダイヤル

○プリ・ダイヤル番号1〜5
相手先に発信するときに、電話番号の前に自動的につける番号を設定します（32桁まで）。
発信者番号の通知／非通知を決める「186」「184」、NTTのサービスであるクレジットコールの番号、および「0077」「0088」「001」などの番号を登録しておくと便利です。

○プリ・ダイヤル（通常発信）
プリ・ダイヤル機能を使うかどうか、使う場合はどの番号を使うかを指定します。
※ここでは、電話帳に登録していない相手先について設定します。電話帳に登録した相手先については、「アナログ設定（電話帳設定）」画面の[グループ登録]で設定します。
→参照　P.48

次の場合は、プリ・ダイヤル機能の設定が無視されます。
- ご使用の電話機が、「0077」「0088」などの番号を自動的につけて発信する機能を持っている場合
- 「00」で始まる番号（「0077」「0088」など）をダイヤルした場合
- 「1」で始まる番号（「110」「119」など）をダイヤルした場合
- プリ・ダイヤル番号と相手先の電話番号が、合わせて33桁以上になる場合

アナログ設定（電話帳登録）

短縮番号ごとに相手先の情報を登録したり、登録を削除します。また、着信する相手の条件によって、呼び出し音や着信拒否などを設定します。

短縮番号ごとに相手先を登録／削除

「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○短縮番号
操作の対象となる短縮番号が表示されます。また、操作したい短縮番号を入力します。

○［登録］
短縮番号に相手先を登録するときに選びます。

○［消去］
短縮番号に登録した内容を消去するときに選びます。

○［検索］
短縮番号に登録した内容を電話帳登録フィールドに呼び出すときに選びます。

○［発信］
短縮番号に登録した相手先に電話をかけるときに選びます。

○新規
相手先を新規に登録するときにクリックすると、新しい電話帳登録フィールドが表示されます。

○［実行］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときまたは操作をするときは、［実行］ボタンをクリックします。設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

［登録］［消去］［検索］［発信］の中から行う操作を選択し、［実行］ボタンをクリックします。

- ［実行］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、入力した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外はすべての操作ができないことがあります。［アクセス権］で［接続／切断］が許可されているユーザは、検索および発信だけできます。
  また、すべてのボタンが表示されないことがあります。

電話帳登録

○グループ
「アナログ設定（電話帳設定）」画面の［グループ登録］で登録したグループを選択します。グループ分けしないときは「なし」を選びます。

○フリガナ（液晶表示）
相手のフリガナを入力します（半角カナまたは英数字で12文字まで）。
相手に発信するときや相手から着信があったときに、ここに入力した文字が本体前面の液晶ディスプレイに表示されます。設定していない場合は、フリガナの代わりに電話番号が表示されます。

○名称
相手の名称を入力します（半角カナまたは英数字で32文字、全角で16文字まで）。

○電話番号
相手の電話番号を入力します（半角数字で32桁まで、「-」「(」「)」含む）。

○サブアドレス
相手のサブアドレスを入力します（半角数字で19桁まで）。

○着信（ポート1、ポート2/3）
・通常着信
登録相手から着信があったときの呼び出し音または着信拒否を、ポートごとに設定します。「ダイヤルインでの設定値」を選択すると、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［外線呼び出し音］で設定した内容に従います。
→参照　P.44

・話中着信
別の相手と通話中にこの相手から電話がかかってきたときに、着信させるかどうかを設定します。「ダイヤルインでの設定値」を選択すると、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］で設定した内容に従います。
→参照　P.44

※［通常着信］を「着信しない」に設定すると、［話中着信］の設定にかかわらず、通話中には着信しません。

通話中に着信させる場合は、次のどちらかの設定をしておく必要があります。

- 「アナログ設定（ポート共通）」画面の［マルチアンサー］を「する」、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］を「着信する」に設定
- フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を契約している場合、「アナログ設定（ポート共通）」画面の［キャッチホン（コールウェイティング）］を「する」、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］を「着信する」に設定

○発信ポート
設定ページの画面から相手先に発信するときに使用するポートを選びます。

着信する相手の条件ごとに設定

○［選択］
設定の対象となる着信相手の条件を、ポップアップメニューから選択します。

- 通知あり：登録以外
  電話帳に登録していない相手について設定するときに選びます。
- 通知なし：ユーザ拒否（P）
  発信者番号を通知しない設定にしてかけてきた相手について設定するときに選びます。
- 通知なし：公衆電話（C）
  公衆電話からかけてきた相手について設定するときに選びます。
- 通知なし：表示圏外（O）
  番号を通知できないネットワークからかけてきた相手について設定するときに選びます。
- 通知なし：表示圏外（S）
  ネットワークの条件などで番号を通知できない通信（PHSのローミング発信など）をしてきた相手について設定するときに選びます。
- 通知なし：理由なし
  何らかの原因で非通知の理由が通知されない相手について設定するときに選びます。
- なりわけサービス
  INSネット64のなりわけサービスを契約しているときに、網に登録した相手について設定するときに選びます。

○［登録］
短縮番号に相手先を登録するときに選びます。

○［消去］
短縮番号に登録した内容を消去するときに選びます。

○［検索］
着信相手の条件に登録した内容を電話帳登録フィールドに呼び出すときに選びます。

○［実行］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときまたは操作をするときは、［実行］ボタンをクリックします。設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。入力した内容が消去されます。

［登録］［消去］［検索］の中から行う操作を選択し、［実行］ボタンをクリックします。

- ［実行］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、入力した内容は消去されます。
- 「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外はすべての操作ができないことがあります。［アクセス権］で［接続／切断］が許可されているユーザは、検索および発信だけできます。
  また、すべてのボタンが表示されないことがあります。

電話帳登録

○着信（ポート1、ポート2/3）

・通常着信

登録相手から着信があったときの呼び出し音または着信拒否を、ポートごとに設定します。「ダイヤルインでの設定値」を選択すると、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［外線呼び出し音］で設定した内容に従います。

→参照　P.44

・話中着信

別の相手と通話中にこの相手から電話がかかってきたときに、着信させるかどうかを設定します。「ダイヤルインでの設定値」を選択すると、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］で設定した内容に従います。

→参照　P.44

※［通常着信］を「着信しない」に設定すると、［話中着信］の設定にかかわらず、通話中には着信しません。

通話中に着信させる場合は、次のどちらかの設定をしておく必要があります。

・「アナログ設定（ポート共通）」画面の［マルチアンサー］を「する」、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］を「着信する」に設定
・ フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を契約している場合、「アナログ設定（ポート共通）」画面の［キャッチホン（コールウェイティング）］を「する」、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］を「着信する」に設定

アナログ設定（電話帳一覧）

アナログ設定（電話帳登録）で短縮番号に登録した相手先の情報が、一覧で表示されます。短縮番号、グループ名称、フリガナ、電話番号は、項目名をクリックするとソートされます（昇順）。
最低8件分の欄が表示され、登録した相手先が9件以上になると、登録した数だけ表示されます。
また、着信する相手の条件について、［着信（ポート1、ポート2/3）］の［通常着信］［話中着信］の設定が一覧で表示されます。

アナログ設定（電話帳設定）

漢字は、設定欄に入力できません。
また、「"」（ダブルクォーテーション）と半角スペースを続けて設定欄に入力することはできません。

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン

設定を有効にするときは［設定］ボタンをクリックします。入力した内容をクリアして、設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。

・［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
・「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
　また、［設定］ボタン/［やり直し］ボタンが表示されません。

自動登録

○発信自動登録

発信した相手先を、電話帳に自動的に登録するかどうかを設定します。

○自動登録する短縮番号

発信した相手先を自動的に登録する場合に、自動登録する短縮番号の範囲を、1〜128の間で指定します。
指定した範囲の中に登録済みの短縮番号がある場合、その番号を除いて登録します。

○着信自動登録

着信した相手先を、電話帳に自動的に登録するかどうかを設定します。

○自動登録する短縮番号

着信した相手先を自動的に登録する場合に、自動登録する短縮番号の範囲を、1〜128の間で指定します。
指定した範囲の中に登録済みの短縮番号がある場合、その番号を除いて登録します。

グループ登録

○グループ1～10

・名称

電話帳に登録した相手をグループ分けするためのグループ名を設定します（半角カナまたは英数字で12文字まで）。

・プリ・ダイヤル

プリ・ダイヤル機能を使用するかどうか、使用する場合はどの番号を使うかを、グループごとに設定します。番号は、「アナログ設定（プリ・ダイヤル）」画面であらかじめ登録しておきます。

→参照　P.45

RVS-COM用　設定ページリファレンス

DTEポートのパソコン、およびEthernet上のパソコンから、RVS-ROMを使うための設定をします。

RVS-COM設定

○［設定］ボタン/［やり直し］ボタン
設定を有効にするときは［設定］ボタンをクリックします。入力した内容をクリアして、設定をやり直すときは、［やり直し］ボタンをクリックします。

・［設定］ボタンをクリックせずに他のページを開くと、設定した内容は消去されます。
・「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定できません。
また、［設定］ボタン/［やり直し］ボタンが表示されません。

RVS-COM（DTEポート）

TA機能でDTEポートのパソコンからRVS-COMシリーズを使うための設定をします。

○ダイヤルイン番号0（契約者回線番号）〜3着信時の呼び出し
アナログポートへの着信でDTEポートを呼び出すときの方法を、ダイヤルイン登録番号ごとに設定します。
［常にアナログポートのみ］を選択したときは、アナログポートの着信を受話器を上げて応答し、電話機から操作すると、DTEポートにRINGを表示します。
［一定時間後RVS-COM（DTE）］を選択したときは、アナログポートに着信し［呼び出し待ち時間］で指定した時間を過ぎても無応答である場合、アナログポートへの呼び出しを停止しDTEポートにRINGを表示します。
［常にRVS-COM（DTE）のみ］を選択したときは、アナログポートに着信したらすぐにDTEポートにRINGを表示します。

○呼び出し待ち時間
［ダイヤルイン番号0（契約者回線番号）〜3着信時の呼び出し］で「一定時間後RVS-COM（DTE）」を選択したときに、アナログポートへの着信でDTEポートを呼び出すまでの時間を設定します。
60秒までは5秒単位で、それ以上は15秒単位で設定します（5〜165秒）。

RVS-COMシリーズの概要やDTEポートのパソコンからRVS-COMシリーズを使ってFAXを送受信する方法については、活用ガイド CD-ROM 第2部「4-3　RVS-COMシリーズを使ってパソコンからFAXを送受信する」を参照してください。

RVS-COM（Ethernetポート）

ルータ機能でEthernet上のパソコンからRVS-COM 2000（ISDN-DCP）を使うための設定をします。

○アナログ着信時の呼び出し
アナログポートへの着信があるとき、本製品のアナログポート、あるいは、Ethernet上でRVS-COM 2000を起動してアナログ着信を待っているパソコンのどちらを呼び出すか、両方とも呼び出すかを指定します。
○呼び出し待ち時間
［アナログ着信時の呼び出し］で「一定時間後RVS-COM（Ethernet）」を選択したときに、RVS-COM 2000を呼び出すまでの待ち時間を設定します。
60秒までは5秒単位で、それ以上は15秒単位で設定します（5〜165秒）。

※ローカルアクセスサーバ機能によってルータ部に接続しているパソコン（本製品のDTEポートのパソコン）は、RVS-COM 2000を利用してFAX送受信できません。
※RVS-COM 2000のRVS電話やFAX送受信を利用するときは、本製品のEtherポートにつないだパソコン1台のみ通信できます。同時に複数台のパソコンからRVS電話やFAX送受信を利用できません。

「ISDN-DCP」のセッション数は、同時に最大4つまでです。

RVS-COM 2000の概要やEthernet上のパソコンからRVS-COM 2000を使って通信する方法については、活用ガイド CD-ROM 第1部「5-24　RVS-COM 2000を使って通信する」を参照してください。

ルータ機能用　ATコマンド・設定コードリファレンス

本製品のルータ機能の設定は、通常、Ethernet上のパソコンから設定ページを開いて行います。ただし、何らかの理由で設定ページが開けなくなったときは、アナログポートの電話機から設定コードを入力するか、DTEポートのパソコンからATコマンドを入力して、ルータ機能のIPアドレスなどの設定を変更することができます。

*C/#1　IPアドレス/サブネットマスク長の設定

IPアドレス/サブネットマスク長を、本製品のルータ部に設定します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

ATコマンド　AT*C{address}/{subnetmask}

設定コード　#1{address}/{subnetmask}

パラメータ
- {address}　IPアドレス
  ※ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。設定コードの場合は、「.」のかわりに［#］ボタンを押します。
- /　IPアドレスとサブネットマスク長の区切り
  ※設定コードの場合は、IPアドレスとサブネットマスク長の区切りに［#］ボタンを押します。
- {subnetmask}　サブネットマスク長

設定例　IPアドレス「192.168.5.100」、サブネットマスク長「24」を設定するとき
→　ATコマンドで設定：AT*C192.168.5.100/24［Enter］
→　電話機から設定：#1→192#168#5#100#24→#

*C?IPアドレス/サブネットマスク長の表示

本製品のルータ部に設定されているIPアドレス/サブネットマスク長を表示します。

ATコマンド　AT*C?

アナログポートの設定

※**太字**は、購入時の値を意味します。
※［　］内はオプションです。省略することができます。
※アナログポート2と3は合わせて1つのポートと見なされますので、共通の設定になります。

@E/32　　ポート接続機器の設定

本製品の各ポートに接続したアナログ機器の種類を設定します。アナログ機器の種類を設定すると、発信時にISDNの呼情報にアナログ機器の機器種別データを添付（n=2、n=3、n=4のときは同じ機器種別データ）します。また、着信時はファクシミリ（サイレントFAX1）に設定したときのみ、機器種別データを識別して着信します。
本製品に接続しているファクシミリの着信音を無音にするときは、サイレントFAX1またはサイレントFAX2に設定してください。本製品は1300Hz信号でファクシミリを呼び出し、ファクシミリの着信音を無音に設定します（無鳴動着信可能なファクシミリに限る）。ただし、サイレントFAX1およびサイレントFAX2は、相手側の機器種別データによって、動作が異なります。

※サイレントFAX1（n=3）：機器種別データがファクシミリのときだけ、1300Hz信号で呼び出す
※サイレントFAX2（n=4）：無条件に1300Hz信号で呼び出す

ナンバー・ディスプレイ対応電話機（またはアダプタ）を使用するときは、p=1に設定してください。使用しないときは、pパラメータを省略しても構いません。

ATコマンド　AT@Er=n［p］

設定コード　32rn［p］

パラメータ	r=1〜2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	n=**0**	電話
	n=1	モデム/FAX機能付電話
	n=2	ファクシミリ
	n=3	ファクシミリ（サイレントFAX1） ※約10秒応答しなければ、呼び出し音を鳴らし始めます。
	n=4	ファクシミリ（サイレントFAX2）
	p=**0**	ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイを利用しない
	p=1	ナンバー・ディスプレイのみ利用する
	p=2	ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイを両方とも使用する

注意

１）p=1に設定したときは、次の点に注意してください。
- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイに対応していない電話機（またはアダプタ）を接続しないでください。誤動作することがあります。
- ポート2/3をp=1およびp=2に設定した場合、接続されている機器に関係なく、ポート2と3の両方にナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイに対する動作を行います。

２）ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機（またはアダプタ）を使用するときは、次の点に注意してください。
- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を1台使用するときは、ポート1に接続してください。ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を2台、または通常の電話機とナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を1台ずつ使用するときは、ポート1とポート2、またはポート1とポート3に接続してください。ポート2とポート3に同時に接続しないでください。
- 本製品でBチャネルを2本とも使用している場合は、発信電話番号や発信電話番号非通知理由を表示できません。
- 相手からの呼び出しから実際に着信側の呼び出し音が鳴るまでに、若干時間がかかります。
- お使いの機種によっては、発信電話番号や発信電話番号非通知理由が正しく表示されないことがあります。

３）マルチアンサーまたはキャッチホン（コールウェイティング）を利用したいポートは、電話を接続する設定（n=0またはn=1）にしてください。

#S/76　　発信時のポート接続機器の設定

発信時の各ポートのアナログ機器の種類を設定します。ここでの設定により、着信時はFAXとして、発信時は電話として使用するなど、発信時と着信時でそれぞれ異なった機器として動作させることができます。着信時のアナログ機器の種類は、@Eの設定に従います。

ATコマンド　AT#Sr=n

設定コード　76rn

パラメータ　r=1〜2　ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
n=0　電話
n=1　モデム/FAX機能付電話
n=2　ファクシミリ
n=9　@Eの設定に従う

@G/41　ダイヤル終了から発信までの待ち時間の設定（桁間タイマ）

通常、発信を行うときは、最後の番号がダイヤルされてから数秒待って発信します。この待ち時間を設定します。待ち時間は、ポートごとに設定できます。

ATコマンド　AT@Gr=n

設定コード　41rn

パラメータ　r=1〜2　ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
n=3〜50　待ち時間（秒）
（初期値=5）

@F/33　機能ボタンの設定

ダイヤル時に［＊］ボタンと［#］ボタンに、特別な意味を持たせることができます。このボタンを機能ボタンと呼びます。

例）相手に電話をかけるとき（サブアドレス指定）
→03-1234-8888*01　＊以降はサブアドレスを意味する
ダイヤル終了後にすぐに発信するとき（発信開始）
→03-1234-8888#　＃を押すと、すぐに発信する

上記のように、この機能ボタンの意味を設定することができます。機能ボタンは、ポートごとに設定できます。

ATコマンド　AT@Fr=n

設定コード　33rn

パラメータ　r=1〜2　ポート番号（ポート2、ポート3は共通）

n	発信開始	サブアドレス指定
0		
1		＊
2	＊	
4		＃
5		＃＊
6	＊	＃
8	＃	
9	＃	＊
10	＃＊	

注意
1）＃および＊が最初にダイヤルされたときは、機能ボタンとして動作しません。通常のダイヤルと見なします。
2）＃および＊を機能ボタンとして設定しないときは、数字ボタンと同じ扱いになります。

@H/42　内線呼び出し音の選択

ポートごとに内線呼び出し音を選択することができます。

ATコマンド　AT@Hr=n

設定コード　42rn

パラメータ　r=1〜2　ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
n=0　呼び出し音1（リーン・リーン〜）
n=1　呼び出し音2（リーンリン・リーンリン〜）
n=2　呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン〜）
※ 実際の呼び出し音の感じは、使用するアナログ機器によって変わります。また、使用する電話機によっては、ここで設定しても呼び出し音が変わらないことがあります。

#A/24　音量の調節

ポートごとに送信／受信の音量を調節します。通話中でも調節することができます。

ATコマンド　AT#Arm=n

設定コード　24rmn

パラメータ	r=1～2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	m=0	送信の音量をnで設定する
	m=1	受信の音量をnで設定する
	n=1	ボリューム1（最小）
	n=2	ボリューム2（小）
	n=3	ボリューム3（標準）
	n=4	ボリューム4（大）
	n=5	ボリューム5（最大）

#D/34　フッキングのタイミングの設定

フッキングを利用するかしないか、および、瞬断判定のタイミング、オンフックの判定時間を設定します。

ATコマンド	AT#Dn	
設定コード	34n	
パラメータ	n=0	フッキングを利用する（瞬断判定200ms、オンフック判定1100ms）
	n=1	フッキングを利用する（瞬断判定300ms、オンフック判定1100ms）
	n=2	フッキングを利用しない（瞬断判定200ms、オンフック判定200ms）
	n=3	フッキングを利用しない（瞬断判定300ms、オンフック判定300ms）

注意　フッキングを利用しない設定（n=2またはn=3）にすると、フッキングの操作を必要とする機能は使用できません。
例）内線転送、通信中機器移動、擬似フレックスホン（マルチアンサー、通話中発信）、キャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送、電話機からの設定・設定内容確認など

発信者番号通知の設定

※太字は、購入時の値を意味します。
※アナログポート2と3は合わせて1つのポートと見なされますので、共通の設定になります。

@T/81　発信者番号の設定

相手先に通知する発信者番号を、ポートごとに設定します。「@Y/93」で発信者番号を通知する設定（n=1）にしている場合、「@Y/93」で発信者番号をNTTとの契約によって通知する設定（n=0）にしている場合、および、相手先の電話番号の前に「186」をつけてダイヤルした場合に、ここで設定した番号を通知します。
なお、INSボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービスなどのNTTのサービスを利用するには、ここでの設定が必要な場合があります。各サービスの契約内容に応じて、設定を行ってください（「@Y/93」での設定は必要ありません）。

ATコマンド	AT@Tr=n	
設定コード	81rn	
パラメータ	r=1～2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	n=0	契約者回線番号（INSネット64網から番号設定）
	n=1	ダイヤルイン登録番号1に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定）
	n=2	ダイヤルイン登録番号2に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定）
	n=3	ダイヤルイン登録番号3に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定）
	n=4	ダイヤルイン登録番号0に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定）
		※ダイヤルイン登録番号0～3は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。

注意　n=1、2、3、4を設定しても、ダイヤルイン番号を登録していない、あるいは、誤った番号を登録している場合は、INSネット64網から契約者回線番号を通知します。

@Y/93　発信者番号通知の設定

発信時に、相手先に発信者番号を通知するかしないかを、ポートごとに設定します。通知する番号は、「@T/81」で設定します。
発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約している場合は、NTTとの契約よりも、ここでの設定が優先されます。

ATコマンド	AT@Yr=n
設定コード	93rn

パラメータ　r=1〜2　ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
n=0　NTTとの契約による
n=1　通常通知
n=2　通常非通知

注意
1）相手先がナンバー・リクエストを契約している場合、発信者番号を通知しないと電話がつながらないことがあります。
2）INSボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービスなどのNTTのサービスを契約していて、発信者番号通知の設定が必要な場合は、「@T/81」で設定します。ここでの設定は必要ありません。
3）n=0に設定すると、発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約した場合のみ「@T/81」で設定した番号を通知し、その他で契約した場合は通知しません。

相手先に通知される発信者番号について
発信者番号は、「@Y/93」の設定と発信者番号通知サービスの契約内容によって変わります。また、相手先の電話番号の前に「184」をつけてダイヤルすると「@Y/93」の設定にかかわらず発信者番号が非通知となり、「186」をつけてダイヤルすると「@Y/93」の設定にかかわらず「@T/81」で設定した番号が通知されます（「常時通知拒否」で契約した場合を除く）。

内線の直接発信

※太字は、購入時の値を意味します。

@S/73　内線の直接発信

内線をかける場合、発信音が聞こえているときに、アナログ通信機器で「＊0」と押すと、内線通話できるようになります。外線通話中は使用できません。

ATコマンド　AT@Sn
設定コード　73n
パラメータ　n=0　しない
n=1　する

i・ナンバーの設定

※太字は、購入時の値を意味します。

#M/64　i・ナンバー利用モードの設定

i・ナンバーを利用するときのモードを設定します。

ATコマンド　AT#Mn
設定コード　64n
パラメータ　n=0　かんたんモードで利用する
n=1　カスタマイズモードで利用する（着信時にダイヤルインの設定を利用）
n=2　利用しない

注意
1）i・ナンバーを契約していないときは、n=2に設定してください。
2）n=0に設定したときは、次のコマンドで設定したすべての内容が無効になります。
「@J/51」「@K/52」「@M/61」「@Q/01」「@R/72」「#B/25」「#C/26」「#E/35」「#F/36」

擬似フレックスホンの設定

※太字は、購入時の値を意味します。

@O/63　擬似フレックスホンの設定

擬似フレックスホン機能（マルチアンサー、通話中発信）を使用するかしないかを設定します。
マルチアンサーは、フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）契約をしていなくてもキャッチホン（コールウェイティング）（または一般回線のキャッチホンサービス）と同じように動作する機能です。外線と通話中に他の外線から電話がかかってきたときに、切り替えることができます。
通話中発信は、フレックスホンサービスの三者通話を契約していなくても三者通話切替モードと同じように動作する機能です。外線と通話中に他の外線電話をかけることができます。
どちらの機能も、元の通話中だった相手は保留になり、相手には保留音が聞こえます。

ATコマンド　AT@On

設定コード　63n

パラメータ
n=0　どちらも利用しない
n=1　マルチアンサーのみ利用する
n=2　通話中発信のみ利用する
n=3　マルチアンサーと通話中発信を利用する

注意　n=1〜3に設定しているとき、フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送は利用できません。

グローバル着信の設定

※太字は、購入時の値を意味します。

@R/72　グローバル着信の設定

グローバル着信を設定します。この設定が有効になるのは、次のときです。
・ダイヤルイン契約していないとき（契約者回線番号で着信要求がある）
・ダイヤルイン契約時にグローバル着信利用契約を行っていて、相手側から契約者回線番号で着信要求があったとき
グローバル着信しない設定（n=0）のときは、上記の場合に着信しなくなります。グローバル着信する設定（n=1）のときは、上記の場合に着信します。

ATコマンド　AT@Rn

設定コード　72n

パラメータ
n=0　しない
n=1　する（通常はこのままご使用ください）

注意　ダイヤルイン契約をしているときに次の着信要求があった場合、この設定は無効になり、ポートに設定されている番号が一致したときに着信します。
・グローバル着信利用契約を行っていて、相手側からダイヤルイン番号で着信要求があったとき
・グローバル着信利用しない契約を行っていて、契約者回線番号またはダイヤルイン番号で着信要求があったとき
また、着信条件は、グローバル着信の設定だけでなく、「@K/52」〈P.58〉によっても変わります。

#G/44　グローバル着信時の着番号通知の設定

ダイヤルイン契約時にグローバル着信利用契約をしていて、相手側から契約者回線番号に着信要求があるとき、着番号をアナログポートに通知するかしないかを設定します。

ATコマンド　AT#Gn

設定コード　44n

パラメータ
n=0　着番号を通知しない
n=1　ダイヤルイン登録番号0に登録した番号を通知する
n=2　ダイヤルイン登録番号1に登録した番号を通知する
n=3　ダイヤルイン登録番号2に登録した番号を通知する
n=4　ダイヤルイン登録番号3に登録した番号を通知する

注意　1）「@E/32」〈P.52〉でナンバーディスプレイ機能を利用する設定（p=1）になっているときにのみ有効です。
2）「@I/43」でダイヤルイン登録番号（q=0〜3）に番号を登録していない場合、着番号を通知しません。

ダイヤルイン番号で本製品の動作を指定

INSネット64契約時にダイヤルイン契約をしている場合は、本製品に契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録して、登録した番号ごとにアナログポートの動作を設定することができます。
本製品では、ダイヤルイン登録番号を0〜3まで用意しています。このうち、ダイヤルイン登録番号1〜3にのみアナログ用のダイヤルイン番号を登録します。ダイヤルイン登録番号0（q=0）には、ダイヤルイン番号を登録できません。
ダイヤルイン登録番号0で着信するように設定したポートには、次の表の番号をダイヤルしてきたデータが着信します。
また、INSネット64契約時のダイヤルイン契約の内容に合わせて、契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録してください。

		登録する番号		着信時にq=0の設定が有効になる番号
		契約者回線番号	ダイヤルイン番号	
ダイヤルイン	未契約	設定不要	ー	契約者回線番号
	グローバル着信利用する契約	q=0に登録 ※	q=1〜3に登録	契約者回線番号・未登録のダイヤルイン番号
	グローバル着信利用しない契約	q=1〜3に登録		q=1〜3に登録されていない 契約者回線番号・ダイヤルイン番号

※ダイヤルイン登録番号0に登録するのは、グローバル着信する契約をしているときだけです。
このとき登録するのは、契約者回線番号です。

※太字は、購入時の値を意味します。
※アナログポート2と3は合わせて1つのポートと見なされますので、共通の設定になります。

@I/43　契約者回線番号およびダイヤルイン番号の登録

INSネット64契約時、ダイヤルイン契約を行っている場合、ダイヤルイン登録番号に契約者回線番号およびダイヤルイン番号を次のように登録してください。
・グローバル着信する契約時：q=0に契約者回線番号、q=1〜3にダイヤルイン番号を登録
・グローバル着信しない契約時：q=1〜3に契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録
登録した契約者回線番号およびダイヤルイン番号は、INSボイスワープサービス、なりわけサービス、迷惑電話おことわりサービスなどを利用する際に必要となる発信者番号として通知することができます（「@T/81」〈P.54〉の設定も行ってください)。

ATコマンド　AT@Iq=s

設定コード　43qs

パラメータ　q=0〜3　ダイヤルイン登録番号
s=数字　契約者回線番号、ダイヤルイン番号（32桁まで）
※登録する契約者回線番号およびダイヤルイン番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※ダイヤルイン番号の区切りのために「-」を使っても構いません。「-」は、回線接続時に無視されます。
※パラメータsを省略すると、登録したダイヤルイン番号を削除します。

設定例　1）ダイヤルイン登録番号1にダイヤルイン番号03-1234-8800を登録するとき
→　ATコマンドで設定：AT@I1=03-1234-8800［Enter］
→　電話機から設定：43→1→0312348800→#
2）ダイヤルイン登録番号1を削除するとき
→　ATコマンドで設定：AT@I1［Enter］
→　電話機から設定：43→1→#
3）ダイヤルイン登録番号2のダイヤルイン番号を確認するとき
→　電話機から確認：43→2→#

@J/51　サブアドレスの登録

「@I/43」で登録したダイヤルイン番号にサブアドレスを付けて、ポート番号を割り当てて登録します。サブアドレスを登録すると、サブアドレス付きのダイヤルイン番号へ着信要求があったとき、該当する番号だけを呼び出すことができます。

ATコマンド　AT@Jqr=s

設定コード　51qrs

パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」で登録した番号を示します。
	r=1〜2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	s=数字	サブアドレス（19桁まで） ※パラメータsを省略すると、登録したサブアドレスを削除します。

設定例
1）ダイヤルイン登録番号1、ポート2/3にサブアドレス02を割り当てるとき
→ ATコマンドで設定：AT@J12=02［Enter］
→ 電話機から設定：51→1→2→02→#
2）ダイヤルイン登録番号1、ポート2/3のサブアドレスを削除するとき
→ ATコマンドで設定：AT@J12［Enter］
→ 電話機から設定：51→1→2→#
3）ダイヤルイン登録番号1、ポート1のサブアドレスを確認するとき
→ 電話機から確認：51→1→1→#

#C/26　サブアドレスグローバル着信の設定

「@J/51」でサブアドレスを設定している場合に、相手がサブアドレスを指定せずに電話をかけてきたときに、着信させるかさせないかを設定します。

ATコマンド　AT#Cqr=n

設定コード　26qrn

パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	r=1〜2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	n=0	サブアドレスグローバル着信しない
	n=1	サブアドレスグローバル着信する

サブアドレス着信条件

自分側のサブアドレス（自サブアドレス）と発信側がダイヤルしたサブアドレス（着サブアドレス）によって、着信条件が変わります。

		自サブアドレス	
		なし	あり
発信側着サブアドレス	なし	着信する	「#C 」の設定による
	あり	着信しない	サブアドレスが一致したときに着信

@K/52　着信ポートの設定

アナログ機器から着信要求があったとき、着信するポートを指定したり、ポート1とポート2/3で時間差をつけて着信させることができます。時間差は、「#B/25」で指定します。また、特定のダイヤルイン番号に着信要求があったときに、着信転送することもできます。
着信ポートは、ダイヤルイン登録番号ごとに設定できます。

ATコマンド　AT@Kq=n

設定コード　52qn

パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	n=0	どのポートにも着信しない
	n=1	ポート1に着信
	n=2	ポート2/3に着信
	n=3	すべてのポートに着信
	n=4	空きポートに着信（ポート1に優先着信） ※「#B/25」の設定内容にしたがって時間差をつけることができます。
	n=5	空きポートに着信（ポート2/3に優先着信） ※「#B/25」の設定内容にしたがって時間差をつけることができます。
	n=6	「@Q/01」で設定した相手先へ着信転送

注意　着信転送の設定をする場合は、INSネット64契約時にフレックスホンの着信転送の契約が必要です。契約していないときは、着信転送の設定をしないでください。また、着信転送を利用するときは、「@P/71」〈P.61〉と「@Q/01」〈P.61〉の設定も必要です。

#B/25　　着信時の優先着信時間の設定

「@K/52」をn=4またはn=5に設定している場合、アナログ機器に着信要求があると、まず優先ポートを呼び出し、ここで設定した時間後に他ポートも呼び出します。
優先ポートが使用中のときは、優先ポートに着信せず、設定した時間後に他ポートを呼び出します。他ポートが使用中のときは、優先ポートのみを呼び出し続けます。
なお、ここでn=0に設定すると、優先ポートのみを呼び出し、優先ポートが使用中のときは空いているポートを呼び出します。時間差をつけた呼び出しはしません。
優先着信時間は、ダイヤルイン登録番号ごとに設定できます。

ATコマンド　AT#Bq=n

設定コード　25qn

パラメータ　q=0〜3　ダイヤルイン登録番号
※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。

n=0	時間差をつけた呼び出しはしない
n=1	5秒
n=2	10秒
n=3	15秒
n=4	20秒
n=5	25秒
n=6	30秒
n=7	35秒
n=8	40秒
n=9	45秒
n=10	50秒
n=11	55秒
n=12	60秒
n=13	75秒
n=14	90秒
n=15	105秒
n=16	120秒
n=17	135秒
n=18	150秒
n=19	165秒

注意
1）マルチアンサーの設定をしている場合、優先ポートが使用中のときは優先ポートに話中着信し、設定した時間後に他ポートを呼び出します。他ポートが使用中のときは、優先ポートのみを呼び出し続けます。
2）キャッチホン（コールウェイティング）の設定をしている場合、優先ポートが使用中のときは優先ポートに話中着信し、設定した時間後に他ポートを呼び出します。他ポートが使用中のとき、およびBチャネルに空きがないときは、優先ポートの呼び出しのみが続きます。

キャッチホン（コールウェイティング）を使用するときに話中着信するポートについて
キャッチホン（コールウェイティング）を使用するときに話中着信するポートは、「@K/52」〈P.58〉の設定によって次のようになります。

@Kの設定	話中着信するポート
n=0	話中着信しない
n=1	ポート1のみ
n=2	ポート2/3のみ
n=3	全ポート通信中のときにはポート1（※1、※4、※5）
n=4	ポート1が通信中のときにはポート1（※2、※4、※5）
n=5	ポート2/3が通信中のときにはポート2/3（※3、※4、※5）
n=6	話中着信しない

※1）他ポートが空いている場合は、話中着信せず、他ポートに着信します（ただし、※4の場合は除く）。
※2）ポート2/3が空いている場合でも、ポート2/3には着信せず、ポート1に話中着信します。
※3）ポート1が空いている場合でも、ポート1には着信せず、ポート2/3に話中着信します。
※4）片方のBチャネルがデータ通信等で使用されている場合は、ポート1、ポート2/3にかかわらず、通信中のポートに話中着信します。
※5）1つのポートが通信中で、もう片方のポートが着信できないときは、ポート1、ポート2/3にかかわらず、通信中のポートに話中着信します。

@M/61　外線呼び出し音の選択

契約者回線番号またはダイヤルイン番号に着信要求があったとき、ポートごとに外線呼び出し音を選択することができます。n=3に設定すると、1300Hzの無鳴動で着信します。

ATコマンド	AT@Mqr=n	
設定コード	61qrn	
パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	r=1〜2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	n=0	呼び出し音1（リーン・リーン〜）
	n=1	呼び出し音2（リーンリン・リーンリン〜）
	n=2	呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン〜）
	n=3	無鳴動着信
	※ただし、実際の呼び出し音の感じは、使用するアナログ機器によって、変わります。	
注意	外線呼び出し音を選択できるのは、「@K/52」〈P.58〉で着信ポートに設定しているポートだけです。たとえば、ポート1だけに着信する設定のとき、ポート2/3の外線呼び出し音の設定内容は無効になります。	

@N/62　話中着信の設定

契約者回線番号またはダイヤルイン番号に着信要求があったとき、ポートごとに話中着信するかどうかを設定できます。マルチアンサーまたはキャッチホン（コールウェイティング）を利用するときは、必ずn=1に設定してください。なお、話中着信を設定できるのは、「@K/52」〈P.58〉で着信ポートに設定しているポートだけです。たとえば、ポート1にのみ着信する設定のとき、ポート2/3に話中着信することはできません。
q=0を指定すると、次の番号に着信したときの設定になります。

・ダイヤルイン契約をしていないとき：契約者回線番号
・ダイヤルイン契約時にグローバル着信を利用する契約をしたとき：契約者回線番号
・ダイヤルイン契約をしていて、ダイヤルイン番号登録をしていないとき：ダイヤルイン番号

ATコマンド	AT@Nqr=n	
設定コード	62qrn	
パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	r=1〜2	ポート番号（ポート2、ポート3は共通）
	n=0	話中着信しない
	n=1	話中着信する
注意	1）話中着信しない設定（n=0）になっているとき、キャッチホン（コールウェイティング）は利用できません。 2）この設定は、「@E/32」〈P.52〉がn=0またはn=1に設定されているときのみ有効になります。	

フレックスホンの設定

フレックスホンとは、INSネット64の付加機能の複合サービスのことです。フレックスホンを利用するためには、INSネット64契約時にフレックスホンの契約が必要です。

フレックスホンの契約をしていないときは、フレックスホンの各サービスを利用する設定をしないでください。誤動作の原因となることがあります。

※太字は、購入時の値を意味します。

@P/71　フレックスホンの設定

フレックスホンの4種類の機能のうち、どの機能を利用するか設定することができます。
フレックスホンを契約していないときは、すべての機能を利用しない設定（n=0）にしてください。フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）、三者通話および通信中転送を利用する場合は、「@O/63」〈P.56〉で擬似フレックスホン（マルチアンサー、通話中発信）を利用しない設定（n=0）にしてください。
キャッチホン（コールウェイティング）を利用するときには、次の設定も必要です。
・着信ポートの設定（「@K/52」〈P.58〉）（話中着信するポートについては、「キャッチホン（コールウェイティング）を使用するときに話中着信するポートについて」〈P.59〉を参考にしてください。）
・ポート接続機器の設定（「@E/32」〈P.52〉をn=0またはn=1に設定）
・話中着信の設定（「@N/62」をn=1に設定）
着信転送を利用するときには、次の設定も必要です。
・着信ポートの設定（「@K/52」〈P.58〉をn=6に設定）
・着信転送番号の登録（「@Q/01」

ATコマンド　AT@Pn

設定コード　71n

パラメータ

n	キャッチホン（コールウェイティング）	通信中転送	三者通話	着信転送
0	（すべての機能利用不可）			
1				○
2			○	
3			○	○
4		○		
5		○		○
6		○	○	
7		○	○	○
8	○			
9	○			○
10	○		○	
11	○		○	○
12	○	○		
13	○	○		○
14	○	○	○	
15	○	○	○	○

@Q/01　着信転送番号の登録

ダイヤルイン登録番号ごとに、着信転送先を設定できます。着信転送先を設定すると、登録したダイヤルイン番号に着信したときに、自動的に登録した着信転送先へ転送されます。
ただし、着信転送する場合は、INSネット64契約時にフレックスホンの着信転送の契約が必要です。契約していないときは、着信転送番号を登録しても無効になります。
なお、着信転送を利用するときは、「@P/71」と「@K/52」〈P.58〉の設定も必要です。

ATコマンド　AT@Qq=s

設定コード　01qs

パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	s=数字	転送先の回線番号（32桁まで） ※登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ※回線番号の区切りのために「-」を使っても構いません。「-」は、回線接続時に無視されます。 ※パラメータsを省略すると、登録した転送先の回線番号を削除します。

リソースBOD機能の設定

※太字は、購入時の値を意味します。

@U/82　リソースBOD機能によるアナログ機器優先使用の設定

AutoMP機能で2本のBチャネルを使ってデータ通信中にアナログ機器の発信または着信があったとき、どちらかのBチャネルを優先的に解放し、アナログ通信に割り当てるかどうかを設定します。

ATコマンド	AT@Un	
設定コード	82n	
パラメータ	n=0	アナログ機器にはBチャネルを割り当てない（リソースBOD機能を使用しない）
	n=1	アナログ機器から発信するときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
	n=2	アナログ機器に着信要求があったときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
	n=**3**	アナログ機器の発着信があったとき、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）

- ここでの設定とは関係なくデータ通信でBチャネルを2本使用したいときなど、一時的にアナログ機器優先使用の方法を決めたい場合は、「!S」〈P.77〉で設定を行ってください。
- この設定は、本製品のTA機能でMP通信中に、リソースBOD機能を使用するためのものです。ルータ機能でMP通信中にリソースBOD機能を使用するときは、設定ページの「ルータ設定（ISDN）」画面で設定します。「ルータ機能用設定ページリファレンス」の「ルータ設定（ISDN）」〈P.33〉を参照してください。

設定の初期化・保存・表示

すべてのアナログ機器関係の設定内容の初期化、保存、表示を行います。

@A/21　設定の初期化

すべてのアナログ機器関係の設定を初期化します。初期化の方法には、フラッシュメモリに保存した内容を設定する方法と、購入時の内容に設定する方法があります。

ATコマンド	AT@An	
設定コード	21n（設定内容の確認はできません。）	
パラメータ	n=0	フラッシュメモリの内容へ初期化
	n=1	購入時の内容へ初期化
注意	1）電話機から設定する場合は、フラッシュメモリの内容への初期化はできません。 2）電話機から設定内容の確認を行うことはできません。	

@B　設定の保存

すべてのアナログ機器関係の設定を、本製品のフラッシュメモリ内に保存します。

ATコマンド	AT@B
設定コード	なし

@C　　　　　設定の表示

すべてのアナログ機器関係の設定を、通信ソフト上に表示します。

ATコマンド	AT@Cn	
設定コード	なし	
パラメータ	n=0	ポートごとおよびポート共通の設定をするコマンドで設定した内容の一覧を表示する（@E、@F、@G、@H、@O、@P、@R、@S、@T、@U、@Y、#A、#D、#S、#G、*A）
	n=2	ダイヤルイン登録番号ごとに設定するコマンドで設定した内容の一覧を表示する（@I、@J、@K、@M、@N、@Q、#B、#C、#E、#F）

停電モード時の動作の設定

※太字は、購入時の値を意味します。

＊A　　　　　停電モード時の動作の設定

停電（乾電池駆動）モード時の本製品のアナログポート1の動作を設定します。ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「@B」で設定を保存する必要はありません。

ATコマンド	AT＊An	
設定コード	なし	
パラメータ	n=0	オンフック時給電停止
	n=1	オンフック時通常給電

注意

1）停電時は、アナログポート1に接続したアナログ機器のみ使用できます。ポート2/3に接続したアナログ機器は使用できません。
2）ポート2/3のみに着信する設定（「@K/52」〈P.58〉がn=2）になっている場合は、停電時はアナログポートに着信できません。
3）ポート2/3に接続したアナログ機器で外線と通話・通信中に停電すると、通話・通信中の外線は切れます。
4）本製品に接続したアナログ機器で内線通話中に停電すると、内線通話は切れます。
5）n=0に設定しても発着信できますが、電話機・ファクシミリなどによっては動作しなくなる可能性があります。その場合は、n=1に設定してください。

停電復旧後の動作について

停電が発生し、電池駆動している場合は、本体前面の液晶ディスプレイに「テイデンチュウ」と表示され、POWERが点滅します。停電状態から復帰した後は、本製品の電源スイッチを入れ直さなくても、すべての機能を使用できます。ただし、POWERは点滅したままです。元に戻すためには、一度本製品の電源を入れ直してください。
なお、このとき、停電時のバックアップによって電池が消耗していますので、交換することをお勧めします。

RVS-COM使用方法の設定

※太字は、購入時の値を意味します。

#E/35　　　　　RVS-COMモードの設定

アナログポートに着信したFAXデータをDTEポートへ転送し、RVS-COMを使ってFAXを受信できる状態にするための方法を、ダイヤルイン登録番号ごとに設定します。この設定は、RVS-COMが起動し、FAXを受信できる状態になっているときのみ有効です。

ATコマンド	AT#Eq=n	
設定コード	35qn	
パラメータ	q=0～3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0～3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	n=0	アナログ機器の操作で転送する、または指定時間後に自動転送する ※自動転送するまでの時間は、「#F/36」で設定します。
	n=1	ただちに自動転送する（アナログポートには着信しません）

注意　1）n=1に設定すると、アナログポートのすべての着信がDTEポートへ転送されます。この場合、アナログ機器への着信はできません。
2）DTEポートがデータ通信などに使用されている場合は、DTEポートへ転送できません。
3）フレックスホンサービスの設定をしている場合に、コールウェイティングによって話中着信しても、DTEポートへ転送できません。

#F/36　RVS-COMモードへの移行時間の設定

アナログポートに着信して応答がない場合、アナログポートの呼び出しを停止して自動的にDTEポートに転送させるまでの時間を、ダイヤルイン登録番号ごとに設定します。この設定は、RVS-COMが起動し、FAXを受信できる状態になっているときのみ有効です。

ATコマンド　AT#Fq=n

設定コード　36qn

パラメータ	q=0〜3	ダイヤルイン登録番号 ※ダイヤルイン登録番号（q=0〜3）は、「@I/43」〈P.57〉で登録した番号を示します。
	n=<u>0</u>	無応答時転送しない
	n=1	5秒
	n=2	10秒
	n=3	15秒
	n=4	20秒
	n=5	25秒
	n=6	30秒
	n=7	35秒
	n=8	40秒
	n=9	45秒
	n=10	50秒
	n=11	55秒
	n=12	60秒
	n=13	75秒
	n=14	90秒
	n=15	105秒
	n=16	120秒
	n=17	135秒
	n=18	150秒
	n=19	165秒

注意　n=0に設定すると、DTEポートへ転送せず、アナログポートの呼び出しを続けます。

RVS-COMの概要やRVS-COMを使ってFAXを送受信する方法については、導入／設定ガイド「4　電話機やFAXを使いましょう」の「RVS-COMを使ってFAXを送受信しましょう」を参照してください。

本体設定用　ATコマンド・設定コードリファレンス

※**太字**は、購入時の値を意味します。
※ATコマンド入力時にnパラメータがあるときに、nが省略された場合は、0とみなします。

#0　日付・時刻の設定

本製品のアナログポートに接続した電話機から、本製品の日付・時刻を設定することができます。ATコマンドで設定することはできません。
設定するときは、次のように入力します。
　年（1996〜2095）→ ＃ → 月（1〜12）→ 日（1〜31）→ ＃ → 時（0〜23）
　※0時0分など、設定値が「0」の場合は、省略することができます。
設定内容の確認をすると、本製品から次のように音声ガイダンスがあります。
　年（4桁）→ ＃ → 月（2桁）→ 日（2桁）→ ＃ → 時（2桁）

ATコマンド　なし

設定コード　#0s

パラメータ　s=数字　年/月/日/時（19桁まで）
※ 年/月/日/時の区切りとして、「#」を入力します。
※ 日の最大値は、その年、月によって変わります。
※ 設定値が「0」の場合は、省略することができます。
※ 設定値の冒頭に「0」が入力された場合、本製品に登録時には「0」は無視されます。

注意　区切りの「＃」を含めて19桁以上入力した場合は、設定できません。その場合は、最初から入力し直してください。

設定例
１）2001年1月1日0時0分に設定するとき
　→　電話機から設定：　#0→2001→#→1→#→1→#→#→#
　　（いずれも可）　#0→2001→#→1→#→1→#→0→#→0→#
　　　#0→2001→#→01→#→01→#→#→#
　　　#0→2001→#→01→#→01→#→0→#→0→#
２）2022年12月31日23時59分に設定するとき
　→　電話機から設定：　#0→2022→#→12→#→31→#→23→#→59→#
３）現在設定されている時刻を確認するとき
　→　電話機から確認：　#0→#

*E/#3　回線接続中の液晶表示の設定

本製品の液晶表示部に、回線接続中の相手の電話番号を表示するかどうかを設定します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。
この設定の消去は、本製品の設定ページの「ルータ設定（本体）」画面で行います。
「ルータ機能用　設定ページリファレンス」の「ルータ設定（本体）」〈P.19〉を参照してください。

ATコマンド　AT*En

設定コード　#3n

パラメータ		
	n=**0**	経過時間のみ表示
	n=1	接続直後は相手先の電話番号を表示し、5秒以降は経過時間のみ表示
	n=2	常に相手先の電話番号と経過時間を3秒ごとに交互に表示

*E?液晶表示の設定の表示

現在の回線接続中の液晶表示の設定内容を表示します。

ATコマンド　AT*E?

設定コード　なし

*F/#4　液晶バックライトの設定

液晶バックライトの動作を設定します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。
この設定の消去は、本製品の設定ページの「ルータ設定（本体）」画面で行います。
「ルータ機能用　設定ページリファレンス」の「ルータ設定（本体）」〈P.19〉を参照してください。

ATコマンド	AT*Fn	
設定コード	#4n	
パラメータ	n=0	液晶表示の変化後約10秒間点灯し、その後消灯する
	n=1	常に消灯する
	n=2	常に点灯する
	n=3	液晶表示の変化後約10秒間点灯しその後消灯する、回線使用中は常に点灯する

*F?液晶バックライトの設定の表示

現在の液晶バックライトの設定内容を表示します。

ATコマンド	AT*F?
設定コード	なし

TA機能用　ATコマンドリファレンス

TA機能用のATコマンド（通信の設定用、INSネット64サービスの設定用）、Sレジスタ、応答コード、網切断理由の一覧を掲載しています。

ATコマンド一覧（通信の設定用）

※太字は、購入時の値を意味します。
※ATコマンド入力時にnパラメータがあるときに、nが省略された場合は、0とみなします。
※［　］内はオプションです。省略することができます。
※（＊）が付いているコマンドは、「&W」で設定内容がプロファイルに保存され、「&F」で購入時の設定に初期化されます。

A/　　直前に入力したコマンドの再実行

コマンドバッファ内に残っているコマンドを再実行します。リダイヤルなどに利用できます。「AT」および［Enter］キーを入力する必要はありません。

書式　A/

A　　手動着信実行

呼び出し時に着信します。これ以降のコマンドは無視されます。

書式　ATA

D　　発信

このコマンドに続くパラメータに従って発信します。コマンド実行中にキャラクタを受信すると、発信を中止します。

書式　ATD{回線番号}[*{サブアドレス}][Sn]
ATDS=n[Sn]
ATDL[Sn]

パラメータ

{回線番号}	数字　相手先の回線番号（32桁まで） ※ 回線番号には0〜9、#、*が使用できます。ただし、「*」は購入時にはサブアドレス指定キャラクタとして使用されます。 ※ サブアドレス指定キャラクタとして使用されているキャラクタは、回線番号として使用できません。 ※ 回線番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。発信時にはこれらのキャラクタは無視または消去されます。 (、)、+、-
*	サブアドレス指定キャラクタ ※ サブアドレス指定キャラクタはSレジスタ174番〈P.81〉で指定します（購入時は「*」）。
{サブアドレス}	数字またはアルファベット　相手先のサブアドレス（19桁まで） ※ サブアドレスとして使用できるキャラクタは以下のとおりです。 アルファベット（大文字・小文字を区別） 数字（0〜9） ※ サブアドレス以降に他のコマンドを続けることはできません。入力した文字がサブアドレスとみなされます。
S=n	「&Z」〈P.71〉で登録した回線番号に発信 n=0〜9
L	最後に発信した宛先へ発信
Sn	TA間の通信速度を設定（単位：bps） n=5：9600　n=11：64000（PIAFS.Ver.2.0） n=7：19200　n=12：64000（HDLC）　注意１） n=8：38400　n=13：32000/64000（PIAFS Ver.2.1） n=9：32000　n=14：128000　注意１）２） n=10：56000

注意
1）AutoMP機能を使用するときは、ここでの設定だけでなく、他の設定や使用できるチャネル数、相手先によって、64000bpsまたは128000bpsのいずれかの速度が決定されます。
2）n=14に設定すると、次のときはバルク通信を行います。
・HDLC（PPP）通信モードでAutoMP機能を使用しないとき
・HDLC（ARA）通信モード、HDLC（無手順）通信モードのとき

3）PIAFS 64Kで通信するときは、次の点に注意してください。
- PIAFS 64Kで発信するときは、相手先に発信者番号を通知する必要があります。「!B」〈P.73〉で発信者番号を通知する設定にするか、相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信してください。
- PIAFS 64Kで発信するときは、サブアドレスを設定していても、相手先に通知されません。
- INSネット64契約時に発信者番号通知サービスを「常時非通知（常時通知拒否）」で契約した場合は、PIAFS 64Kで発信できません。
- PIAFS 64Kの利用可能地域や対応機種などについては、NTT DoCoMoおよびDDI POCKETまでお問い合わせください。

設定例
1）回線番号「03-1234-5678」、サブアドレス「001」へ発信するとき
→ ATD0312345678*001［Enter］
2）03-1234-8800へ発信し、回線速度を9600bpsに設定するとき
→ ATD0312348800S5［Enter］
3）登録番号0へ発信するとき
→ ATDS=0［Enter］
4）最後に発信した宛先へ発信するとき
→ ATDL［Enter］

E　エコーバックの設定（＊）

コマンドモード時のエコーバックの有無を設定します。

書式　ATEn

パラメータ		
	n=0	エコーバック無
	n=1	エコーバック有

H　回線の切断

接続している回線を切断します。これ以降のコマンドは無視されます。

書式　ATH

I　製品情報の表示

本製品の情報を表示します。

書式　ATIn

パラメータ		
	n=0	使用可能な最高回線通信速度
	n=2	製品名
	n=3	ファームウェアバージョン

O　オンラインモードへ移る

エスケープモードからオンラインモードへ移ります。これ以降のコマンドは無視されます。

書式　ATO

Q　応答コード表示の有無（＊）

応答コードの表示の有無を設定します。応答コードについては、「応答コード一覧」〈P.82〉を参照してください。

書式　ATQn

パラメータ		
	n=0	応答コード表示
	n=1	応答コード非表示

S　Sレジスタ関連コマンド（２のみ＊）

1．Sレジスタの内容を表示します。Sレジスタについては、「Sレジスタ一覧（標準）」〈P.79〉以降を参照してください。

書式　ATSr?

パラメータ　r=0～255　Sレジスタ番号

2．Sレジスタの内容を設定します。16進数でパラメータを指定するときは、必ず数字の前に$を付け、パラメータを2桁にしてください。

書式　ATSr=n

パラメータ		
	r=0～255	Sレジスタ番号
	n=0～255、$00～$FF	パラメータ値

V　応答コード形式の設定（＊）

応答コード表示形式を設定します。応答コードについては、「応答コード一覧」〈P.82〉を参照してください。

書式	ATVn	
パラメータ	n=0	数字形式
	n=1	単語形式

W　RINGの表示形式の設定（＊）

RINGの表示形式を設定します。

書式	ATWn	
パラメータ	n=0	RINGのみ表示
	n=1	RINGに発信者番号、サブアドレス情報を付加して表示
	n=2	RVS-COMが起動している場合、RINGにRVS-COM対応形式で呼び出し番号、発信者番号、サブアドレス情報を付加して表示

X　応答コードモードの設定（＊）

応答コードモードを設定します。応答コードについては、「応答コード一覧」〈P.82〉を参照してください。

書式	ATXn	
パラメータ	n=0	基本応答コード
	n=1	拡張応答コード1
	n=2	拡張応答コード2
	n=3	拡張応答コード3

Y　ブレーク信号の設定（＊）

ブレーク信号による本製品の制御を設定します。

書式	ATYn	
パラメータ	n=0	何もしない
	n=1	回線を切断

Z　プロファイルの読み込み

内部に保存しているATコマンド、Sレジスタを読み込みます。
ただし、次のコマンドで設定した内容に関しては、プロファイルに保存されないため、読み込まれません。
「&Y」「&Z」「!D」「!M」「*B」「$C」「$E」「*C」「*E」「*F」

書式	ATZn	
パラメータ	n=0	プロファイル0番の内容をSレジスタへ読み込み
	n=1	プロファイル1番の内容をSレジスタへ読み込み

&C　DCD信号制御の設定（＊）

DCD信号の制御を設定します。

書式	AT&Cn	
パラメータ	n=0	DCD信号は常にオン
	n=1	DCD信号は回線接続中オン

&D　DTR信号オフによる本製品制御の設定（＊）

DTR信号オフ時の本製品の制御を設定します。

書式	AT&Dn	
パラメータ	n=0	何もしない
	n=1	エスケープモードへ移る
	n=2	回線を切断
	n=3	回線を切断、Sレジスタを初期化

注意　n=0に設定した場合、通信ソフトで切断しても回線が切断されない場合があります。通信ソフトで切断後、必ず本体のD、B1、B2のLEDが消えていることを確認してください。

&E　表示速度の設定（＊）

回線接続時の表示速度を設定します。

書式　AT&En

パラメータ
n=0　回線速度
n=1　DTE通信速度

&F　Sレジスタと初期値のあるコマンドの初期化

Sレジスタと、購入時に初期値のあるATコマンドを購入時の設定に戻します。
ただし、次のコマンドで設定した内容に関しては初期化されません。
「&Y」「&Z」「!D」「!M」「*B」「$C」「$E」「*C」「*E」「*F」

書式　AT&F

&Q　通信モードの設定（＊）

通信モードを設定します。本製品では、次の通信モードを設定することができます。

- V.110通信モード（AT&Q0）
  このモードは、回線速度が9600、19200、38400bpsのときに使用できます。回線上をV.110フォーマットで通信します。
- V.110/DTR通信モード（AT&Q2）
  V.110通信モードと同じ内容です。ただし、DTR信号がOFFからONの状態に変化したときに、「&Z」〈P.71〉で登録番号0に登録している回線番号に発信します。
- HDLC（無手順）通信モード（AT&Q3）
  このモードは、回線速度が56000、64000、128000bpsのときに使用できます。パソコンから送られてくる非同期データをHDLC形式のパケットデータに変換し、回線へ送信します。そして、回線から受信したHDLCのパケットデータを非同期データに変換し、パソコンへ送ります。
- HDLC（無手順）/DTR通信モード（AT&Q4）
  HDLC（無手順）通信モードと同じ内容です。ただし、DTR信号がOFFからONの状態に変化したときに、「&Z」で登録番号0に登録している回線番号に発信します。
- HDLC（PPP、ARA）通信モード（AT&Q5）
  このモードは、回線速度が32000、56000、64000、128000bpsのときに使用できます。パソコンから送られてくる非同期PPPデータおよびApple Remote Access（ARA）のデータを、HDLCフォーマットで通信します。非同期PPPデータとARAのデータは自動識別されます。なお、回線速度が32000bpsのときはPIAFSまたはベアラ（32KbpsのHDLCフォーマット）で、64000bpsのときはPIAFSまたはHDLCフォーマットで通信します。
- HDLC（PPP、ARA）/DTR通信モード（AT&Q6）
  HDLC（PPP、ARA）通信モードと同じ内容です。
  ただし、DTR信号がOFFからONの状態に変化したときに、「&Z」で登録番号0に登録している回線番号に発信します。
- V.110/HDLC（PPP、ARA）自動切替モード（AT&Q7）
  このモードに設定していると、使用する回線速度によって、自動的に通信フォーマットが決まります。
  9600、19200、38400bpsのとき：V.110フォーマット
  56000、128000bpsのとき：HDLCフォーマット
  32000bpsのとき：PIAFSまたはベアラ（Sレジスタ120番、121番で設定）
  64000bpsのとき：PIAFSまたはHDLCフォーマット（Sレジスタ122番で設定）

書式　AT&Qn

パラメータ
n=0　V.110
n=2　V.110/DTR
n=3　HDLC（無手順）
n=4　HDLC（無手順）/DTR
n=5　HDLC（PPP、ARA）
n=6　HDLC（PPP、ARA）/DTR
n=7　V.110/HDLC（PPP、ARA）自動切替

注意
1）DTE通信速度と回線速度が違うときは、フロー制御を行う必要があります。フロー制御を行わない設定の場合、通信が正しく行われない可能性があります。
2）次のときは、回線上のフロー制御を行えないため、DTE通信速度を回線速度より速い速度に設定する必要があります。
・通信モードがHDLC（PPP、ARA）、HDLC（PPP、ARA）/DTRのとき
・回線速度が32000、56000、64000、128000bpsのとき

&S　DSR信号制御の設定（＊）

DSR信号の制御を設定します。

書式	AT&Sn	
パラメータ	n=0	DSR信号は常にオン
	n=2	DCDと同じ動作をする

&T　本製品のテスト

本製品のテストを行います。
LEDテストを行うと、LEDが上から順番に1つずつ点灯します。
RAMテスト、ファームウェアのチェック、S/T点テストを行うと、正常に動作しているときは「OK」が表示されます。不具合があるときは「ERROR」が表示されます。
液晶ディスプレイテストを行うと、液晶ディスプレイのバックライトが点灯し、すべてのアイコンが1秒間点灯します。通信中にはこのテストを行うことはできません。この場合は、「ERROR」が表示されます。

書式	AT&Tn	
パラメータ	n=0	LEDテスト
	n=1	RAMテスト
	n=2	ファームウェアをチェック
	n=3	S/T点テスト ※ISDN回線を接続した状態で行うこと
	n=4	液晶ディスプレイテスト
注意	S/T点テストは、本製品に内蔵のDSUを使用しない場合に、本製品とDSU間のケーブルの接続またはDSUの設置が正しく行われているかどうかをテストします。そのため、本製品とDSUをケーブルで接続した状態で、S/T点テストを行ってください。本製品に内蔵のDSUを使用する場合は、このテストを行う必要はありません。	

&V　登録回線番号の表示

登録したすべての回線番号とサブアドレスを表示します。

書式　AT&V

&W　プロファイルに保存

ATコマンドの設定内容、およびSレジスタの内容を、プロファイルに保存します。
ただし、次のコマンドで設定した内容に関しては、プロファイルには保存されません。
「&Y」「&Z」「!D」「!M」「*B」「$C」「$E」「*C」「*E」「*F」

書式	AT&Wn	
パラメータ	n=0	プロファイル0に保存
	n=1	プロファイル1に保存

&Y　プロファイル選択

起動時に、ATコマンドの設定、およびSレジスタに読み込まれるプロファイル番号を指定します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式	AT&Yn	
パラメータ	n=0	プロファイル0の内容を読み込む
	n=1	プロファイル1の内容を読み込む

&Z　回線番号の登録、消去

回線番号、サブアドレスを登録します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT&Zn={回線番号}[*{サブアドレス}]
※「=」以降を省略すると（AT&Zn=［Enter］）、登録した回線番号とサブアドレスを削除します。

パラメータ	n=0〜9	登録番号
	{回線番号}	数字　相手先の回線番号（32桁まで） ※ 登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ※ 回線番号には0〜9、#、*が使用できます。ただし、「*」は購入時にはサブアドレス指定キャラクタとして使用されます。 ※ サブアドレス指定キャラクタとして使用されているキャラクタは、回線番号として使用できません。 ※ 回線番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。発信時や本製品に登録時には、これらのキャラクタは無視または消去されます。 （、）、+、-
	*	サブアドレス指定キャラクタ ※ サブアドレス指定キャラクタはSレジスタ174番〈P.80〉で指定します（購入時は「*」）。
	{サブアドレス}	数字またはアルファベット　相手先のサブアドレス（19桁まで） ※ サブアドレスとして使用できるキャラクタは以下のとおりです。 アルファベット（大文字・小文字を区別） 数字（0〜9） ※ サブアドレス以降に他のコマンドを続けることはできません。入力した文字がサブアドレスとみなされます。

設定例　回線番号「03-1234-5678」、サブアドレス「001」を登録番号1に登録するとき
→　AT&Z1=0312345678*001［Enter］」

\Q　フロー制御方式の設定（＊）

フロー制御を設定します。

書式　AT¥Qn

パラメータ	n=0	なし
	n=1	XON/XOFF
	n=3	RTS/CTS

\S　TAの状態を表示

TAの状態を表示します。

書式　AT¥Sn

パラメータ	n=0	TA機能の設定内容を表示
	n=1	TA機能で通信した課金情報を表示

\T　無通信監視タイマの設定（＊）

無通信監視タイマを設定します。

書式　AT¥Tn

パラメータ	n=0	無通信監視しない
	n=1〜255	指定された時間、通信が行われないとき回線を切断 1単位は10秒

%B　着信時の最高回線速度の設定（＊）

着信時の最高回線速度を設定します。（単位：bps）

書式　AT%Bn

パラメータ	n=0	着信しない
	n=5	9600
	n=7	19200
	n=8	38400
	n=9	32000
	n=10	56000
	n=12	64000
	n=14	128000

%R　　全Sレジスタの表示

すべてのSレジスタの内容を表示します。

書式　AT%R

$S　　発信時の回線速度の設定（＊）

発信時の回線速度を設定します（単位：bps)。
n=0に設定したときに、ポート速度が回線速度に対応しない場合、自動的に以下の回線速度になります。

V.110通信モード（&Q0, &Q2）のとき		HDLC通信モード（&Q5, &Q6）のとき		V.110／HDLC自動切替モード（&Q7）のとき	
DTE通信速度	回線速度	DTE通信速度	回線速度	DTE通信速度	回線速度
9600以下 19200 38400以上	9600 19200 38400	57600以下 115200 230400	32000　※1 64000　※2 128000	9600以下 19200 38400 57600 115200 230400	9600（V.110） 19200（V.110） 38400（V.110） 32000　※1 64000　※2 128000（HDLC）

※1　Sレジスタ120番〈P.80〉の設定により、PIAFS/ベアラの切り替えを行います。
※2　Sレジスタ122番〈P.80〉の設定により、PIAFS/HDLCの切り替えを行います。

なお、DTE通信速度と「!H」〈P.75〉で設定するパラメータとの組み合わせで、自動的にMP通信を行うことができます。

書式　AT$Sn

パラメータ
- n=0　DTE通信速度
- n=5　9600
- n=7　19200
- n=8　38400
- n=9　32000（Sレジスタ120番でPIAFS/ベアラを指定）
- n=10　56000
- n=12　64000（Sレジスタ122番でPIAFS/HDLCを指定）　注意１）
- n=14　128000　注意１）２）

注意
１）AutoMP機能を使用するときは、ここでの設定だけでなく、他の設定や使用できるチャネル数、相手先によって、64000bpsまたは128000bpsのいずれかの速度が決定されます。
２）n=14に設定すると、次のときはバルク通信を行います。
- HDLC（PPP）通信モードでAutoMP機能を使用しないとき
- HDLC（ARA）通信モード、HDLC（無手順）通信モードのとき

３）PIAFS 64Kで通信するときは、次の点に注意してください。
- PIAFS 64Kで発信するときは、相手先に発信者番号を通知する必要があります。「!B」〈P.74〉で発信者番号を通知する設定にするか、相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信してください。
- PIAFS 64Kで発信するときは、サブアドレスを設定していても、相手先に通知されません。
- INSネット64契約時に発信者番号通知サービスを「常時非通知（常時通知拒否）」で契約した場合は、PIAFS 64Kで発信できません。
- PIAFS 64Kの利用可能地域や対応機種などについては、NTT DoCoMoおよびDDI POCKETまでお問い合わせください。

!A　　通信形式の設定（＊）

通信形式を設定します。

書式　AT!An

パラメータ
- n=0　ATコマンド/Bチャネル回線交換サービスモード
- n=2　X.28コマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード
- n=3　ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード

設定例　次の電源投入時から常にX.28コマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードで9600bpsにしたい場合（nはプロファイル番号）
→　AT!A2S135=5&Wn&Yn［Enter］

!B　　発信者番号通知の設定（＊）

発信時に自分の回線番号とサブアドレスを接続相手に通知するかどうかを設定します。サブアドレスは「$E」〈P.78〉でサブアドレスを設定している場合のみ通知されます。

書式　AT!Bn

パラメータ	n=0	通知しない（「186」を添付した場合、契約者回線番号を通知する）
	n=1	契約者回線番号を通知する（「184」を添付した場合、通知しない）
	n=2	ダイヤルイン番号を通知する（「184」を添付した場合、通知しない）
	n=3	NTTとの契約による
	n=4	通知しない（「186」を添付した場合、ダイヤルイン番号を通知する） ※ ダイヤルイン番号は、「$C」〈P.78〉で登録した番号を示します。

注意

1）n=2に設定していても、ダイヤルイン番号を登録していない、あるいは、誤った番号を登録している場合は、INSネット64網から契約者回線番号を通知します。
2）n=1に設定すると、発信電話番号通知サービスを「常時非通知（常時通知拒否）」で契約した場合のみ番号を通知せず、その他で契約した場合は通知します。
3）n=3に設定すると、次のようになります。
- 「通常通知（通話ごと非通知）」で契約：INSネット64網から契約者回線番号を通知（「184」を添付した場合、通知しない）
- 「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約：通知しない（「186」を添付した場合、INSネット64網から契約者回線番号を通知）
- 「常時通知拒否」で契約：常に通知しない

4）n=0に設定すると、相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信した場合は、INSネット64網から契約者回線番号を通知します。
5）n=4に設定すると、相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信した場合は、ダイヤルイン番号を通知します。

!C　　識別着信可否の設定（＊）

着信時に接続相手によって、着信するかしないかを設定します。

書式　AT!Cn

パラメータ	n=0	すべて着信
	n=1	着信相手を識別して着信

!D　　識別着信番号の登録

識別着信する回線番号、サブアドレスを登録します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT!Dn={回線番号}[*{サブアドレス}]
※「=」以降を省略すると（AT!Dn=［Enter］）、登録した回線番号とサブアドレスを削除します。

パラメータ	n=0〜9	登録番号
	{回線番号}	数字　相手先の回線番号（32桁まで） ※ 登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ※ 回線番号には0〜9、#、*が使用できます。ただし、「*」は、購入時にはサブアドレス指定キャラクタとして使用されます。 ※ サブアドレス指定キャラクタとして使用されているキャラクタは、回線番号として使用できません。 ※ 回線番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。本製品に登録されるときには、これらのキャラクタは無視または消去されます。 （、）、+、-
	*	サブアドレス指定キャラクタ ※ サブアドレス指定キャラクタはSレジスタ174番〈P.81〉で指定します（購入時は「*」）。

	{サブアドレス}	数字またはアルファベット　相手先のサブアドレス（19桁まで） ※ サブアドレスとして使用できるキャラクタは以下のとおりです。 　アルファベット（大文字・小文字を区別） 　数字（0～9） ※ サブアドレス以降にコマンドを続けることはできません。入力した文字がサブアドレスとみなされます。

設定例　回線番号「03-5555-6789」、サブアドレス「001」を登録番号1に登録するとき
→　AT!D1=0355556789*001［Enter］

!D?識別着信番号の表示

識別着信番号を表示します。

書式　AT!D?

!F　通信フォーマットの設定（＊）

通信フォーマットを設定します。通信フォーマットは、電源投入時に有効になります。

書式　AT!Fn

パラメータ	n=0	8ビットパリティなし
	n=1	7ビット奇数パリティ
	n=2	7ビット偶数パリティ

!H　AutoMP機能の設定（＊）

AutoMP機能を使用してMP通信をするかしないかを設定します。
AutoMP機能は、HDLC（PPP）通信モードのときだけ有効です。HDLC（ARA）通信モード、HDLC（無手順）通信モードで通信を行うときは、AutoMP機能を使用しない設定（n=0）にしてください。

書式　AT!Hn

パラメータ	n=0	AutoMP機能を使用しない
	n=1	「$S」〈P.72〉で回線速度が64000bpsに設定されたとき、AutoMP機能を使用する
	n=2	「$S」で回線速度が128000bpsに設定されたとき、AutoMP機能を使用する ※ AutoMP機能を使用しないとき、回線速度が128000bpsに設定された場合は、バルク通信を行います。

注意
1）MPによる通信を行うためには、接続時に次の条件を満たしている必要があります。
- 2本めのBチャネルのPPPのネゴシエーションは、1本めのBチャネルのネゴシエーションと同じであること

2）MPで通信を行う場合、ユーザ認証を用いるときは、次の条件を満たしている必要があります。
- 接続先はPAP（Password Authentication Protocol）またはCHAP（Challenge Handshake Authentication Protocol）をサポートしていること。
- CHAPで認証を行う場合は、「!M」〈P.75〉でユーザ名とパスワードを設定していること。

3）n=1およびn=2に設定した場合でも、次のときはAutoMP機能は使用されません。
- V.110通信モードのとき
- HDLC（ARA）通信モード、HDLC（無手順）通信モードのとき（PPP接続しなかったとき）
- バルク通信したとき（HDLC同期接続しなかったとき）
- ご使用のドライバや通信ソフトがMPに対応しているとき
  ※この場合、AutoMP機能が正しく動作しないことがあります。
- 接続相手がMPをサポートしていないとき

!I　初期接続Bチャネル数の設定（＊）

MP通信で発信するとき、最初に相手と接続するチャネル数を設定します。n=0に設定した場合でも、使用できるチャネル数や相手先によっては、1本のBチャネルだけでの接続になることがあります。

書式　AT!In

パラメータ	n=0	最初に2本のBチャネルを接続する
	n=1	最初に1本のBチャネルだけで接続する

!J　スループットBOD機能使用方法の設定（＊）

MP通信中、回線の混み具合に応じて、本製品が自動的にBチャネルの追加、または削除を行うかどうかを設定します。

書式　AT!Jn

パラメータ		
	n=0	Bチャネルの追加、削除は行わない（スループットBOD機能を使用しない）
	n=1	Bチャネルの追加だけ行う（スループットBOD機能を使用する）
	n=2	Bチャネルの削除だけ行う（スループットBOD機能を使用する）
	n=3	Bチャネルの追加と削除の両方を行う（スループットBOD機能を使用する）

!K　スループットBOD追加の評価方向の設定（＊）

スループットBOD機能を使用してBチャネルの追加を行う場合、回線利用率を評価するデータの方向を設定します。なお、追加を行うときの回線利用率のしきい値は、Sレジスタ179番〈P.81〉で設定します。

書式　AT!Kn

パラメータ		
	n=0	送信方向と受信方向のどちらかの回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加する
	n=1	送信方向の回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加する
	n=2	受信方向の回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加する

!L　スループットBOD削除の評価方向の設定（＊）

スループットBOD機能を使用してBチャネルの削除を行う場合、回線利用率を評価するデータの方向を設定します。なお、削除を行うときの回線利用率のしきい値は、Sレジスタ184番〈P.81〉で設定します。

書式　AT!Ln

パラメータ		
	n=0	送信と受信の両方向の回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除する
	n=1	送信方向の回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除する
	n=2	受信方向の回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除する

!M　ユーザ名とパスワードの登録

MPでの発信時にCHAP（Challenge Handshake Authentication Protocol）での認証を要求された場合、MPの2チャネル目以降のCHAP認証に使用するユーザ名とパスワードを登録します。
ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT!Mn=s

パラメータ		
	n=0	ユーザ名の登録
	n=1	パスワードの登録
	s	ターミナルで入力可能な文字列（31文字まで入力可）

注意
1）ユーザ名とパスワードを設定しない場合、CHAPでの認証は行えません。このとき、MP通信の認証は、PAP（Password Authentication Protocol）が使用されます。
2）MP通信で受信するときは、ユーザ名とパスワードを設定する必要はありません。

設定例　ユーザ名「me」、パスワード「abcd」を登録する場合
→　AT!M0=me［Enter］
→　AT!M1=abcd［Enter］

!M?ユーザ名とパスワードの表示

登録したユーザ名とパスワードを表示します。

書式　AT!M?

!P　AutoBACP機能の設定（＊）

AutoBACP機能の使用、不使用を設定します。AutoBACP機能を使用するときは、必ずAutoMP機能を使用する設定にしてください。

書式　AT!Pn

パラメータ		
	n=0	AutoBACP機能を使用しない
	n=1	AutoBACP機能を使用する

!Q　受信したBAPリクエストの対処方法の設定（＊）

AutoBACP機能を使用したMP通信中に、相手先から接続するBチャネルの追加、または、削除の問い合わせ（BAPリクエスト）が来た場合、その問い合わせの対処方法を設定します。

書式　AT!Qn

パラメータ　n={Bチャネル追加要求}+{コールバック要求}+{Bチャネル削除要求}
以下の表を参照して、それぞれのパラメータの和を設定してください。
（初期値：n=21）

	拒否する	本製品が自動応答する
Bチャネル追加要求	0	1
コールバック要求	0	4
Bチャネル削除要求	0	16

注意　AutoBACP機能を使用しない設定にした場合、ここでの設定は無効になります。受信したBAPリクエストは、そのままパソコン側に流れます。

設定例　Bチャネル追加要求を「本製品が自動応答する」、コールバック要求を「拒否する」、Bチャネル削除要求を「本製品が自動応答する」に設定する場合
→　n=1 + 0 + 16 = 17
AT!Q17［Enter］

!S　リソースBOD機能によるアナログ機器の一時的優先使用の設定（＊）

2本のBチャネルを使用してMP通信中にアナログ機器の発信または着信があったとき、「@U/82」〈P.62〉の設定とは関係なく、どちらかのBチャネルをアナログ通信に割り当てるかどうかを設定します。

書式　AT!Sn

パラメータ

n=0	アナログ機器にはBチャネルを割り当てない（リソースBOD機能を使用しない）
n=1	「@U/82」の設定にかかわらず、アナログ機器から発信するときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
n=2	「@U/82」の設定にかかわらず、アナログ機器に着信要求があったときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
n=3	「@U/82」の設定にかかわらず、アナログ機器の発信または着信があったとき、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
n=4	「@U/82」の設定に従う

*B　回線種別の設定

使用する回線種別（INSネット64または専用線）を設定します。この設定は、本製品の電源を入れ直すと有効になります。
専用線を使用するときのモードには、次の2種類があります。通常は、専用線モード1に設定してください。

・専用線モード1
電源を入れ直した後、通常どおりに電話をかける操作を行うと、相手先に接続します。接続時には、電話をかける操作を行う直前の設定内容が有効になります。

・専用線モード2
電源を入れ直すとすぐに相手先に接続します。接続時には、U点ケーブル（またはS/T点ケーブル）を接続している場合はプロファイル0または1の設定内容が有効になります（プロファイルが0か1かは、電源を入れ直す前に「&Y」〈P.71〉で指定）。U点ケーブル（またはS/T点ケーブル）を接続していない場合は、ケーブルを接続する直前の設定内容が有効になります。

なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT*Bn

パラメータ

n=0	INSネット64
n=1	専用線モード1（発信操作後に接続）
n=2	専用線モード2（電源ONと同時に接続）

注意
1）専用線モード2では、一般的なPPPソフト（Windows95/98のダイヤルアップネットワークやMacintoshのFreePPPなど）を使用できません。専用線を利用する場合は、通常は専用線モード1に設定してください。
2）本製品のルータ機能で専用線を利用する場合は、ここではn=0に設定してください。

ATコマンド一覧（INSネット64の設定用）

ここでは、INSネット64の「サブアドレス通知サービス」「ダイヤルインサービス」「グローバル着信」の設定方法について解説します。
各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTにお問い合わせください。

※太字は、購入時の値を意味します。
※ATコマンド入力時にnパラメータがあるときに、nが省略された場合は、0とみなします。

サブアドレス通知サービスの設定

$E　自サブアドレスの登録

自サブアドレスを登録します。自サブアドレスを登録すると、着サブアドレスと一致したときだけ着信を行います。
ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT$Es

パラメータ　s=数字または アルファベット　自サブアドレス（19桁まで）
※ パラメータsを省略すると、登録した自サブアドレスを削除します。
※ サブアドレスとして使用できるキャラクタは以下のとおりです。
アルファベット（大文字・小文字を区別）
数字（0〜9）
※ サブアドレス以降にコマンドを続けることはできません。

ダイヤルインサービス、グローバル着信の設定

$C　ダイヤルイン番号の登録

ダイヤルイン番号を登録します。番号を登録すると、着番号と一致したときだけ着信を行います。すべての着番号で着信したいときは、ダイヤルイン番号を登録しないでください。
また、ダイヤルイン契約をしていないときは、番号の登録は行わないでください。着信しなくなります。
ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT$Cs

パラメータ　s=数字　ダイヤルイン番号（32桁まで）
※ 登録するダイヤルイン番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※ パラメータsを省略すると、登録したダイヤルイン番号を削除します。
※ ダイヤルイン番号には0〜9、#、*が使用できます。ただし、「*」は購入時にはサブアドレス指定キャラクタとして使用されます。
※ サブアドレス指定キャラクタとして使用されているキャラクタは、ダイヤルイン番号として使用できません。
※ ダイヤルイン番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。本製品に登録されるときは、これらのキャラクタは無視または消去されます。
(､)、+、-

!E　グローバル着信の設定（＊）

グローバル着信を設定します。この設定が有効になるのは、以下のときです。
・ダイヤルイン契約していないとき（契約者回線番号で着信要求がある）
・ダイヤルイン契約時にグローバル着信利用契約を行っていて、相手側から契約者回線番号で着信要求があったとき

グローバル着信しない設定（n=0）のときは、上記の場合に着信しなくなります。グローバル着信する設定（n=1）のときは、上記の場合に着信します。
なお、ダイヤルイン契約をしているときに次の着信要求があった場合、ここでの設定は無効となり、「$C」で設定した番号と一致したときに着信します。
・グローバル着信利用契約を行っていて、相手側からダイヤルイン番号で着信要求があったとき
・グローバル着信利用しない契約を行っていて、契約者回線番号またはダイヤルイン番号で着信要求があったとき

書式　AT!En

パラメータ　n=0　しない
　　　　　　n=1　する

サブアドレス着信条件

自分側のサブアドレス（自サブアドレス）と発信側がダイヤルしたサブアドレス（着サブアドレス）によって、データ通信時の着信条件が変わります。

		自サブアドレス	
		なし	あり
発信側着サブアドレス	なし	着信する	着信しない
	あり	着信しない	サブアドレスが一致したときに着信

ダイヤルイン着信条件

INSネット64契約時の内容および本製品の設定内容と、発信側がダイヤルした番号によって、データ通信時の着信条件が変わります。

・「ダイヤルイン契約なし」のとき

相手がダイヤルした番号	着信しない設定（!E0）	着信する設定（!E1）
契約者回線番号	着信しない	着信する

・「ダイヤルイン契約あり」のとき

A．グローバル着信を利用する契約のとき

相手がダイヤルした番号	着信しない設定（!E0）	着信する設定（!E1）
契約者回線番号 （グローバル着信なしなので、着番号の通知あり）	着信しない	着信する
ダイヤルイン番号	「!E」の設定は無効 （「$C」で番号を登録していないとき、または 「$C」で登録した番号と一致したとき、着信する）	

B．グローバル着信を利用しない契約のとき

相手がダイヤルした番号	着信しない設定（!E0）	着信する設定（!E1）
契約者回線番号 （グローバル着信なしなので、着番号の通知あり）	「!E」の設定は無効 （「$C」で番号を登録していないとき、または 「$C」で登録した番号と一致したとき、着信する）	
ダイヤルイン番号		

Sレジスター覧（標準）

レジスタ番号	初期値	範囲	内容
0	1	0～255	自動着信の設定 0　しない 1～255　指定した回数のRINGを端末へ送出（3秒間隔）してから着信
3	13	0～255	CRコード
4	10	0～255	LFコード
5	8	0～255	BSコード
7	30	3～50	相手応答待ち時間（単位：秒）

※Sレジスタで設定した内容は、「&W」でプロファイルに保存され、「&F」で購入時の値に初期化されます。

Sレジスタ一覧（オリジナル）

<table>
<tr><th>レジスタ番号</th><th>初期値</th><th>範囲</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>110</td><td>0</td><td>0,1</td><td>OCNエコノミーサービス特別モードの設定
Windows95/Windows98/WindowsNT4.0のダイヤルアップネットワークでOCNエコノミーサービスに接続するとき、OCN側のルータの種類によっては通信を行えない場合があります。その場合は、1（特別モード）に設定してください。
0　通常モード
1　特別モード</td></tr>
<tr><td>120</td><td>2</td><td>0〜2</td><td>回線速度32Kbpsで発信する場合の通信方式の設定
0　ベアラ（HDLC(PPP)32Kbps通信）でのみ発信
1　PIAFSでのみ発信
2　PIAFSで発信し、PIAFSの同期がとれない場合、ベアラとする（ただし、PIAFSの仕様により、PIAFSでないと判断するまでに15秒を要する）</td></tr>
<tr><td>121</td><td>2</td><td>0〜2</td><td>回線速度32Kbpsで着信した場合の通信方式の設定
0　ベアラ（HDLC(PPP)32Kbps通信）でのみ着信
1　PIAFSでのみ着信
2　PIAFSで着信し、PIAFSの同期がとれない場合、ベアラとする（ただし、PIAFSの仕様により、PIAFSでないと判断するまでに15秒を要する）</td></tr>
<tr><td>122</td><td>0</td><td>0〜2</td><td>回線速度64Kbpsで発信した場合の通信方式の設定
0　HDLCでのみ発信
1　PIAFS 64Kbpsでのみ発信
2　PIAFS Ver.2.1でのみ発信</td></tr>
<tr><td>134</td><td>0</td><td>0,1,4,33,
36,49,50,
53,56,65</td><td>高位レイヤ整合性の設定
0　制限なし
1　電話
4　G3FAX
33　G4FAX
36　ミックスモード
49　テレテックス
50　ビデオテックス
53　テレックス
56　MHS
65　OSI</td></tr>
<tr><td>135</td><td>8</td><td>1,2,3,
5,7,8,
11,13,15</td><td>起動時DTE通信速度の設定
1　1200bps
2　2400bps
3　4800bps
5　9600bps
7　19200bps
8　38400bps
11　57600bps
13　115200bps
15　230400bps</td></tr>
<tr><td>136</td><td>2</td><td>0〜3</td><td>HDLC形式のパケットデータを生成する方式の設定
※ HDLC（無手順）通信モード（AT&Q3またはAT&Q4）時のみ有効となります。
・ サイズ方式：Sレジスタ137で設定されたパケットサイズ分のデータがコンピュータ機器から送られてきたときにパケットを生成
・ キャラクタ方式：Sレジスタ138で設定されたキャラクタがコンピュータ機器から送られてきたときにパケットを生成
・ タイマ方式：一定時間（40÷DTE通信速度<秒>）データがコンピュータ機器から送られてこないときにパケットを生成
<table>
<tr><th>パラメータ</th><th>サイズ方式</th><th>キャラクタ方式</th><th>タイマ方式</th></tr>
<tr><td>0</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>3</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>137</td><td>10</td><td>7〜10</td><td>パケットサイズの設定
※ HDLC（無手順）通信モード（AT&Q3またはAT&Q4）時のみ有効となります。
7　128バイト
8　256バイト
9　512バイト
10　1024バイト</td></tr>
</table>

レジスタ番号	初期値	範囲	内容
138	13{CR}	0〜255	パケットの区切りを示すASCIIコードキャラクタの設定 ※ HDLC（無手順）通信モード（AT&Q3またはAT&Q4）時のみ有効となります。
141	12	0,5,7,8, 9,10,12	低位レイヤ整合性がないときの通信速度の設定 0　DTE速度　9　32000bps 5　9600bps　10　56000bps 7　19200bps　12　64000bps 8　38400bps
174	42 (*)	0〜255	サブアドレス指定キャラクタの設定 サブアドレスを示すキャラクタをカスタマイズすることができます。キャラクタはASCIIコードで指定します。 ※ 購入時のサブアドレス指定キャラクタは、「*」（ASCIIコードは16進数で「$2A」、10進数で42）です。 例）サブアドレスを示す記号を「/」にしたいとき ATS174=$2F（$2Fは/の16進数のASCIIコード） 例）サブアドレスを示す記号を「#」にしたいとき ATS174=35（35は＃の10進数のASCIIコード）
176	10	1〜255	スループットBOD機能を使用してBチャネルを追加するための評価時間の設定 本製品がBチャネルの追加を行う場合、回線利用率を算出するための評価時間の設定（単位：秒）
177	0	0〜255	スループットBOD機能で使用するBチャネル追加状態の最小状態保持時間の設定（上位バイト） 一度Bチャネルが追加されると、最小状態保持時間が経過するまでBチャネルは削除されません。（1単位：256秒） 最小保持時間は、Sレジスタ177番とSレジスタ178番の値の合計です。
178	10	1〜255	スループットBOD機能で使用するBチャネル追加状態の最小保持時間の設定（下位バイト） 一度Bチャネルが追加されると、最小状態保持時間が経過するまでBチャネルは削除されません（単位：秒） 最小状態保持時間は、Sレジスタ177番とSレジスタ178番の値の合計です。
179	50	0〜100	スループットBOD機能で使用するBチャネルの追加を行うかどうかの判定基準となる回線利用率（しきい値）の設定 回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加します。（単位：パーセント）
181	10	1〜255	スループットBOD機能を使用してBチャネルを削除するための評価時間の設定 本製品がBチャネルの削除を行う場合、回線利用率を算出するための評価時間の設定（単位：秒）
182	0	0〜255	スループットBOD機能で使用するBチャネル削除状態の最小状態保持時間の設定（上位バイト） 一度Bチャネルが削除されると、最小状態保持時間が経過するまでBチャネルは追加されません（1単位：256秒） 最小状態保持時間は、Sレジスタ182番とSレジスタ183番の値の合計です。
183	10	1〜255	スループットBOD機能で使用するBチャネル削除状態の最小状態保持時間の設定（下位バイト） 一度Bチャネルが削除されると、最小状態保持時間が経過するまでBチャネルは追加されません。（単位：秒） 最小状態保持時間は、Sレジスタ182番とSレジスタ183番の値の合計です。
184	0	0〜100	スループットBOD機能で使用するBチャネルの削除を行うかどうかの判定基準となる回線利用率（しきい値）の設定 回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除します（単位：パーセント）

※Sレジスタで設定した内容は、「&W」でプロファイルに保存され、「&F」で購入時の値に初期化されます。

応答コード一覧

数字形式	単語形式	X0	X1	X2	X3	内容
0	OK	○	○	○	○	ATコマンド正常実行
1	CONNECT	○				回線を接続した
2	RING	○	○	○	○	着信した
3	NO CARRIER	○	○	○		回線が接続できなかった
4	ERROR	○	○	○	○	ATコマンドエラー
5	CONNECT 1200		○	○	○	1200bpsで回線を接続した
7	BUSY			○		相手が通信中
8	NO ANSWER			○		相手が応答しない
10	CONNECT 2400		○	○	○	2400bpsで回線を接続した
11	CONNECT 4800		○	○	○	4800bpsで回線を接続した
12	CONNECT 9600		○	○	○	9600bpsで回線を接続した
14	CONNECT 19200		○	○	○	19200bpsで回線を接続した
18	CONNECT 57600		○	○	○	57600bpsで回線を接続した
19	CONNECT 115200		○	○	○	115200bpsで回線を接続した
20	CONNECT 230400		○	○	○	230400bpsで回線を接続した
28	CONNECT 38400		○	○	○	38400bpsで回線を接続した
31	DELAYED		○	○	○	再発信規制のため発信できない
32	CONNECT 32000		○	○	○	32000bpsで回線を接続した
33	CONNECT 56000		○	○	○	56000bpsで回線を接続した
34	CONNECT 64000		○	○	○	64000bpsで回線を接続した
35	CONNECT 128000		○	○	○	128000bpsで回線を接続した
201	LINE OFF 001				○	網からの切断理由表示
：						※切断理由については、「網切断理由一覧」を
327	LINE OFF 127					参照
329	LINE OFF LAYER 1				○	レイヤ1エラー
330	LINE OFF LAYER 2				○	レイヤ2エラー
331	LINE OFF ATD STOP				○	回線接続中にキーが押された
333	LINE OFF ATD TIME OUT				○	指定時間内に接続できなかった
339	LINE OFF DTR OFF				○	DTRオフにより切断した
340	LINE OFF COMM TIME OUT				○	指定時間通信が行われなかった
341	LINE OFF DETECT BREAK				○	ブレーク検出により切断した

ATコマンド

網切断理由一覧

番号	網切断理由
	【正常イベントクラス】
001	欠番
002	指定中継網へのルートなし
003	相手へのルートなし
006	チャネル利用不可
007	呼が設定済みのチャネルへ着信
016	正常切断
017	着ユーザービジー
018	着ユーザー応答なし
019	着ユーザー呼び出し中、応答なし
020	加入者不在
021	通信拒否
022	相手加入者番号変更
026	選択されなかったユーザーの切断復旧
027	相手端末故障中
028	無効信号フォーマット

	【正常イベントクラス　つづき】
029	ファシリティ拒否
030	状態問い合わせへの応答
031	その他の正常クラス
	【リソース使用不可クラス】
034	利用可回線／チャネルなし
038	網障害
041	一時的障害
042	交換機輻輳（ふくそう）
043	アクセス情報破棄
044	要求回線／チャネル利用不可
047	その他のリソース使用不可クラス
	【サービス利用不可クラス】
049	QOS利用不可
050	要求されたファシリティ不可
057	伝達能力不許可
058	現在利用不可伝達能力
063	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス
	【サービス未提供クラス】
065	未提供伝達能力指定
066	未適用チャネル種別指定
069	未提供ファシリティ要求
070	制限デジタル情報伝達能力のみ可能
079	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス
	【無効メッセージクラス】
081	無効呼番号使用
082	無効チャネル番号使用
083	指定された中継呼識別番号未使用
084	中継呼識別番号使用中
085	中継呼なし
086	指定中断呼切断復旧済み
087	CUGのメンバでないユーザ
088	端末属性不一致
091	無効中継網選択
095	その他の無効メッセージクラス
	【手順誤りクラス】
096	必須情報要素不足
097	メッセージ種別未定義または未提供
098	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義または未提出
099	情報要素未定義
100	情報要素の内容が無効
101	呼状態とメッセージ不一致
102	タイマ満了による回復
111	その他の手順誤りクラス
	【インターワーキングクラス】
127	その他のインターワーキングクラス

TA機能用　X.28コマンドリファレンス

Dチャネルパケット通信に使用するX.28コマンド、PADパラメータ、Sレジスタ、PADサービス信号、リセットサービス表示、切断サービス表示、エラーサービス表示の一覧を掲載しています。

X.28コマンド一覧

※［　］内はオプションです。省略することができます。

AT　ATコマンドモードへ復帰

ATコマンドモードへ復帰します。

書式　AT

選択PADコマンド

発呼要求を行います。複数の{ファシリティ}を指定するときは、「,」で区切ります。

書式　[{ファシリティ}-]{発信アドレス}[D{ユーザデータ}]

{ファシリティ}	R	着信課金要求 指定しない場合、Sレジスタ166番〈P.87〉の設定になります。
	Dx	スループットクラスネゴシエーション （単位：bit/s） 設定しない場合、網が設定する初期値になります。ただし、発信側着信側のどちらか一方がネゴシエーションファシリティを契約していない場合、両ユーザのデフォルトスループットクラス値およびどちらか一方で指定された値のうち、最も小さい値となります。 x=5　300　x=8　2400 x=6　600　x=9　4800 x=7　1200　x=10　9600
	Px	パケットサイズネゴシエーション（単位：バイト） 設定しない場合、網が設定する初期値になります。 ただし、発信側・着信側のどちらか一方がフロー制御パラメータ利用選択ファシリティを契約していない場合、x=7になります。 x=7　128　x=8　256
	Wx	ウィンドウサイズネゴシエーション 設定しない場合、網が設定する初期値になります。 ただし、発信側・着信側のどちらか一方がネゴシエーションファシリティを契約していない場合、x=2になります。 x=1～5
	F	ファーストセレクト（応答制限なし） ファーストセレクトを要求するときに設定します。 ただし、着信側でファーストセレクト受託ファシリティを契約しておく必要があります。
	Q	ファーストセレクト（応答制限あり） ファーストセレクトを要求するときに設定します。 ただし、着信側でファーストセレクト受託ファシリティを契約しておく必要があります。
-		ファシリティと発信先アドレスの区切り
{発信先アドレス}	{アドレス}[/{サブアドレス}]	アドレス：発信先のアドレスを指定（最大15桁まで入力可） サブアドレス：発信先のサブアドレスを指定」（最大40桁まで入力可） アドレスとサブアドレスの区切りには/を入力
D	発信先アドレスとユーザデータの区切り	
{ユーザデータ}	キャラクタ列を指定（ただし、スペース、制御キャラクタ、DELキャラクタを除く）。ファーストセレクトを指定したときは、最大124桁まで入力可。指定しないときは、最大12桁まで入力可。	

設定例
1）スループットクラスネゴシエーション9600bps、ウィンドウサイズネゴシエーション5、ファーストセレクト（応答制限あり）を要求、発信先アドレス1234567、ユーザデータABCを指定するとき
→　D10W5Q-1234567DABC［Enter］
2）発信先アドレス1234567のみ指定するとき
→　1234567［Enter］

CLR　復旧要求

復旧要求を行います。

書式　CLR[{ユーザデータ}]

{ユーザデータ}　ファーストセレクトを指定したときだけ、最大128桁のキャラクタ列を入力可。

STAT　通信状態の問い合わせ

通信状態に応じてPADサービス信号を返送します。

書式　STAT

RESET　リセット要求

リセット要求を行います。

書式　RESET

SET　PADパラメータの設定

PADパラメータ値を設定します。

書式　SET{設定リスト}

{設定リスト}　n : x[, n : x...]

n =PADパラメータ番号（1～19）
: =パラメータ番号とパラメータ値の区切り
x =PADパラメータ値
, =複数のPADパラメータの区切り

設定例　PADパラメータ6番を５に設定する場合
→　SET6 : 5

SET?PADパラメータの設定と読み出し

PADパラメータ値を設定し、設定後に内容を読み出します。

書式　SET?{設定リスト}

{設定リスト}　n : x[, n : x...]

n =PADパラメータ番号（1～19）
: =パラメータ番号とパラメータ値の区切り
x =PADパラメータ値
, =複数のPADパラメータの区切り

PAR?PADパラメータの読み出し

PADパラメータの内容を読み出します。

書式　PAR?{パラメータリスト}

{パラメータリスト}　n[, n...]

n =PADパラメータ番号（1～20）
, =複数のPADパラメータの区切り

PADパラメーター一覧

PADパラメータは保存できません。そのため、初期値以外の設定で通信するときは、X.28コマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードに移った後、SETコマンドなどで再設定する必要があります。

番号	初期値	パラメータ名	説明	備考
01	1	PAD再呼出	0　不可能 1　可能（DLE）	
02	1	エコー	0　エコーしない 1　エコーする	
03	2	パケット送出 文字	0　なし 1　0〜9、A〜Z、a〜zのキャラクタ 2　CR 4　ESC、BEL、ENQ、ACK 6　ESC、BEL、ENQ、ACK、CR 8　DEL、CAN、DC2 16　ETX、EOT 18　ETX、EOT、CR 32　HT、LF、VT、FF 64　上記の2、4、8、16、32以外の コラム0と1の全て 126　コラム0と1の全てとDEL	
04	20	パケット送出 タイミング	0　タイムアウトなし 1〜255　設定値×0.05秒	
05	不定	端末からの受信 フロー制御	ATコマンドの「\Q」に従う （データ転送中のみ）	変更できません
06	5	PADサービス 信号の制御	0　サービス信号を送信しない 1　PADサービス信号を送信 5　PADサービス信号とプロンプト PADサービス信号を送信	
07	0	ブレーク信号 受信時の動作	0　何もしない 8　データ送信状態からエスケープ	
08	1	X.29データ廃棄	廃棄する	変更できません
09	0	CR後のパディング	行わない	変更できません
10	0	1行字数の指定	規定なし	変更できません
11	0	端末の通信速度		読み出し専用 ※値に意味はありません
12	不定	端末への送信 フロー制御	ATコマンドの「\Q」に従う （データ転送中のみ）	変更できません
13	0	CR後のLFの挿入	なし	変更できません
14	0	LF後のパディング	行わない	変更できません
15	0	編集機能の使用	データ転送中は編集しない	変更できません
16	不定	キャラクタ削除	0〜127　キャラクタ	初期値はSレジスタ5番の値に従います
17	24	行削除	0〜127　キャラクタ	
18	18	行表示	0〜127　キャラクタ	
19	2	PAD編集 サービス信号	0　使用しない 2　ディスプレイ端末	
20	0	エコーマスク	行わない	変更できません

Sレジスタ一覧（パケット関係）

Dチャネルパケット通信に関係しているSレジスタは、次のとおりです。

レジスタ番号	初期値	範囲	内容
160	0	0〜2	Dチャネルパケット VC/PVCの選択 0　VC（TEI指定しない） 1　PVC 2　VC（TEI指定）
161	0	0〜63	Dチャネルパケット TEIの設定 ※ Dチャネルパケットの契約時に指定したTEIを設定してください。
162	0	0〜15	X.25論理チャネルグループ番号 ※ Dチャネルパケットの契約時に指定したLCGNを指定してください。契約時に指定していないときは、初期値のままで使用されることをお勧めします。
163	1	1〜255	X.25論理チャネル番号 ※ Dチャネルパケットの契約時に指定したLCNを設定してください。契約時に指定していないときは、初期値のままで使用されることをお勧めします。
164	0	0,1	X.25パケットサイズ 0　128バイト 1　256バイト ※ PVCの場合、Dチャネルパケットの契約時に指定したパケットサイズを設定してください。
165	2	2〜5	X.25ウインドウサイズ ※ PVCの場合、Dチャネルパケットの契約時に指定したウィンドウサイズを設定してください。
166	0	0,1	X.25着信課金要求 0　しない 1　する ※ 発信したときに、相手側に着信課金を要求するかしないかを設定してください。選択PADコマンドの「R」と同じ機能です。
167	0	0,1	X.25着信課金許可 0　しない 1　する ※ 着信したときに、相手側が着信課金を要求している場合、それを許可するかしないかを設定してください。
168	0	0,1	X.25Dビット制御 0　しない 1　する ※ エンド・エンド確認するときに設定してください。ただし、Dチャネルパケット契約時に「Dビット修飾機能」を「要」にしたときは、0に設定してください。

※Sレジスタに設定した内容は、「&W」でプロファイルに保存され、「&F」で購入時の値に初期化されます。

PADサービス信号一覧

種別	名称	書式	機能
PADコマンドの応答	確認表示	なし	SET、RESETコマンドの応答
	復旧確認	CLR CONF	CLRコマンドによる復旧
	エラー表示	ERR x	入力コマンドによるエラー x=エラー原因 ※「エラーサービス表示一覧」〈P.89〉を参照
	状態表示	FREE ENGAGED	STATの応答：未接続を示す STATの応答：接続済みを示す
	パラメータ値表示	PAR n:k[,n:k...]	SET?、PAR?コマンドの応答 n=パラメータ番号 k=パラメータ値またはINV
	接続完了	{相手アドレス} [FAC:XX...X,...] [{ユーザデータ}] COM	相手との接続が完了し、通信可であることを示す XX...X　ファシリティ
網側状態の表示	着信表示	{相手アドレス} [FAC:XX...X,...] [{ユーザデータ}] COM	着信により、通信可であることを示す XX...X　ファシリティ
	切断表示	CLR xxx C:yyy D:zzz	接続が切断されたことを示す xxx=原因 yyy=原因コード zzz=診断コード ※「切断サービス表示一覧」〈P.89〉を参照
	リセット表示	RESET xxx C:yyy D:zzz	リセットが行われたことを示す xxx=原因 yyy=原因コード zzz=診断コード ※下記の「リセットサービス表示一覧」を参照
その他	プロンプト表示	*	コマンド入力が可能であることを示す

リセットサービス表示一覧

表示	切断原因	切断原因コード
DTE	リモートDTEリセット	0
DER	リモートDTE障害	1
RPE	リモート手順誤り	3
ERR	ローカル手順誤り	5
NC	網輻輳	7
ROP	リモートDTE回復	9
NOP	網運用可	15
PERR	相手プロトコル不一致	17
ND	網障害	29

切断サービス表示一覧

表示	切断原因	切断原因コード
DTE	DTE切断	0
OCC	ビジー	1
INV	ファシリティ不正	3
NC	網輻輳	5
DER	障害	9
NA	接続不許可	11
NP	接続不可	13
RPE	リモート手順誤り	17
ERR	ローカル手順誤り	19
ROO	RPOA障害	21
RCN	着信課金未登録	25
ID	相手プロトコル不一致	33
FNA	ファーストセレクト未登録	41
RNA	着信課金拒否	49
SA	船との接続不可能	57

エラーサービス表示一覧

表示	エラー原因
CMD	コマンド
PAR	PADパラメータ
NOC	未接続（接続後のみ有効なコマンド）
CON	既接続（未接続時のみ有効なコマンド）
TOV	タイムアウト

TA機能用　ATコマンドリファレンス（Dチャネルパケット通信時）

Dチャネルパケット通信に使用するATコマンド、Sレジスタ、応答コードの一覧を掲載しています。

ATコマンド一覧（Dチャネルパケット通信時）

Dチャネルパケット通信の設定で使用できるATコマンドは、ここで解説するものだけです。それ以外のATコマンドで設定すると、内容は保存されますが、Dチャネルパケット通信の動作には影響しません。

Dチャネルパケット通信でこれらの設定を有効にするには、設定後に必ず「AT!A3」と入力して、ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードに移行してください。すでに「AT!A3」と入力していても、もう一度行う必要があります。

※太字は、購入時の値を意味します。
※ATコマンド入力時にnパラメータがあるときに、nが省略された場合は、0とみなします。
※［　］内はオプションです。省略することができます。
※（＊）が付いているコマンドは、「&W」で設定内容がプロファイルに保存され、「&F」で購入時の設定に初期化されます。

A/　直前に入力したコマンドの再実行

コマンドバッファ内に残っているコマンドを再実行します。リダイヤルなどに利用できます。「AT」および［Enter］キーを入力する必要はありません。

書式　A/

D　発信

このコマンドに続くパラメータに従って発信します。コマンド実行中にキャラクタを受信すると発信を中止します。

書式
ATD{回線番号}[*{サブアドレス}]
ATDS=n
ATDL

パラメータ

{回線番号}	数字　相手先の回線番号（32桁まで） ※ 回線番号には数字のみ使用できます。 ※ 回線番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。発信時や本製品に登録時は、これらのキャラクタは無視または消去されます。 （、）、+、-
*	サブアドレス指定キャラクタ ※ サブアドレス指定キャラクタはSレジスタ174番〈P.98〉で指定します（購入時は「*」）。
{サブアドレス}	数字　相手先のサブアドレス（19桁まで） ※ サブアドレスには数字のみ使用できます。 ※ サブアドレス以降にコマンドを続けることはできません。
S=n	「&Z」〈P.93〉で登録した回線番号に発信 n=0〜9
L	最後に発信した宛先へ発信

設定例
１）回線番号「03-1234-5678」、サブアドレス「001」へ発信するとき
　→　ATD0312345678*001［Enter］
２）登録番号0へ発信するとき
　→　ATDS=0［Enter］
３）最後に発信した宛先へ発信するとき
　→　ATDL［Enter］

E　エコーバックの設定（＊）

コマンドモード時のエコーバックの有無を設定します。

書式　ATEn

パラメータ

n=0	エコーバック無
n=1	エコーバック有

H　回線の切断

接続している回線を切断します。これ以降のコマンドは無視されます。

書式　ATH

注意　回線を切断するときは、「+++」と入力してエスケープモードに移ってから、このコマンドを使用してください。

I　製品情報の表示

本製品の情報を表示します。

書式　ATIn

パラメータ

n=0	使用可能な最高回線通信速度
n=2	製品名
n=3	ファームウェアバージョン

O　オンラインモードへ移る

エスケープモードからオンラインモードへ移ります。これ以降のコマンドは無視されます。

書式　ATO

Q　応答コード表示の有無（＊）

応答コードの表示の有無を設定します。応答コードについては、「応答コード一覧（Dチャネルパケット通信時）」〈P.97〉を参照してください。

書式　ATQn

パラメータ

n=<u>0</u>	応答コード表示
n=1	応答コード非表示

S　Sレジスタ関連コマンド

1．Sレジスタの内容を表示します。Sレジスタについては、「Sレジスタ一覧（標準・Dチャネルパケット通信時）」〈P.95〉以降を参照してください。

書式　ATSr?

パラメータ

r=0〜255	Sレジスタ番号

2．Sレジスタの内容を設定します。16進数でパラメータを指定するときは、必ず数字の前に$を付け、パラメータを2桁にしてください。

書式　ATSr=n

パラメータ

r=0〜255	Sレジスタ番号
n=0〜255、$00〜$FF	パラメータ値

V　応答コード形式の設定（＊）

応答コード表示形式を設定します。応答コードについては、「応答コード一覧（Dチャネルパケット通信時）」を参照してください。

書式　ATVn

パラメータ

n=0	数字形式
n=<u>1</u>	単語形式

X　応答コードモードの設定（＊）

応答コードモードを設定します。応答コードについては、「応答コード一覧（Dチャネルパケット通信時）」を参照してください。

書式　ATXn

パラメータ

n=<u>0</u>	基本応答コード
n=1	拡張応答コード1
n=2	拡張応答コード2
n=3	拡張応答コード3

Y　ブレーク信号の設定（＊）

ブレーク信号による本製品の制御を設定します。

書式	ATYn	
パラメータ	n=0	何もしない
	n=1	回線を切断

Z　プロファイルの読み込み

内部に保存しているATコマンド、Sレジスタを読み込みます。
ただし、次のコマンドで設定した内容に関しては、プロファイルに保存されないため、読み込まれません。
「&Y 」「&Z」「!D」「!M」「*B」「$C」「$E」「*C」「*E」「*F」

書式	ATZn	
パラメータ	n=0	プロファイル0番の内容をSレジスタへ読み込み
	n=1	プロファイル1番の内容をSレジスタへ読み込み

&C　DCD信号制御の設定（＊）

DCD信号の制御を設定します。

書式	AT&Cn	
パラメータ	n=0	DCD信号は常にオン
	n=1	DCD信号は回線接続中オン

&D　DTR信号オフによる本製品の制御の設定（＊）

DTR信号オフ時の本製品の制御を設定します。

書式	AT&Dn	
パラメータ	n=0	何もしない
	n=1	エスケープモードへ移る
	n=2	回線を切断
	n=3	回線を切断、Sレジスタを初期化

注意　n=0に設定した場合、通信ソフトで切断しても回線が切断されない場合があります。通信ソフトで切断後、必ず本体のD、B1、B2のLEDが消えていることを確認してください。

&F　Sレジスタと初期値のあるコマンドの初期化

Sレジスタと、購入時に初期値のあるATコマンドを購入時の設定に戻します。
ただし、次のコマンドで設定した内容に関しては初期化されません。
「&Y」「&Z」「!D」「!M」「*B」「$C」「$E」「*C」「*E」「*F」

書式　AT&F

&S　DSR信号制御の設定（＊）

DSR信号の制御を設定します。

書式	AT&Sn	
パラメータ	n=0	DSR信号は常にオン
	n=2	DCDと同じ動作をする

&T　本製品のテスト

本製品のテストを行います。
LEDテストを行うと、LEDが上から順番に1つずつ点灯します。
RAMテスト、ファームウェアのチェック、S/T点テストを行うと、正常に動作しているときは、「OK」が表示されます。不具合があるときは「ERROR」が表示されます。
液晶ディスプレイテストを行うと、液晶ディスプレイのバックライトが点灯し、すべてのアイコンが1秒間点灯します。
通信中にはこのテストを行うことはできません。この場合は「ERROR」が表示されます。

書式	AT&Tn	
パラメータ	n=0	LEDテスト
	n=1	RAMテスト
	n=2	ファームウェアをチェック
	n=3	S/T点テスト ※ ISDN回線を接続した状態で行うこと
	n=4	液晶ディスプレイテスト
注意	S/T点テストは、本製品に内蔵のDSUを使用しない場合に、本製品とDSU間のケーブルの接続またはDSUの設置が正しく行われているかどうかをテストします。そのため、本製品とDSUをケーブルで接続した状態で、S/T点テストを行ってください。本製品に内蔵のDSUを使用する場合は、このテストを行う必要はありません。	

&V　登録回線番号の表示

登録したすべての回線番号とサブアドレスを表示します。

書式	AT&V

&W　プロファイルに保存

プロファイルにATコマンドの設定、およびSレジスタの内容を保存します。
ただし、次のコマンドで設定した内容に関しては、プロファイルには保存されません。
「&Y」「&Z」「!D」「!M」「*B」「$C」「$E」「*C」「*E」「*F」

書式	AT&Wn	
パラメータ	n=0	プロファイル0に保存
	n=1	プロファイル1に保存

&Y　プロファイル選択

起動時に、ATコマンドの設定、およびSレジスタに読み込まれるプロファイル番号を指定します。

書式	AT&Yn	
パラメータ	n=0	プロファイル0の内容を読み込む
	n=1	プロファイル1の内容を読み込む

&Z　回線番号の登録、消去

回線番号、サブアドレスを登録します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT&Zn={回線番号}[*{サブアドレス}]
※「=」以降を省略すると（AT&Zn=［Enter］）、登録した回線番号とサブアドレスを削除します。

パラメータ	n=0〜9	登録番号
	{回線番号}	数字　相手先の回線番号（32桁まで） ※ 登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ※ 回線番号には数字のみ使用できます。 ※ サブアドレス指定キャラクタとして使用しているキャラクタは、回線番号として使用できません。 ※ 回線番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。発信時や本製品に登録時は、これらのキャラクタは無視または消去されます。 (、)、+、-
	*	サブアドレス指定キャラクタ ※ サブアドレス指定キャラクタはSレジスタ174番〈P.97〉で指定します（購入時は「*」）。
	{サブアドレス}	数字　相手先のサブアドレス（19桁まで） ※ サブアドレスには数字のみ使用できます。 ※ サブアドレス以降にコマンドを続けることはできません。

\Q　フロー制御方式の設定（＊）

フロー制御を設定します。

書式　AT¥Qn

パラメータ	n=0	なし
	n=1	XON/XOFF
	n=3	RTS/CTS

\S　TAの状態を表示

TAの状態を表示します。

書式　AT¥Sn

パラメータ	n=0	TA機能の設定内容を表示

%R　全Sレジスタの表示

すべてのSレジスタの内容を表示します。

書式　AT%R

!A　通信形式の設定（＊）

通信形式を設定します。

書式　AT!An

パラメータ	n=0	ATコマンド/Bチャネル回線交換サービスモード
	n=2	X.28コマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード
	n=3	ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード

注意　設定内容を変更した場合は、必ず「AT!A3」をもう一度入力して、ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードに入り直してください。この操作をしないと、設定が有効になりません。

設定例　次の電源投入時にから常にATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードにしたい場合（nはプロファイル番号）
→　AT!A3&Wn&Yn［Enter］

!B　サブアドレス通知の設定（＊）

発信時に自分の回線番号のサブアドレスを接続相手に通知するかどうかを設定します。サブアドレスは、「$E」〈P.96〉でサブアドレスを設定している場合のみ通知されます。

書式	AT!Bn	
パラメータ	n=0	サブアドレスを通知しない
	n=1～4	サブアドレスを通知する（初期値：n=3）
注意	Dチャネルパケット通信では、発信者番号は常に通知されます。	

!C　識別着信可否の設定（＊）

着信時に接続相手によって、着信するかしないかを設定します。

書式	AT!Cn	
パラメータ	n=0	すべて着信
	n=1	着信相手を識別して着信

!D　識別着信番号の登録（＊）

識別着信する回線番号、サブアドレスを登録します。
なお、ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式	AT!Dn={回線番号}[*{サブアドレス}] ※「=」以降を省略すると（AT!Dn=［Enter］)、登録した回線番号とサブアドレスを削除します。	
パラメータ	n=0～9	登録番号
	{回線番号}	数字　相手先の回線番号（32桁まで） ※ 登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。 ※ 回線番号には数字のみ使用できます。 ※ サブアドレス指定キャラクタとして使用されているキャラクタは、回線番号として使用できません。 ※ 回線番号中に、以下のキャラクタを入れることができます。本製品に登録されるときは、これらのキャラクタは無視または消去されます。 (、)、+、-
	*	サブアドレス指定キャラクタ ※ サブアドレス指定キャラクタはSレジスタ174番〈P.98〉で指定します（購入時は「*」)。
	{サブアドレス}	数字　相手先のサブアドレス（19桁まで） ※ サブアドレスには数字のみ使用できます。 ※ サブアドレス以降にコマンドを続けることはできません。

!D?識別着信番号の表示

識別着信番号を表示します。

書式	AT!D?

!F　通信フォーマットの設定（＊）

通信フォーマットを設定します。通信フォーマットは、電源投入時に有効になります。

書式	AT!Fn	
パラメータ	n=0	8ビットパリティなし
	n=1	7ビット奇数パリティ
	n=2	7ビット偶数パリティ

$E　　自サブアドレスの登録

自サブアドレスを登録します。自サブアドレスを登録すると、着サブアドレスと一致したときだけ着信を行います。
ここで設定した内容は、このコマンドを実行したときに保存されますので、「&W」で設定を保存したり、「Z」で設定を読み込む必要はありません。

書式　AT$Es

パラメータ　s=数字　自サブアドレス（19桁まで）
※ パラメータsを省略すると、登録した自サブアドレスを削除します。
※ サブアドレスには、数字のみ使用できます。
※ サブアドレス以降にコマンドを続けることはできません。

ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード時のPADパラメータ

ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードのとき、PADパラメータは以下のように固定されます。

番号	初期値	パラメータ名	説明	備考
01	0	PAD再呼出	不可能	変更できません
02	不定	エコー	オンラインモード時： Sレジスタ159番の値に従う コマンドモード時： ATコマンドの「E」に従う	
03	不定	パケット送出文字	Sレジスタ158番の値に従う	
04	不定	パケット送出タイミング	Sレジスタ157番の値に従う	
05	不定	端末からの受信フロー制御	ATコマンドの「\Q」に従う （データ転送中のみ）	
07	不定	ブレーク信号受信時の動作	ATコマンドの「Y」に従う	
08	1	X.29データ廃棄	廃棄する	変更できません
09	0	CR後のパディング	行わない	変更できません
10	0	1行字数の指定	規定なし	変更できません
11	0	端末の通信速度	読み出し専用	※値に意味はありません
12	不定	端末への送信フロー制御	ATコマンドの「\Q」に従う （データ転送中のみ）	
13	0	CR後のLFの挿入	なし	変更できません
14	0	LF後のパディング	行わない	変更できません
15	0	編集機能の使用	データ転送中は編集しない	変更できません
16	不定	キャラクタ削除	0～127キャラクタ	初期値はSレジスタ5番の値に従います
17	24	行削除	24キャラクタ	変更できません
18	18	行表示	8キャラクタ	変更できません
19	2	PAD編集サービス信号	ディスプレイ端末	変更できません
20	0	エコーマスク	行わない	変更できません

Sレジスタ一覧（標準・Dチャネルパケット通信時）

Dチャネルパケット通信でこれらの設定を有効にするには、設定後に必ず「AT!A3」と入力して、ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードに移行してください。すでに「AT!A3」と入力していても、もう一度行う必要があります。

レジスタ番号	初期値	範囲	内容
3	13	0～255	CRコード
4	10	0～255	LFコード
5	8	0～255	BSコード

※Sレジスタ0番は、1に固定されます。
※Sレジスタで設定した内容は、「&W」でプロファイルに保存され、「&F」で購入時の値に初期化されます。

Sレジスタ一覧（パケット関係）

Dチャネルパケット通信でこれらの設定を有効にするには、設定後に必ず「AT!A3」と入力して、ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモードに移行してください。すでに「AT!A3」と入力していても、もう一度行う必要があります。

レジスタ番号	初期値	範囲	内容
157	20	0〜255	パケット送出タイミングの設定 0　タイムアウトなし 1〜255　設定値×0.05秒
158	2	0,2	パケット送出文字の設定 0　なし 2　CR
159	0	0,1	通信中のローカルエコーバックの設定 0　エコーバックなし 1　エコーバックあり
160	0	0〜2	Dチャネルパケット VC/PVCの選択 0　VC（TEI指定しない） 1　PVC 2　VC（TEI指定） ※「ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード」では、VC接続のみ行うことができます。0または2に設定してください。
161	0	0〜63	Dチャネルパケット TEIの設定 ※ Dチャネルパケットの契約時に指定したTEIを設定してください
162	0	0〜15	X.25論理チャネルグループ番号 ※ Dチャネルパケットの契約時に指定したLCGNを指定してください。契約時に指定していないときは、初期値のままで使用されることをお勧めします。
163	1	1〜255	X.25論理チャネル番号 ※ Dチャネルパケットの契約時に指定したLCNを設定してください。契約時に指定していないときは、初期値のままで使用されることをお勧めします。
166	0	0,1	X.25着信課金要求 0　しない 1　する ※ 発信したときに、相手側に着信課金要求するかしないかを設定してください。
167	0	0,1	X.25着信課金許可 0　しない 1　する ※ 着信したときに、相手側が着信課金要求している場合、それを許可するかしないかを設定してください。

レジスタ番号	初期値	範囲	内容
168	0	0,1	X.25Dビット制御 0　しない 1　する ※ エンド・エンド確認するときに設定してください。ただし、Dチャネルパケット契約時に「Dビット修飾機能」を「要」にしたときは、0に設定してください。
174	42（*）	0〜255	サブアドレス指定キャラクタ サブアドレスを示すキャラクタをカスタマイズすることができます。キャラクタはASCIIコードで指定します。 ※ 購入時のサブアドレス指定キャラクタは、「*」（ASCIIコードは16進数で「$2A」、10進数で42）です。 例１）サブアドレスを示す記号を「/」にしたいとき ATS174=$2F （$2Fは/の16進数のASCIIコード） 例２）サブアドレスを示す記号を「＃」にしたいとき ATS174=35 （35は＃の10進数のASCIIコード）

※Sレジスタで設定した内容は、「&W」でプロファイルに保存され、「&F」で購入時の値に初期化されます。

応答コード一覧（Dチャネルパケット通信時）

数字形式	単語形式	X0	X1	X2	X3	内容
27	CONNECT D-PACKET		○	○	○	Dチャネルパケット交換サービスで回線を接続した
400	LINE OFF 000				○	DTE切断
401	LINE OFF 001				○	ビジー
403	LINE OFF 003				○	ファシリティ不正
405	LINE OFF 005				○	網輻輳
409	LINE OFF 009				○	障害
411	LINE OFF 011				○	接続不許可
413	LINE OFF 013				○	接続不可
417	LINE OFF 017				○	リモート手順誤り
419	LINE OFF 019				○	ローカル手順誤り
421	LINE OFF 021				○	RPOA障害
425	LINE OFF 025				○	着信課金未登録
433	LINE OFF 033				○	相手プロトコル不一致
441	LINE OFF 041				○	ファーストセレクト未登録
449	LINE OFF 049				○	着信課金拒否
457	LINE OFF 057				○	船との接続不許可

全設定消去用　ATコマンド・設定コード

本製品の設定内容や通信記録の情報を消去します。

※ATコマンド入力時にnパラメータがあるときに、nが省略された場合は、0とみなします。

*D/#2　設定/情報の消去

本製品に設定されている内容を購入時の設定に戻し、通信記録の情報を消去します。
登録した電話番号やサブアドレスなどもすべて消去されますので、ご注意ください。

ATコマンド　AT*Dn

設定コード　#2n

パラメータ
n=0　ルータ機能の設定の消去
n=1　TA機能の設定の消去
n=2　アナログ機能の設定の消去
n=3　接続/切断ログ情報の消去
n=4　通信料金情報の消去
n=5　自動接続制限情報の消去
n=99　上記の全設定/情報の消去

注意　ルータ機能の設定の消去をすると、本体に設定されている日付と時刻が購入時の設定に戻り、液晶ディスプレイの日付と時刻の表示がすべて「-」（ハイフン）になります。

電話機からの設定操作について

※ボタンを押した後、次のボタンを押すまでに40秒以上経過すると、受話器から話し中音が聞こえます。この場合は受話器を置き、操作を最初からやり直してください。
※設定確認（#2）および擬似ナンバー・アナウンス機能（#3）の操作中は、アナログ機能、ルータ機能、TA機能の発着信はできません。
※Bチャネルを1本でも使用している場合、設定確認（#2）および擬似ナンバー・アナウンス機能（#3）の操作はできません。
※各種設定（#1 ,#4 ,#5）の操作中に電話がかかってきた場合、操作をしている電話機で受けることはできません。
※設定コードの具体的な内容については、「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　ATコマンド／設定コードリファレンス」〈P.51〉、「アナログ機能用　ATコマンド／設定コードリファレンス」〈P.52〉、「本体設定用　ATコマンド／設定コードリファレンス」〈P.65〉、「全設定消去用　ATコマンド／設定コード」〈P.99〉を参照してください。

◎操作モード一覧

操作モード	モード番号
ルータ機能／アナログ機能／本体の設定、全設定消去	#1
ルータ機能／アナログ機能／本体の設定確認	#2
アナログ　擬似ナンバー・アナウンス機能	#3
アナログ　電話帳への登録、削除	#4
アナログ　プリフィックス機能の設定	#5

◎操作方法

ルータ機能／アナログ機能／本体の設定、全設定消去（#1）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［1］
4. ［設定コード］
5. ［パラメータ］
6. ［#］
7. 受話器を置く　→操作終了

※続けて設定するときは、4以降の操作を繰り返してください。

ルータ機能／アナログ機能／本体の設定確認（#2）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［2］
4. ［設定コード］
5. ［パラメータ］
6. ［#］
7. 設定内容を音声でアナウンス、液晶ディスプレイに表示
8. 受話器を置く　→操作終了

※続けて確認するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　擬似ナンバー・アナウンス機能（#3）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［3］
4. ［#］
5. 最新の番号を音声でアナウンス
6. ［#］　→次の番号を音声でアナウンス
   ［0］［#］　→折り返しダイヤル
   受話器を置く　→操作終了

※続けてアナウンスを聞くときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　電話帳の登録（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［0］
5. ［短縮番号（1〜128）］［#］
6. ［フリガナ（12文字まで）］［#］
7. ［電話番号（32桁まで）］［#］
8. ［サブアドレス（19桁まで）］［#］
9. ［グループ番号（1〜10）］［#］
10. ［アナログポート1の着信方法（0〜4）］［#］
11. ［アナログポート2/3の着信方法（0〜4）］［#］
12. ［発信ポート（1〜2）］［#］
13. ［アナログポート1の話中着信（0〜1）］［#］
14. ［アナログポート2/3の話中着信（0〜1）］［#］
15. ［#］
16. 受話器を置く　→操作終了

※続けて登録するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　電話帳の登録（擬似ナンバー・リクエスト）（#4）

・短縮番号の割り当て

項目	短縮番号
通知あり：登録以外	993
通知なし：ユーザ拒否（P）	994
通知なし：公衆電話（C）	995
通知なし：表示圏外（O）	996
通知なし：表示圏外（S）	997
通知なし：理由なし	998
なりわけサービス	999

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［0］
5. ［短縮番号（993〜999）］［#］
6. ［アナログポート1の着信方法（0〜4）］［#］
7. ［アナログポート2/3の着信方法（0〜4）］［#］
8. ［アナログポート1の話中着信（0〜1）］［#］
9. ［アナログポート2/3の話中着信（0〜1）］［#］
10. ［#］
11. 受話器を置く　→操作終了

※続けて登録するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　電話帳の削除（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［1］
5. ［短縮番号（1〜128）］［#］
6. ［#］
7. 受話器を置く　→操作終了

※続けて削除するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　電話帳の登録内容確認、発信（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［2］
5. ［短縮番号（1〜128）］［#］
6. 登録内容表示
7. ［0］　→発信
   ［2］　→1つ前の短縮番号の内容表示
   ［8］　→次の短縮番号の内容表示
   受話器を置く　→操作終了

アナログ　電話帳のグループ名登録（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［3］
5. ［グループ番号（1〜10）］［#］
6. ［グループ名（12文字まで）］［#］
7. ［プリ・ダイヤルの使用／不使用（0〜5）］［#］
8. ［#］
9. 受話器を置く　→操作終了

※続けて登録するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　電話帳のグループ名削除（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［4］
5. ［グループ番号（1〜10）］［#］
6. ［#］
7. 受話器を置く　→操作終了

※続けて削除するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　電話帳の発信自動登録の設定（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［5］
5. ［発信自動登録のパラメータ（0〜1）］［#］
6. ［短縮番号・始め（1〜128）］［#］
7. ［短縮番号・終わり（1〜128）］［#］
8. 受話器を置く　→操作終了

アナログ　電話帳の着信自動登録の設定（#4）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［4］
4. ［6］
5. ［着信自動登録のパラメータ（0〜5）］［#］
6. ［短縮番号・始め（1〜128）］［#］
7. ［短縮番号・終わり（1〜128）］［#］
8. 受話器を置く　→操作終了

アナログ　プリ・ダイヤル番号の登録（#5）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［5］
4. ［0］
5. ［プリ・ダイヤル登録番号（1〜5）］［#］
6. ［プリ・ダイヤル番号（32桁まで）］［#］
7. ［#］
8. 受話器を置く　→操作終了

※続けて登録するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　プリ・ダイヤル番号の削除（#5）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［5］
4. ［1］
5. ［プリ・ダイヤル登録番号（1〜5）］［#］
7. ［#］
8. 受話器を置く　→操作終了

※続けて削除するときは、4以降の操作を繰り返してください。

アナログ　プリ・ダイヤルの設定（#5）

1. 受話器を上げる
2. ［フック］
3. ［#］［5］
4. ［2］
5. ［プリ・ダイヤルの使用／不使用（0〜5）］［#］
7. ［#］
8. 受話器を置く　→操作終了

◎文字の入力について

・入力できる文字

電話機からは、カタカナと英数字を入力できます。
電話機の各ボタンに対して、下図のように文字が割り当てられています。
［＊］ボタンは、入力した文字を消去するときに使います。
［#］ボタンは、そのフィールドへの入力を終了するときに使います。

ボタン	割り当て文字
［1］	ア イ ウ エ オ ァ ィ ゥ ェ ォ 1
［2］	カ キ ク ケ コ A B C a b c 2
［3］	サ シ ス セ ソ D E F d e f 3
［4］	タ チ ツ テ ト ッ G H I g h i 4
［5］	ナ ニ ヌ ネ ノ J K L j k l 5
［6］	ハ ヒ フ ヘ ホ M N O m n o 6
［7］	マ ミ ム メ モ P Q R S p q r s 7
［8］	ヤ ユ ヨ ャ ュ ョ T U V t u v
［9］	ラ リ ル レ ロ W X Y Z w x y z 9
［0］	ワ ヲ ン ゛ ゜ ー （ｽﾍﾟｰｽ） 0
［＊］	左へ移動（左側の文字は消去されます。）
［#］	入力終了

・文字を入力するには

1. 入力したい文字が割り当てられたボタンを押します。
そのボタンに割り当てられた文字が順番に表示されます。
例）　サ→シ→ス→セ→ソ→D→E→F→d→e→f→3
入力したい文字が表示されたところで止めます。
2. 次の文字を入力するときは、続けて別のボタンを押します。同じボタンに割り当てられた文字を入力するときは、［#］ボタンを押してからボタンを押します。
例）「アメ」と入力するとき：［1］［7］［7］［7］［7］
「カキ」と入力するとき：［2］［#］［2］［2］

・文字を修正・消去するには

ここでは例として「ヤマモトハナコ」を「ヤマダハナコ」に修正します。

1. 入力中に［＊］ボタンを押すと、左端の文字が消去され、カーソルが表示されます。

ﾔﾏﾓﾄﾊﾅ█

2. 続けて［＊］ボタンを押すと、カーソルの左側の文字が1つずつ消去されます。
消したい文字が消えるまでボタンを押し続けます。

ﾔﾏ█

3. 修正するときは、カーソルのある位置から新たに文字を入力します。

ﾔﾏﾀﾞﾊﾅｺ

ATコマンド・設定コード早見表（ルータ機能用／アナログ機能用／本体設定用／全設定消去用）

※太字は、購入時の値を意味します。

◎ルータ機能用 ATコマンド・設定コード

機能	ATコマンド	設定コード	書式	パラメータ
IPアドレス/サブネットマスク長の設定	*C	#1	AT*C{address}/{subnetmask} #1{address}#{subnetmask}	{address}　IPアドレス {subnetmask}　サブネットマスク長
IPアドレス/サブネットマスク長の表示	*C?	－	AT*C?	－

◎アナログ機能用 ATコマンド・設定コード

機能	ATコマンド	設定コード	書式	パラメータ
設定の初期化	@A	21	AT@An 21n	n=0　フラッシュメモリの内容へ初期化（ATコマンドのみ） n=1　購入時の内容へ初期化
設定の保存	@B	－	AT@B	－
設定の表示	@C	－	AT@Cn	n=0　ポートごとおよびポート共通の設定をするコマンドで設定した内容の一覧を表示 n=2　ダイヤルイン登録番号ごとに設定するコマンドで設定した内容の一覧を表示
ポート接続機器の設定	@E	32	AT@Er=n［p］ 32rn［p］	r=1～2　ポート番号 n=0　電話 n=1　モデム/FAX機能付電話 n=2　ファクシミリ n=3　ファクシミリ（サイレントFAX1） n=4　ファクシミリ（サイレントFAX2） p=0　ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイを利用しない p=1　ナンバー・ディスプレイのみ利用する p=2　ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイを両方とも使用する
機能ボタンの設定	@F	33	AT@Fr=n 33rn	r=1～2　ポート番号 n / 発信開始 / サブアドレス指定 0 / / 1 / / ＊ 2 / ＊ / 4 / / ＃ 5 / / ＃＊ n / 発信開始 / サブアドレス指定 6 / ＊ / ＃ 8 / ＃ / 9 / ＃ / ＊ 10 / ＃＊ /
ダイヤル終了から発信までの待ち時間の設定（桁間タイマ）	@G	41	AT@Gr=n 41rn	r=1～2　ポート番号 n=3～50（初期値=5）　待ち時間（秒）
内線呼び出し音の選択	@H	42	AT@Hr=n 42rn	r=1～2　ポート番号 n=0　呼び出し音1（リーン・リーン） n=1　呼び出し音2（リーンリン・リーンリン） n=2　呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン）
契約者回線番号およびダイヤルイン番号の登録	@I	43	AT@Iq=s 43qs	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 s=数字　契約者回線番号、ダイヤルイン番号（32桁まで）
サブアドレスの登録	@J	51	AT@Jqr=s 51qrs	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 r=1～2　ポート番号 s=数字　サブアドレス（19桁まで）
着信ポートの設定	@K	52	AT@Kq=n 52qn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 n=0　どのポートにも着信しない n=1　ポート1に着信 n=2　ポート2/3に着信 n=3　すべてのポートに着信 n=4　空きポートに着信（ポート1に優先着信）　※「#B/25」で時間差設定 n=5　空きポートに着信（ポート2/3に優先着信）　※「#B/25」で時間差設定
外線呼び出し音の選択	@	61	AT@Mqr=n 61qrn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 r=1～2　ポート番号 n=0　呼び出し音1（リーン・リーン～） n=1　呼び出し音2（リーンリン・リーンリン～） n=2　呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン～） n=3　無鳴動着信
話中着信の設定	@N	62	AT@Nqr=n 62qrn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 r=1～2　ポート番号 n=0　話中着信しない n=1　話中着信する
擬似フレックスホンの設定	@O	63	AT@On 63n	n=0　どちらも利用しない n=1　マルチアンサーのみ利用する n=2　通話中発信のみ利用する n=3　マルチアンサーと通話中発信を利用する
フレックスホンの設定	@P	71	AT@Pn 71n	n / キャッチホン / 通信中転送 / 三者通話 / 着信転送 0 （すべての機能利用不可） 1 / / / / ○ 2 / / / ○ / 3 / / / ○ / ○ 4 / / ○ / / 5 / / ○ / / ○ 6 / / ○ / ○ / 7 / / ○ / ○ / ○ n / キャッチホン / 通信中転送 / 三者通話 / 着信転送 8 / ○ / / / 9 / ○ / / / ○ 10 / ○ / / ○ / 11 / ○ / / ○ / ○ 12 / ○ / ○ / / 13 / ○ / ○ / / ○ 14 / ○ / ○ / ○ / 15 / ○ / ○ / ○ / ○
着信転送番号の登録	@Q	01	AT@Qq=s 01qs	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 s=数字　転送先の回線番号（32桁まで）
グローバル着信の設定	@R	72	AT@Rn 72n	n=0　しない n=1　する（通常はこのままご使用ください）
内線の直接発信	@S	73	AT@Sn 73n	n=0　しない n=1　する

◎アナログ機能用 ATコマンド・設定コード　続き

機能	AT コマンド	設定 コード	書式	パラメータ
発信者番号の設定	@T	81	AT@Tr=n 81rn	r=1～2　ポート番号 n=0　契約者回線番号（INSネット64網から番号設定） n=1　ダイヤルイン登録番号1に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定） n=2　ダイヤルイン登録番号2に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定） n=3　ダイヤルイン登録番号3に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定） n=4　ダイヤルイン登録番号0に登録したダイヤルイン番号（本製品から番号設定）
リソースBOD機能による アナログ機器優先使用の 設定	@U	82	AT@Un 82n	n=0　アナログ機器にはBチャネルを割り当てない（リソースBOD機能を使用しない） n=1　アナログ機器から発信するときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する） n=2　アナログ機器に着信要求があったときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する） n=3　アナログ機器の発着信があったとき、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する）
発信者番号通知の設定	@Y	93	AT@Yr=n 93rn	r=1～2　ポート番号 n=0　NTTとの契約による n=1　通常通知 n=2　通常非通知
停電モード時の動作の 設定	*A	―	AT*An	n=0　オンフック時給電停止 n=1　オンフック時通常給電
音量の調節	#A	24	AT#Arm=n 24rmn	r=1～2　ポート番号 m=0　送信の音量をnで設定する m=1　受信の音量をnで設定する n=1　ボリューム1（最小） n=2　ボリューム2（小） n=3　ボリューム3（標準） n=4　ボリューム4（大） n=5　ボリューム5（最大）
着信時の優先着信時間の 設定	#B	25	AT#Bq=n 25qn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 n=0　時間差をつけた呼び出しはしない n=1　5秒　n=6　30秒　n=11　55秒　n=16　120秒 n=2　10秒　n=7　35秒　n=12　60秒　n=17　135秒 n=3　15秒　n=8　40秒　n=13　75秒　n=18　150秒 n=4　20秒　n=9　45秒　n=14　90秒　n=19　165秒 n=5　25秒　n=10　50秒　n=15　105秒
サブアドレスグローバル 着信の設定	#C	26	AT#Cqr=n 26qrn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 r=1～2　ポート番号 n=0　サブアドレスグローバル着信しない n=1　サブアドレスグローバル着信する
フッキングのタイミングの 設定	#D	34	AT#Dn 34n	n=0　フッキングを利用する（瞬断判定200ms、オンフック判定1100ms） n=1　フッキングを利用する（瞬断判定300ms、オンフック判定1100ms） n=2　フッキングを利用しない（瞬断判定200ms、オンフック判定200ms） n=3　フッキングを利用しない（瞬断判定300ms、オンフック判定300ms）
RVS-COMモードの設定	#E	35	AT#Eq=n 35qn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 n=0　アナログ機器の操作で転送する、または指定時間後に自動転送する ※自動転送するまでの時間は「#F/36」で設定 n=1　ただちに自動転送する（アナログポートには着信しない）
RVS-COMモードへの 移行時間の設定	#F	36	AT#Fq=n 36qn	q=0～3　ダイヤルイン登録番号 n=0　無応答時転送しない n=1　5秒　n=6　30秒　n=11　55秒　n=16　120秒 n=2　10秒　n=7　35秒　n=12　60秒　n=17　135秒 n=3　15秒　n=8　40秒　n=13　75秒　n=18　150秒 n=4　20秒　n=9　45秒　n=14　90秒　n=19　165秒 n=5　25秒　n=10　50秒　n=15　105秒
グローバル着信時の 着番号通知の設定	#G	44	AT#Gn 44n	n=0　着番号を通知しない n=1　ダイヤルイン登録番号0に登録した番号を通知する n=2　ダイヤルイン登録番号1に登録した番号を通知する n=3　ダイヤルイン登録番号2に登録した番号を通知する n=4　ダイヤルイン登録番号3に登録した番号を通知する
ｉ・ナンバー利用モード の設定	#M	64	AT#Mn 64n	n=0　かんたんモードで利用する n=1　カスタマイズモードで利用する n=2　利用しない
発信時のポート接続機器 の設定	#S	76	AT#Sr=n 76rn	r=1～2　ポート番号 n=0　電話 n=1　モデム/FAX機能付電話 n=2　ファクシミリ n=9　@Eの設定に従う

◎本体設定用 ATコマンド・設定コード

機能	AT コマンド	設定 コード	書式	パラメータ
日付・時刻の設定	―	#0	#0s	s=数字　年/月/日/時（19桁まで）　※年/月/日/時の区切りとして「#」を入力
回線接続中の液晶表示の 設定	*E	#3	AT*En #3n	n=0　経過時間のみ表示 n=1　接続直後は相手先の電話番号を表示し、5秒以降は経過時間のみ表示 n=2　常に相手先の電話番号と経過時間を3秒ごとに交互に表示
液晶表示の設定の表示	*E?	―	AT*E?	―
液晶バックライトの設定	*F	#4	AT*Fn #4n	n=0　液晶表示の変化後約10秒間点灯し、その後消灯する n=1　常に消灯する n=2　常に点灯する n=3　液晶表示の変化後約10秒間点灯しその後消灯する、回線使用中は常に点灯する
液晶バックライトの設定の表示	*F?	―	AT*F?	―

◎全設定消去用 ATコマンド・設定コード

機能	ATコマンド	設定コード	書式	パラメータ
設定/情報の消去	*D	#2	AT*Dn #2n	n=0　ルータ機能の設定の消去 n=1　TA機能の設定の消去 n=2　アナログ機能の設定の消去 n=3　接続/切断ログ情報の消去 n=4　通信料金情報の消去 n=5　自動接続制限情報の消去 n=99 上記の全設定/情報の消去

ATコマンド早見表（TA機能用）

※太字は、購入時の値を意味します。

◎TA機能用 ATコマンド

機能	ATコマンド	書式	パラメータ
手動着信実行	A	ATA	―
直前に入力したコマンドの再実行	A/	A/	―
発信	D	ATD{回線番号}[*{サブアドレス}][Sn] ATDS=n[Sn] ATDL[Sn]	{回線番号}　数字　相手先の回線番号（32桁まで） *　サブアドレス指定キャラクタ {サブアドレス}　数字またはアルファベット　相手先のサブアドレス（19桁まで） S=n　「&Z」で登録した回線番号に発信 n=0～9 L　最後に発信した宛先へ発信 Sn　TA間の通信速度を設定（単位：bps） n=5　9600　n=9　32000　n=13　32000/64000 n=7　19200　n=10　56000　(PIAFSVer.2.1) n=8　38400　n=12　64000　n=14　128000
エコーバックの設定	E	ATEn	n=0　エコーバック無 n=1　エコーバック有
回線の切断	H	ATH	―
製品情報の表示	I	ATIn	n=0　使用可能な最高回線通信速度 n=2　製品名 n=3　ファームウェアバージョン
オンラインモードへ移る	O	ATO	―
応答コード表示の有無	Q	ATQn	n=0　応答コード表示 n=1　応答コード非表示
Sレジスタ関連コマンド	S	1．ATSr? 2．ATSr=n	1．Sレジスタの内容を表示 r=0～255　Sレジスタ番号 2．Sレジスタの内容を設定 r=0～255　Sレジスタ番号 n=0～255、$00～$FF　パラメータ値
応答コード形式の設定	V	ATVn	n=0　数字形式 n=1　単語形式
RINGの表示形式の設定	W	ATWn	n=0　RINGのみ表示 n=1　RINGに発信者番号、サブアドレス情報を付加して表示 n=2　RVS-COMが起動している場合、RINGにRVS-COM対応形式で呼び出し番号、発信者番号、サブアドレス情報を付加して表示
応答コードモードの設定	X	ATXn	n=0　基本応答コード n=1　拡張応答コード1 n=2　拡張応答コード2 n=3　拡張応答コード3
ブレーク信号の設定	Y	ATYn	n=0　何もしない n=1　回線を切断
プロファイルの読み込み	Z	ATZn	n=0　プロファイル０番の内容をSレジスタへ読み込み n=1　プロファイル１番の内容をSレジスタへ読み込み
DCD信号制御の設定	&C	AT&Cn	n=0　DCD信号は常にオン n=1　DCD信号は回線接続中オン
DTR信号オフによる本製品制御の設定	&D	AT&Dn	n=0　何もしない n=1　エスケープモードへ移る n=2　回線を切断 n=3　回線を切断、Sレジスタを初期化
表示速度の設定	&E	AT&En	n=0　回線速度 n=1　DTE通信速度
Sレジスタと初期値のあるコマンドの初期化	&F	AT&F	―
通信モードの設定	&Q	AT&Qn	n=0　V.110 n=2　V.110/DTR n=3　HDLC（無手順） n=4　HDLC（無手順）/DTR n=5　HDLC（PPP、ARA） n=6　HDLC（PPP、ARA）/DTR n=7　V.110/HDLC（PPP、ARA）自動切替
DSR信号制御の設定	&S	AT&Sn	n=0　DSR信号は常にオン n=2　DCDと同じ動作をする
本製品のテスト	&T	AT&Tn	n=0　LEDテスト n=1　RAMテスト n=2　ファームウェアをチェック n=3　S/T点テスト n=4　LCDテスト
登録回線番号の表示	&V	AT&V	―
プロファイルに保存	&W	AT&Wn	n=0　プロファイル0に保存 n=1　プロファイル1に保存
プロファイル選択	&Y	AT&Yn	n=0　プロファイル0の内容を読み込む n=1　プロファイル1の内容を読み込む

◎TA機能用 ATコマンド　続き

機能	ATコマンド	書式	パラメータ
回線番号の登録、消去	&Z	AT&Zn={回線番号}[*{サブアドレス}]	n=0～9　登録番号 {回線番号}　数字　相手先の回線番号（32桁まで） *　サブアドレス指定キャラクタ {サブアドレス}　数字またはアルファベット　相手先のサブアドレス（19桁まで）
フロー制御方式の設定	\Q	AT\Qn	n=0　なし n=1　XON/XOFF n=3　RTS/CTS
TAの状態を表示	\S	AT\Sn	n=0　TA機能の設定内容を表示 n=1　TA機能で通信した課金情報を表示
無通信監視タイマの設定	\T	AT\Tn	n=0　無通信監視しない n=1～255　指定された時間、通信が行われないとき回線を切断（1単位：10秒）
着信時の 最高回線速度の設定	%B	AT%Bn	n=0　着信しない　n=9　32000 n=5　9600　n=10　56000 n=7　19200　n=12　64000 n=8　38400　n=14　128000
全Sレジスタの表示	%R	AT%R	―
ダイヤルイン番号の登録	$C	AT$Cs	s=数字　ダイヤルイン番号（32桁まで）
自サブアドレスの登録	$E	AT$Es	s=数字またはアルファベット　自サブアドレス（19桁まで）
発信時の回線速度の設定	$S	AT$Sn	n=0　DTE通信速度　n=9　32000 n=5　9600　n=10　56000 n=7　19200　n=12　64000 n=8　38400　n=14　128000
通信形式の設定	!A	AT!An	n=0　ATコマンド/Bチャネル回線交換サービスモード n=2　X.28コマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード n=3　ATコマンド/Dチャネルパケット交換サービスモード
発信者番号通知の設定	!B	AT!Bn	n=0　通知しない（「186」を添付した場合、契約者回線番号を通知） n=1　契約者回線番号を通知（「184」を添付した場合、通知しない） n=2　ダイヤルイン番号を通知（「184」を添付した場合、通知しない） n=3　NTTとの契約による n=4　通知しない（「186」を添付した場合、ダイヤルイン番号を通知）
識別着信可否の設定	!C	AT!Cn	n=0　すべて着信 n=1　着信相手を識別して着信
識別着信番号の登録	!D	AT!Dn={回線番号}[*{サブアドレス}]	n=0～9　登録番号 {回線番号}　数字　相手先の回線番号（32桁まで） *　サブアドレス指定キャラクタ {サブアドレス}　数字またはアルファベット　相手先のサブアドレス（19桁まで）
識別着信番号の表示	!D?	AT!D?	―
グローバル着信の設定	!E	AT!En	n=0　しない n=1　する
通信フォーマットの設定	!F	AT!Fn	n=0　8ビットパリティなし n=1　7ビット奇数パリティ n=2　7ビット偶数パリティ
AutoMP機能の設定	!H	AT!Hn	n=0　AutoMP機能を使用しない n=1　「$S」で回線速度が64000bpsに設定されたとき、AutoMP機能を使用する n=2　「$S」で回線速度が128000bpsに設定されたとき、AutoMP機能を使用する
初期接続Bチャネル数の設定	!I	AT!In	n=0　最初に2本のBチャネルを接続する n=1　最初に1本のBチャネルだけで接続する
スループットBOD機能 使用方法の設定	!J	AT!Jn	n=0　Bチャネルの追加、削除は行わない（スループットBOD機能を使用しない） n=1　Bチャネルの追加だけ行う（スループットBOD機能を使用する） n=2　Bチャネルの削除だけ行う（スループットBOD機能を使用する） n=3　Bチャネルの追加と削除の両方を行う（スループットBOD機能を使用する）
スループットBOD追加の 評価方向の設定	!K	AT!Kn	n=0　送信方向と受信方向のどちらかの回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加する n=1　送信方向の回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加する n=2　受信方向の回線利用率がしきい値以上になった場合、Bチャネルを追加する
スループットBOD削除の 評価方向の設定	!L	AT!Ln	n=0　送信と受信の両方向の回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除する n=1　送信方向の回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除する n=2　受信方向の回線利用率がしきい値より低くなった場合、Bチャネルを削除する
ユーザ名とパスワードの 登録	!M	AT!Mn=s	n=0　ユーザ名の登録 n=1　パスワードの登録 s　ターミナルで入力可能な文字列（31文字まで入力可）
ユーザ名とパスワードの表示	!M?	AT!M?	―
AutoBACP機能の設定	!P	AT!Pn	n=0　AutoBACP機能を使用しない n=1　AutoBACP機能を使用する
受信したBAPリクエスト の対処方法の設定	!Q	AT!Qn	n={Bチャネル追加要求}＋{コールバック要求}＋{Bチャネル削除要求} 以下の表を参照して、それぞれのパラメータの和を設定してください。（初期値=21） 　拒否する　本製品が自動応答する Bチャネル追加要求　0　1 コールバック要求　0　4 Bチャネル削除要求　0　16
リソースBOD機能による アナログ機器の 一時的優先使用の設定	!S	AT!Sn	n=0　アナログ機器にはBチャネルを割り当てない（リソースBOD機能を使用しない） n=1　「@U/82」の設定にかかわらず、アナログ機器から発信するときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する） n=2　「@U/82」の設定にかかわらず、アナログ機器に着信要求があったときだけ、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する） n=3　「@U/82」の設定にかかわらず、アナログ機器の発信または着信があったとき、Bチャネルを割り当てる（リソースBOD機能を使用する） n=4　「@U/82」の設定に従う
回線種別の設定	*B	AT*Bn	n=0　INSネット64 n=1　専用線モード1（発信操作後に接続） n=2　専用線モード2（電源ONと同時に接続）

索引

ルータ機能用　設定ページ

アナログ機能用　設定ページ

RVS-COM用　設定ページ

ルータ機能用　ATコマンド・設定コード

アナログ機能用　ATコマンド・設定コード

本体設定用　ATコマンド・設定コード

TA機能用　ATコマンド

TA機能用　X.28コマンド

全設定消去用　ATコマンド・設定コード

MN128-SOHO SL11　リファレンス・ハンドブック

発行日：1999年12月20日　　第4版

発　行：株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー

URL　http://www.ntt-me.co.jp/

株式会社ビー・ユー・ジー

URL　http://www.bug.co.jp/